

**令和元年度
第1回龍ヶ崎市社会教育委員会議**

令和元年9月30日（月）

龍ヶ崎市役所 第1委員会室

目 次

【平成 29 年度事業報告】

1 第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（主要施策の成果報告）

（１）文化・生涯学習課 P 1 ～ 2 7

- 1-1-1 学童保育ルームの充実
- 1-2-2 多様な学習機会の提供・アフタースクール・サタデースクールの充実
- 1-2-3 市民大学講座等の充実
- 2-4-3 教育の日推進事業の充実
- 2-5-1 各種セミナーの開催
- 2-5-1 教育の日推進事業の充実【再掲】
- 2-5-1 相談体制の充実
- 2-5-2 子どもの読書活動の推進
- 2-5-3 児童保育ルームの充実【再掲】
- 2-5-3 多様な学習機会の提供・アフタースクール・サタデースクールの充実【再掲】
- 2-5-4 子どもの交流・活動拠点の充実
- 2-5-4 子ども会活動の活性化
- 2-5-4 子どもの地域活動への参加促進
- 2-5-4 新成人の交流促進
- 2-6-1 人材バンクの充実
- 2-6-1 市民大学講座等の充実【再掲】
- 2-6-1 中央図書館の利便性の向上
- 2-6-1 中央図書館改修工事
- 2-6-1 人権啓発活動の充実
- 2-6-2 文化財の指定及び保護
- 2-6-2 市民遺産の認定
- 2-6-2 歴史的資源などの活用
- 2-6-2 地域文化活動の育成及び支援

* ブレークダウン事項

- 地域の歴史や魅力の再発見 1
- 地域の歴史や魅力の再発見 2
- 地域の歴史や魅力の効果的な発信

（２）スポーツ都市推進課 P 2 8 ～ 3 8

- 1-2-3 総合型地域スポーツクラブの支援
- 1-2-3 トップアスリートの育成
- 2-4-1 部活動の活性化

2-6-3 スポーツ施設の充実

2-6-3 流通経済大学運動部との連携

4-12-1 スポーツ教室・イベントの充実（１）

4-12-1 スポーツ教室・イベントの充実（２）

4-12-1 ニュースポーツの推進

* ブレークダウン事項

● 市民マラソン大会開催の推進

● 総合運動公園の整備計画等に基づくスポーツ環境の整備

（３）国体推進課

P 3 9 ~ 4 2

1-2-3 スポーツによる交流人口の増加

* ブレークダウン事項

● 生涯スポーツの促進と交流人口の増加

● 茨城国体のレガシー醸成

2 龍ヶ崎市教育委員会の事務に関する点検評価報告書

P 4 3

（１）文化・生涯学習課

P 4 4 ~ 7 5

1-(1)-12 郷土学習の推進

1-(1)-15 部活動の活性化

1-(3)-24 教育の日推進事業の充実

2-(1)-41 各種セミナーの開催

2-(1)-42 相談体制の充実

2-(1)-43 基本的な生活習慣の定着

2-(1)-44 教育の日推進事業の充実【再掲】

2-(3)-49 学童保育ルームの充実

2-(3)-50 アフタースクール・サタデースクールの充実

2-(3)-51 青少年センターの充実

2-(4)-52 子どもの交流・活動拠点の充実

2-(4)-53 子ども会活動の活性化

2-(4)-54 子どもの地域活動への参加促進

2-(4)-55 新成人の交流促進

3-(1)-56 中央図書館の利便性の向上

3-(1)-57 読書・学習環境の充実

3-(1)-58 子どもの読書活動の推進

3-(1)-59 流通経済大学の図書館との連携強化

3-(2)-60 人材バンクの充実

3-(2)-62 生涯学習講座等の充実

3-(2)-64 出前講座の充実

3-(3)-65 人権啓発活動の充実

- 4-(1)-68 地域文化活動の育成及び支援
- 4-(1)-69 文化会館の利便性の向上
- 4-(1)-70 鑑賞・招聘型文化活動の充実
- 4-(2)-71 文化財の指定及び保護
- 4-(2)-72 市民遺産の認定
- 4-(2)-73 歴史資源などの活用
- 4-(3)-74 歴史民俗資料館の利活用の向上
- 4-(3)-75 体験学習の充実
- 4-(3)-76 郷土史の普及促進

(2) スポーツ都市推進課 P 7 6 ~ 8 7

- 5-(1)-77 流通経済大学運動部との連携
- 5-(1)-78 トップアスリートの育成
- 5-(1)-79 スポーツボランティアの充実
- 5-(2)-81 スポーツ施設の充実
- 5-(2)-82 スポーツボランティアの充実【再掲】
- 5-(2)-83 スポーツ情報発信の充実
- 5-(3)-84 スポーツ教室・イベントの充実
- 5-(3)-85 スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブの支援
- 5-(3)-86 ニュースポーツの推進
- 5-(4)-87 スポーツ指導者の育成
- 5-(4)-88 トップアスリートの育成【再掲】

(3) 国体推進課 P 8 8 ~ 8 9

- 5-(4)-90 スポーツによる交流人口増加

【令和元年度事業計画】 P 9 0

1 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（主要施策） P 9 1

(1) 文化・生涯学習課 P 9 2 ~ 1 0 5

- 1-1-1-2 学童保育ルームの充実
- 1-2-2-1 多様な学習機会の提供
- 2-4-3-2 教育の日推進事業の充実
- 2-5-1-1 各種セミナーの開催
- 2-5-1-3 相談体制の充実
- 2-5-2-3 子どもの読書活動の推進
- 2-5-4-1 子どもの交流・活動拠点の充実
- 2-5-4-3 子どもの地域活動への参加促進
- 2-6-1-1 第九コンサート
- 2-6-1-1 人権啓発活動の充実
- 2-6-2-2 市民遺産の認定

2-6-2-3 歴史的資源などの活用

* ブレークダウン事項

● 祭礼等の保存継承

(2) スポーツ都市推進課

P 1 0 6 ~ 1 1 4

1-2-3-2 総合型地域スポーツクラブの支援

1-2-3-3 トップアスリートの育成

2-4-1-6 部活動の活性化

2-6-3-2 流通経済大学運動部との連携

4-12-1-3 ニュースポーツの推進

4-12-1-4 マラソン大会開催の推進

4-12-1-5 旧北文間小の跡地を活用したスポーツ拠点の整備

* ブレークダウン事項

● ジュニアアスリートの育成支援

(3) 国体推進課

P 1 1 5 ~ 1 1 8

1-2-3-4 スポーツによる交流人口の増加

* ブレークダウン事項

● 茨城国体等のレガシー醸成

(1) 文化・生涯学習課

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	1	若い世代の希望の実現「若者・子育て世代の定住環境の創出」				
目 標	1	子育て環境日本一【重点目標】				
施 策	1	「子どもと住みたい龍ヶ崎」の実現				
事業名	学童保育ルームの充実					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	保育需要や保護者のニーズに対応した適正なサービス量を確認し、学童保育や学習支援などの充実に努めます。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.A-1-2 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-1					
活動実績及び成果	・本年度の学童保育ルームの待機児童数0人を維持している。 ・11小学校で学校の余裕教室や専用施設により、適正に運営している。(27保育ルーム) ・保育ルーム支援員等に対し、スキルアップのための研修会を行った。 [市主催] 日時:5月29日(火) 場所:市役所附属棟1階第1会議室 演題:『メンタルヘルスセミナー』 講師:人事課 産業保健師 牧山夕姫氏 (79名参加) 日時:11月16日(金) 場所:市役所附属棟1階第1会議室 講演:『気になる行動をするお子さんの具体的な支援』 講師:県立医療大学作業療法士 大島 隆一郎氏 (56名参加) [県主催] ・放課後児童支援員認定資格研修 日時:9月11日～26日(全4回) 土浦市県南生涯学習センター(26名参加) ・放課後子ども総合プラン研修会(中堅者向け) 日時:1月24日、2月5日、2月9日 土浦市県南生涯学習センター(12名参加) ・今後も待機児童数0人を維持し、保育ルーム支援員等のスキルアップを行い、児童・保護者への適切な対応、安全管理に努めていく。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	158,509,106	164,186,667	0	0	0
	事業費	142,547,573	148,762,592	0	0	0
	人件費	15,961,533	15,424,075	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	2,047	2,130	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	35,498,000	34,857,000	0	0	0
	県支出金	31,654,000	32,950,000	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	45,082,550	47,361,650	0	0	0
一般財源	46,274,556	49,018,017	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	登録児童数及び保育ルームのクラブ数は年々増加傾向にあり、保護者の就労率などの増加によりに事業へのニーズも高まっている。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☒ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない	児童数の増加に対応するため、特に長期休業中などは、学校の教室を借用するなどし、適正に運営することが出来た。また支援員等の研修会についても児童への対応についてのスキルアップを図るためには有効である。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☒ 見直しが必要	放課後子ども総合プランとして児童クラブと放課後子供教室の一体型の事業運営を考えた場合、見直しが必要かと思われる。また、支援員の確保を含めた労務管理が年々困難かつ多様化し、運営形態を検討していく必要がある。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 核家族化、共働き家庭の増加に伴い、本事業のニーズが年々高まっていることから、継続して実施していくことが必要である。一方で、支援員の慢性的な不足状況が見られることから、抜本的な運営形態の見直しを検討する必要がある。				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	1	若い世代の希望の実現「若者・子育て世代の定住環境の創出」					
	2	住んでみたいと感じるまちづくり					
	2	特色ある教育環境の創造					
	多様な学習機会の提供・アフタースクール・サタデースクールの充実						
担当課	文化・生涯学習課						
事業の概要・目的	アフタースクールやサタデースクールなど、多様な学習機会を提供します。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.B-3-2 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-2						
活動実績及び成果	アフタースクール・サタデースクールの実施 ・対象学年を第3学年から第6学年に絞り、民間事業者のノウハウを活用し、児童の自主学習の習慣を身に付ける場として、また児童の自主性・社会性を育み、充実したスクール運営を行った。 ・サタデースクール(八原・馴染・城ノ内):17~19回 ・アフタースクール(龍ヶ崎・大宮・川原代・龍ヶ崎西・松葉・長山・馴染台・久保台):15~17回 ・参加した児童や保護者のアンケート結果からは、7割以上が満足していると回答している。またサタデースクールの体験活動は、普段経験したことのないような活動ができ、9割以上が楽しいと回答している。 【サタデースクール体験活動実績】 移動プラネタリウム/オリジナルメダルづくり/サッカー教室/キックボクササイズ/スライム作り/縄跳びストロー作り/ビーズ教室/スライム作り/パネルシアター/七夕工作/ハロウィン工作 ・アフタースクールでは学習を苦手としている児童もいるが、異学年で学び合うことやゲーム形式での学習を取り入れることで、集中して取り組むことができる児童が増えたことが成果として感じられた。						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		16,516,930	14,274,578	0	0	0
	事業費		10,254,510	9,593,640	0	0	0
	人件費		6,262,420	4,680,938	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)		77,078	213	185	0	0
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		3,024,000	3,048,000	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		13,492,930	11,226,578	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		本事業は、地域の教育力向上の観点、さらには学習会の提供、学習習慣の定着等の観点からも、その推進を図ることが必要であり、地域社会全体で子どもの豊かな人間性を養っていくための重要な事業である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	□ 有効である ■ 概ね有効である □ 有効でない		本事業への参加を通じて、放課後や土曜の時間帯に学習する機会を提供することにより、学習習慣の定着が図れること、また、体験的な学習を取り入れるなど、子どもの居場所としての機能も発揮している。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要		本事業は、民間事業者への業務委託により実施しており、人材の確保や学習内容、体験学習などの活動プログラムの企画・立案、講師の確保等について、多様なネットワークと豊富な知識で事業を展開していることから効率的である。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					
		参加する児童が、安心・安全な環境で参加できる実施形態を検討し、かつ児童が満足できるような学習活動・体験活動としていきたい。また、学校や児童保育ルームとの十分な連携や、特別な支援を要する児童への対応を検討していく必要がある。児童が楽しみながら学ぶ経験ができるよう、引き続き学習だけでなく、体験的な活動を取り入れていきたい。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	1	若い世代の希望の実現「若者・子育て世代の定住環境の創出」					
	2	住んでみたいと感じるまちづくり					
	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進					
	市民大学講座等の充実						
担当課	企画課／文化・生涯学習課						
事業の概要・目的	大学等との連携により、市民ニーズに応える専門性の高い講座を実施します。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.B-4-3 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-2-2、3-2-3						
活動実績及び成果	(1) 私立大学生生涯学習プログラムによる講演会の開催 ① 東洋大学生生涯学習プログラムによる講演会の開催 (37名参加) ・講座テーマ: 江戸幕府の成立と徳川三代 ・講師: 東洋大学 大野瑞男名誉教授 ・開催日: 9月27日(木)・会場: 中央図書館 鑑賞室 ② 古民家再生についての講座開催 (20名参加) ・講座テーマ: 古民家再生から見えてくること ・講師: 一級建築士 吉田良一(吉田建築計画事務所) ・開催日: 10月14日(土) ・会場: 中央図書館 鑑賞室 (2) 中級者のための英会話講座「トラベル英会話」(6月～7月 全5回 21名参加) 講師: 元 社会学部教授 岡野ジェンキンスロビン氏 (3) 中級者のための英会話講座「英語で学ぶ国際マナー」(11月～12月 全5回 15名参加) 講師: 元 社会学部教授 岡野ジェンキンスロビン氏 (4) 大学文化祭(10月27日・28日)と連動した秋の特別講座「安心・安全なまち@魅力あるまち展」 ① 「防災・減災日本一」を目指す取組として、本市とスポーツ健康科学部の龍崎教授ゼミが連携し、防災に関する展示会及び講演会を開催。(30名参加) ・パネル展示: 当市で発生した災害や他自治体への災害支援等の写真パネル展示及び当市優先供給協定連携の「段ボールベッド」展示。 ・講演: 当市危機管理監による「龍ヶ崎市の自然災害への備え～取組の現状、課題及び今後の展望～」(10月28日)						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		534,597	867,555	0	0	0
	事業費		0	23,451	0	0	0
	人件費		534,597	844,104	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)		77,078	7	11	0	0
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		534,597	867,555	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		高度な内容の学習機会を市民に提供するため、大学教授等専門性の高い講師による講座の提供が必要である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	□ 有効である ■ 概ね有効である □ 有効でない		大学と連携した魅力ある講座を毎年開催しており、有効な事業である。更に多くの市民の方に参加いただけるよう魅力あるテーマや参加しやすい開催日時について、大学と協議しながら、引き続き検討していく。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要		参加費について、テキスト代等が発生する場合には、実費相当分を徴収している。講座の開催にあたっては、大学との調整等効率的に事務を行っている。		
今後の方向性		■ 継続 □ 拡充 □ 改善 □ 廃止 東洋大学の講座については、来年度の応募資格がないため、講師の確保等、継続的な講座の実施に向けて準備を進める。 市民ニーズを把握するために実施した市WEBモニターを活用したアンケート調査結果を参考とし、既存講座の見直しや魅力ある新規講座の開講について、今後も継続して検討していく。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
	4	龍の子の生きる力を育むまちづくり				
	3	魅力があり、信頼される学校づくりの推進				
事業名	教育の日推進事業の充実					
担当課	文化・生涯学習課／指導課					
事業の概要・目的	11月5日「龍ヶ崎教育の日」、11月の「龍ヶ崎教育月間」を中心に龍ヶ崎教育の日推進事業を展開することで、市民の教育に対する関心と理解を深めるとともに、明日の龍ヶ崎市を担う心豊かでたくましい子どもを育成します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.1-3-3、2-1-4					
活動実績及び成果	(1) 実行委員会の開催 ① 平成30年7月18日(水) 第1回実行委員会開催 ・実行委員長挨拶 ・実行委員の紹介 ・平成30年度事業案 ・平成30年度予算案の協議 ② 平成31年1月24日(木) 第2回実行委員会開催 ・平成30年度事業報告 ・平成30年度決算 ・平成31年度事業実施に向けて (2) 子どもが主役！魅力ある学校づくり推進事業 平成30年度～平成32年度 基本テーマ「つながろう つたえよう みんなの心 みんなの笑顔」 ～10年後の龍ヶ崎の未来を見通した地域貢献活動～ ① 「たつのプロジェクト」参観 ・市内小中学校、幼稚園、保育所(園)において、「龍ヶ崎市教育の日」前後の11月第1週を中心に自由参観日を設定し、学校の様子を公開した。 ・11月の「龍ヶ崎教育月間」に教育の日関連事業として様々な学校行事を実施し、保護者や地域の方々も含めた多くの方々に児童生徒の活動の様子を参観する機会を設定した。 ② たつのこフォーラム ・中学校区ごとに小学生を招いてフォーラムを開催し、地域貢献活動の実践報告や今後、自分たちができることを話し合ったりした。報告された取り組みをベースとして、2年目、3年目へと発展した取り組みとなることが期待される。 (3) 広報活動 ① ポスター、チラシ、広報誌及び公式ホームページ、佐貫駅東口デジタルサイネージでの周知 ② 横断幕、のぼり旗の設置 ③ 専用ブースの設置：たつのこアリーナ、中央図書館、文化会館、歴史民俗資料館等 (4) 教育講演会の開催 流通経済大学教授 龍崎 孝 氏					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	4,619,227	4,308,542	0	0	0
	事業費	266,082	241,497	0	0	0
	人件費	4,353,145	4,067,045	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	60	56	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	4,619,227	4,308,542	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	市民の教育に対する関心と理解を深めるにあたり、学校・地域・家庭が連携し、教育の日推進事業を展開し、より良い教育環境を整備することが必要である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	各教育関係機関による、教育の日関連事業の実施により、市民一人ひとりの教育に対する興味・関心と理解を深めることができ、大変有効であると考えます。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	関係機関ごとに実施される事業は、それぞれ成果が出ている。コスト面では、主要事業でも比較的成本のかからない内容であることから効率的と考えます。		
今後の方向性	■継続 □拡充 □改善 □廃止 明日の龍ヶ崎を担う心豊かでたくましい子どもたちを育成するため、11月5日の「龍ヶ崎教育の日」、11月の「教育月間」を中心に「市民みんなで子どもたちの教育について考える日」と位置づけ、さらに学校・地域・家庭が連携して龍ヶ崎教育の日推進事業を展開することとする。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	1	家庭の教育力の向上				
事業名	各種セミナーの開催					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	子どもを持つ親たちの学習や交流の場の提供として、子育てふれあいセミナー等を開催します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-1-1					
活動実績及び成果	・市内の小学校低学年の保護者を対象に、「子育てふれあいセミナー」(家庭教育学級)を開講。 ① 開講式 平成30年5月15日:市役所附属棟第1会議室 「リビングでできる“生きる力”育て」～子どもからのサインをキャッチ～ 富澤 優江 氏 ② 全体研修会 平成30年7月11日:市役所附属棟第1会議室 「見えますか子どもの心 聴こえますか声なき声笑顔で子育て」～五徳の美人に学ぶ親子のかかわり～ 大森 猛 氏 ③ 移動交流学習 平成30年10月17日:大洗めんたいパーク工場 外 セミナー生同士の交流を深めるため、市バスを利用した移動交流学習を行った。 ④ 開講式 平成31年2月21日:龍ヶ崎コミュニティセンター 多目的室 子どもの「人ちから」をつける ～転んでもいい!立ち上がる力をつけよう～ 柳田 尚久 氏 参加者数 延べ 約800人					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	2,552,279	2,729,312	0	0	0
	事業費	2,017,682	2,038,682	0	0	0
	人件費	534,597	690,630	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	33	35	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	2,552,279	2,729,312	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	子どもを持つ親たちの子育てへの不安や悩みを解消し、家庭教育の理解と重要性の認識を向上させることで家庭教育の推進を図ることが出来た。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	子育てへの不安や悩みを解消し、家庭教育の理解と重要性の認識を向上させることで家庭教育の推進を図ることが出来た。またセミナーを通しての学びや、セミナー生相互の交流で得た体験を子育てや親としての成長に生かすことが出来る。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	事業の周知・情報発信の充実を図り、各学校の担当役員のみならず、多くの受講生の確保が出来た		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				
		各学校の子育てふれあいセミナー担当(教頭)と連携しながら、小学校低学年の保護者を対象に事業を実施する。家庭教育の重要性を理解し、日頃の子育てに役立てることが出来るようなセミナーを検討していく。平日開催のため、仕事をしている保護者の参加促進が課題である。				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	1	家庭の教育力の向上				
事業名	教育の日推進事業の充実【再掲】					
担当課	文化・生涯学習課／指導課					
事業の概要・目的	11月5日「龍ヶ崎教育の日」、11月の「龍ヶ崎教育月間」を中心に龍ヶ崎教育の日推進事業を展開することで、市民の教育に対する関心と理解を深めるとともに、明日の龍ヶ崎市を担う心豊かでたくましい子どもを育成します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業№.1-3-3、2-1-4					
活動実績及び成果	(1) 実行委員会の開催 ① 平成30年7月18日(水) 第1回実行委員会開催 ・実行委員長挨拶 ・実行委員の紹介 ・平成30年度事業案 ・平成30年度予算案の協議 ② 平成31年1月24日(木) 第2回実行委員会開催 ・平成30年度事業報告 ・平成30年度決算 ・平成31年度事業実施に向けて (2) 子どもが主役！魅力ある学校づくり推進事業 平成30年度～平成32年度 基本テーマ「つながろう つたえよう みんなの心 みんなの笑顔」 ～10年後の龍ヶ崎の未来を見通した地域貢献活動～ ① 「たつのプロジェクト」参観 ・市内小中学校、幼稚園、保育所(園)において、「龍ヶ崎市教育の日」前後の11月第1週を中心に自由参観日を設定し、学校の様子を公開した。 ・11月の「龍ヶ崎教育月間」に教育の日関連事業として様々な学校行事を実施し、保護者や地域の方々も含めた多くの方々に児童生徒の活動の様子を参観する機会を設定した。 ② たつのこフォーラム ・中学校区ごとに小学生を招いてフォーラムを開催し、地域貢献活動の実践報告や今後、自分たちができることを話し合ったりした。報告された取り組みをベースとして、2年目、3年目へと発展した取り組みとなることが期待される。 (3) 広報活動 ① ポスター、チラシ、広報誌及び公式ホームページ、佐貫駅東口デジタルサイネージでの周知 ② 横断幕、のぼり旗の設置 ③ 専用ブースの設置: たつのこアリーナ、中央図書館、文化会館、歴史民俗資料館等 (4) 教育講演会の開催 流通経済大学教授 龍崎 幸 氏					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	4,619,227	4,308,542	0	0	0
	事業費	266,082	241,497	0	0	0
	人件費	4,353,145	4,067,045	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078	60	56	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	4,619,227	4,308,542	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	市民の教育に対する関心と理解を深めるにあたり、学校・地域・家庭が連携し、教育の日推進事業を展開し、より良い教育環境を整備することが必要である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	各教育関係機関による、教育の日関連事業の実施により、市民一人ひとりの教育に対する興味・関心と理解を深めることができ、大変有効であると考ええる。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	関係機関ごとに実施される事業は、それぞれ成果が出ている。コスト面では、主要事業でも比較的成本のかからない内容であることから効率的と考える。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 明日の龍ヶ崎を担う心豊かでたくましい子どもたちを育成するため、11月5日の「龍ヶ崎教育の日」、11月の「教育月間」を中心に「市民みんなで子どもたちの教育について考える日」と位置づけ、さらに学校・地域・家庭が連携して龍ヶ崎教育の日推進事業を展開することとする。				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	1	家庭の教育力の向上				
事業名	相談体制の充実					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	家庭教育の悩みなどに対して、家庭教育指導員による家庭教育相談を実施します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-1-2					
活動実績及び成果	(1) 相談者の相談内容(子育てに関する悩みや、学校生活等における心配ごとなど)に応じて、適切なアドバイスや関係機関との連絡調整を行うなどで心配ごとが解消された。 ・相談案件 7件 ・相談回数 17回 (2) 関係機関との連絡調整を行う。 ・龍の子支援会議による情報の共有化 (3) 各小中学校で開催される子育てふれあいセミナーや移動交流学習において、日頃子供とのコミュニケーションの取り方やしつけに戸惑いを感じることで悩んでいる保護者からの相談を受けた。地域とのつながりづくりや専門機関との橋渡しをすることで、学校や地域、教育委員会などの行政機関や福祉関係機関と連携しながら、子育てや家庭教育のサポートをすることが出来た。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	2,323,166	2,345,629	0	0	0
	事業費	2,017,682	2,038,682	0	0	0
	人件費	305,484	306,947	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	30	30	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	2,323,166	2,345,629	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☒ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	相談者の相談内容に応じて、適切なアドバイスや関係機関との連絡調整を行うことから事業に関する役割は重要である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	相談者の子育てに関する悩みや、学校生活等における心配ごとなどの相談内容が解消されるため有効である。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	関係機関(小中学校、教育センター)などと連携を図りながら、家庭環境や子育てに関する悩みなどの相談に、家庭教育指導員が無料で対応しているため相談しやすい。		
今後の方向性	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					
	子育て支援会議など関係機関(小中学校、教育センター、子ども家庭課)などと情報を共有し、連携を図りながら、家庭環境や子育てに関する悩みなどの相談に、積極的に対応していきたい。相談の内容によっては長期化することもあるが、継続して丁寧に対応していきたい。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	2	幼児教育の充実				
事業名	子どもの読書活動の推進					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	子ども読書活動推進計画(第3次)に基づき、幼児期における読み聞かせや読書の重要性の周知を図り、子どもが自主的に読書に取り組む環境整備を進めます。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-1-3					
活動実績及び成果	(1)おはなし会の継続実施 ・おはなし会22回開催(363名参加)／こぐまちゃんのおはなし会12回開催(277名参加)／たつのこお話タイム8回開催(31名参加) - 継続して開催することにより、リピータが増え、毎回の参加者数が安定して来ています。 (2)小中学校への出前講座:城ノ内小学校へ出前講座を実施 ・1年生対象 日時:12月14日4時間目 児童80名 内容:教科書に載っている本のブックトーク、手遊び、わらべ歌の紹介 ・3年生対象 日時:12月20日2～4時間目 児童82名 内容:龍ヶ崎・牛久昔話の読み聞かせ、手遊び、わらべ歌の紹介 (3)ボランティア対象の講習会開催 ・学校読み聞かせボランティアのための研修講座(初級者向け) 5月13日(参加者7名) ・ブックスタートボランティア講習会 講師:さんさん館子育て支援センター館長 11月15日(参加者11名) ・おはなしボランティア、学校司書合同講習会 講師:福音館書店書籍編集部長 12月13日(参加者38名) ・おはなしボランティア新人講習 2月18日(参加者6名) ・ブックスタート新人講習会 3月22日・26日(参加者各5名) (4)学童保育ルームへの出前講座と本のおまかせ便(図書館が選んだ50冊を1パックにして搬送)※新規事業 ・夏休み期間中に、希望があった保育ルームへ出前講座を実施 7ルーム 300名の児童が参加 ・8月より本のおまかせ便をの搬送を開始(選書は中央図書館司書が、搬送は文化・生涯学習課が担当) 各50冊 計1,000冊					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	1,870,064	667,494	0	0	0
	事業費	1,717,322	53,600	0	0	0
	人件費	152,742	613,894	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	24	9	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	1,870,064	667,494	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	子どもの読書活動推進は、国・都道府県・市町村がそれぞれのスタンスで推進している事業であり、当市の状況に応じた計画を策定して子どもの読書環境の充実に取り組んでいる。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☒ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない	子ども読書活動推進計画(第3次)の実績について、附属機関による客観的な意見や評価を得ることで、成果が向上し、指標値の一つである中央図書館の子ども向けイベントの参加者数は、目標値を大きく上回っている。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	子ども読書活動推進計画(第3次)で施策を担当している課及び中央図書館が連携することで、効率的に実施されている。		
今後の方向性	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 多様な環境下にある子どもたちに均しく読書の働きかけを行うためには、学校や図書館など複数の機関の連携が求められます。図書館については、館内の事業はもちろん、学校などでも推進事業が実施できるよう、外部と積極的に調整して行く必要があります。また、平成30年4月に第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定されたことに伴い、茨城県においても現行計画が第四次として改訂される予定であり、今後は、本市も第四次計画策定を想定して計画を遂行していきます。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	3	子どもが健全に育つ環境の整備				
事業名	学童保育ルームの充実【再掲】					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	保育需要や保護者のニーズに対応した適正なサービス量を確認し、学童保育や学習支援などの充実を図ります。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.A-1-2 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-1					
活動実績及び成果	・本年度の学童保育ルームの待機児童数0人を維持している。 ・11小学校で学校の余裕教室や専用施設により、適正に運営している。(27保育ルーム) ・保育ルーム支援員等に対し、スキルアップのための研修会を行った。 [市主催] 日時:5月29日(火) 場所:市役所附属棟1階第1会議室 演題:『メンタルヘルスセミナー』 講師…人事課 産業保健師 牧山夕姫氏 (79名参加) 日時:11月16日(金) 場所:市役所附属棟1階第1会議室 講演:『気になる行動をするお子さんの具体的な支援』 講師…県立医療大学作業療法士 大島 隆一郎氏 (56名参加) [県主催] ・放課後児童支援員認定資格研修 日時:9月11日～26日(全4回) 土浦市県南生涯学習センター(26名参加) ・放課後子ども総合プラン研修会(中堅者向け) 日時:1月24日、2月5日、2月9日 土浦市県南生涯学習センター(12名参加) ・今後も待機児童数0人を維持し、保育ルーム支援員等のスキルアップを行い、児童・保護者への適切な対応、安全管理に努めていく。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	158,509,106	164,186,667	0	0	0
	事業費	142,547,573	148,762,592	0	0	0
	人件費	15,961,533	15,424,075	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	2,047	2,130	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	35,498,000	34,857,000	0	0	0
	県 支出金	31,654,000	32,950,000	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	45,082,550	47,361,650	0	0	0
一般財源	46,274,556	49,018,017	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	登録児童数及び保育ルームのクラブ数は年々増加傾向にあり、保護者の就労率などの増加により事業へのニーズも高まっている。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	児童数の増加に対応するため、特に長期休業中などは、学校の教室を借用するなどし、適正に運営することが出来た。また支援員等の研修会についても児童への対応についてのスキルアップを図るためには有効である。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	□ 現行どおり ■ 見直しが必要	放課後子ども総合プランとして児童クラブと放課後子供教室の一体型の事業運営を考えた場合、見直しが必要かと思われる。また、支援員の確保を含めた労務管理が年々困難かつ多様化し、運営形態を検討していく必要がある。		
今後の方向性	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					
	核家族化、共働き家庭の増加に伴い、本事業のニーズが年々高まっていることから、継続して実施していくことが必要である。一方で、支援員の慢性的な不足状況が見られることから、抜本的な運営形態の見直しを検討する必要がある。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	3	子どもが健全に育つ環境の整備				
事業名	多様な学習機会の提供・アフタースクール・サタデースクールの充実【再掲】					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	アフタースクールやサタデースクールなど、多様な学習機会を提供します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.B-3-2 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-2					
活動実績及び成果	アフタースクール・サタデースクールの実施 ・対象学年を第3学年から第6学年に絞り、民間事業者のノウハウを活用し、児童の自主学習の習慣を身に付ける場として、また児童の自主性・社会性を育み、充実したスクール運営を行った。 ・サタデースクール(八原・馴染・城ノ内):17~19回 ・アフタースクール(龍ヶ崎・大宮・川原代・龍ヶ崎西・松葉・長山・馴染台・久保台):15~17回 ・参加した児童や保護者のアンケート結果からは、7割以上が満足していると回答している。またサタデースクールの体験活動は、普段経験したことのないような活動ができ、9割以上が楽しいと回答している。 【サタデースクール体験活動実績】 移動プラネタリウム/オリジナルメダルづくり/サッカー教室/キックボクササイズ/スライム作り/縄跳び ストーリー作り/ビーズ教室/スライム作り/パネルシアター/七夕工作/ハロウィン工作 ・アフタースクールでは学習を苦手としている児童もいるが、異学年で学び合うことやゲーム形式での学習を取り入れることで、集中して取り組むことができる児童が増えたことが成果として感じられた。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	16,516,930	14,274,578	0	0	0
	事業費	10,254,510	9,593,640	0	0	0
	人件費	6,262,420	4,680,938	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	213	185	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	3,024,000	3,048,000	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	13,492,930	11,226,578	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	本事業は、地域の教育力向上の観点、さらには学習会の提供、学習習慣の定着等の観点からも、その推進を図ることが必要であり、地域社会全体で子どもの豊かな人間性を養っていくための重要な事業である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	本事業への参加を通じて、放課後や土曜の時間帯に学習する機会を提供することにより、学習習慣の定着が図れること、また、体験的な学習を取り入れるなど、子どもの居場所としての機能も発揮している。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	本事業は、民間事業者への業務委託により実施しており、人材の確保や学習内容、体験学習などの活動プログラムの企画・立案、講師の確保等について、多様なネットワークと豊富な知識で事業を展開していることから効率的である。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				
参加する児童が、安心・安全な環境で参加できる実施形態を検討し、かつ児童が満足できるような学習活動・体験活動としていきたい。また、学校や学童保育ルームとの十分な連携や、特別な支援を要する児童への対応を検討していく必要がある。児童が楽しみながら学ぶ経験ができるよう、引き続き学習だけでなく、体験的な活動を取り入れていきたい。						

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」					
	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり					
	4	子どもの交流と活動の促進					
	子どもの交流・活動拠点の充実						
担当課	文化・生涯学習課						
事業の概要・目的	たつのこやま管理棟の施設を利用して、サポーターやボランティアの見守りにより、子どもたちの自由な発想を育む空間を提供します。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-1						
活動実績及び成果	・たつのこやま管理棟内における「子どもの居場所づくり事業」 NPO法人テディ・ベア(土・日曜日 10:00～16:00) 龍ヶ崎市女性会(木曜日 14:00～16:30) たつの子山囲碁クラブ(月曜日 13:00～16:30) ・たつのこプレーパーク「たつのこ遊んじゃ王」 (第1回)台風接近に伴う荒天のため中止 日 時:平成30年7月7日(土) 午前10時～午後3時 場 所:龍ヶ岡公園(たつのこステージ) (第2回) 日 時:平成30年11月10日(土) 午前10時～午後3時 実施 場 所:龍ヶ岡公園(たつのこステージ) 内 容:ダンボール等の廃材を利用した自由遊びの提供 ・ダンボールでロボット、家づくり ・台車に乗って電車ごっこ ・しゃぼん玉遊びなど (第3回)実施予定 日 時:平成31年3月23日(土) 午前10時～午後3時 場 所:龍ヶ岡公園(たつのこステージ) 内 容:ダンボール等の廃材を利用した自由遊びの提供 ・ダンボールでロボット、家づくり ・台車に乗って電車ごっこ ・しゃぼん玉遊びなど						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		2,972,219	844,104	0	0	0
	事業費		2,284,880	0	0	0	0
	人件費		687,339	844,104	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)		77,078	38	11	0	0
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		2,972,219	844,104	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		子どもが自由な発想で遊びに取り組める場や子どもが安心して遊べる場の提供は一定の需要がある。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	□ 有効である ■ 概ね有効である □ 有効でない		たつのこプレーパーク「たつのこ遊んじゃ王」では、参加した児童がまた参加したいと感じる事業内容に努めており、遊びの拠点事業の定着化が進みつつある。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要		「子どもの居場所づくり事業」はNPO法人への業務委託やボランティアによる見守りにより、事業が実施されている。		
今後の方向性		■継続 □拡充 □改善 □廃止 今後もたつのこやま管理棟内において、サポーターやボランティアの見守りによる「子どもの居場所づくり事業」を実施。また、たつのこプレーパーク「たつのこ遊んじゃ王」を龍ヶ岡公園(たつのこステージ)等で開催する。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

報 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	4	子どもの交流と活動の促進				
事業名	子ども会活動の活性化					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	スポーツ、文化活動等の子ども会活動を通して仲間作りを進め、自主性、社会性及び創造性を培い、心豊かな人間性を育みます。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-2					
活動実績及び成果	・6月9日(土)、安全教育研修会 場所: 龍ヶ崎消防署 内容: 龍ヶ崎消防署による『救命入門コース』の受講 AED(自動体外式除細動器)の使用法、胸骨圧迫法など 参加者: 大人8名 小学生4名 合計12名 ・6月23日(土)・24(日)、チャレンジキャンプ開催。 場 所: 龍ヶ崎市森林公園 内 容: グループによる野外活動、KYT(キケン・ヨチ・トレーニング)、飯ごう炊飯、キャンプファイヤー等 参加者: 82名 ・龍ヶ崎市子ども会育成連合会球技大会開催。 野球: 8月26日(日)・龍ヶ崎市野球場たつのこスタジアム・参加チーム数: 2チーム(50名) ミニバスケット: 12月1日(日)・龍ヶ崎市総合運動公園たつのこアリーナ・参加チーム数: 8チーム(123名) ・9月17日(土)、館林市・龍ヶ崎市子ども会親善野球大会 場 所: 館林市城沼野球場・城沼公民館(昼食及び交流会) 参加者: 100名 ・10月27日(土)、ニュースポーツ体験教室 場所: たつのこアリーナ(サブアリーナ) 内容: ボルダリング、ヘルシーボール、ユニカール、吹矢、輪投などのニュースポーツの体験教室 ・広報誌の刊行(2月)、作文集の発行(3月)					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	2,920,242	2,625,364	0	0	0
	事業費	400,000	400,000	0	0	0
	人件費	2,520,242	2,225,364	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	38	34	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	2,920,242	2,625,364	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☒ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	単位子ども会育成の連合体として、その活動を通じて子どもたちの自立心・行動力・責任感・協調性を養い、豊かな人間性を築くことに貢献している。また、異学年との交流や様々な体験活動は、人間関係の構築に重要な役割を担っている。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	子ども会活動を通じて、社会性や自主性を育み、心豊かでたくましい子が育成されていることは、龍ヶ崎市の将来を担う子どもたちの健全な育成に有効である。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☒ 見直しが必要	市子連に登録する単子が減少傾向にあることから、事業内容の見直しや新たな事業の検討が必要である。		
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☒ 改善 ☐ 廃止				
子ども会活動の必要性は感じつつ、活動内容や運営方針に関しては、ライフスタイルの変化に伴い、様々な面から転換期を迎えているところである。直面している諸問題を考慮しながら、一部の事業については見直しを図ることによって魅力ある事業を展開し、子どもたちの健全な育成を行っていく。						

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」					
	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり					
	4	子どもの交流と活動の促進					
	子どもの地域活動への参加促進						
担当課	文化・生涯学習課／指導課						
事業の概要・目的	子どもの地域活動への参加を促し、青少年の健全育成を図ります。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-3						
活動実績及び成果	・青少年育成龍ヶ崎市民会議から小中学校を通して児童・生徒に「まちづくりポイント制度」の周知を行い、市内一斉清掃(6月・11月・3月)への参加を呼びかけ、参加した児童・生徒には学校を通してまちづくりポイントシールを配布した。 ・青少年育成龍ヶ崎市民会議、青少年相談員等とともに「あいさつ・声かけ運動」を実施。市内各小学校において児童の登校時にのぼり旗を掲げ、子どもたちにあいさつ、声掛けを実施し、市内ショッピングセンターにおいては、啓発用品を配布した。 7月17日(火) 市内小学校：午前7時40分～ 市内ショッピングセンター 3箇所：午後5時～ 11月19日(月) 市内小学校：午前7時40分～ 市内ショッピングセンター 3箇所：午後4時30分～						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		1,132,823	1,060,840	0	0	0
	事業費		140,000	140,000	0	0	0
	人件費		992,823	920,840	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)		77,078	15	14	0	0
事業評価	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☒ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	青少年の様々な課題や問題を解決するために家庭や学校、または地域において、「あいさつ・声かけ」をするなどの手法により、大人と子どものコミュニケーションを円滑なものとしている。地域全体での取組みとなっている。			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	青少年育成事業の連携をするため、各団体が実施する全ての事業で相互の会員が参加することで協力体制を定着させている。			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	青少年育成団体など多くの団体と協力して事業を展開している。			
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 青少年の非行防止、健全育成を目的に、家庭や学校、または地域において、「あいさつ・声かけ」を行うことで大人と子どものコミュニケーションが円滑なものとなることから、他の青少年育成団体と連携・協力を図りながら今後も展開していく。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	4	子どもの交流と活動の促進				
事業名	新成人の交流促進					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	市内中学校において、成人式典を開催し、愛郷心の醸成と新成人の交流促進を図ります。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-4					
活動実績及び成果	第1回成人式運営委員会を開き、各学校から推薦を受けた運営委員の中で式典の役割分担を決定した。 11月に第2回運営委員会を開催し、前日のリハーサルを経て成人式を開催する。 ・10月14日(日)、第1回成人式運営委員会を開催。各学校の運営委員の中で、式典の役割分担などを決定 ・10月下旬から11月中旬にかけて記念品の発注契約を締結 ・11月上旬 式典参加対象者へ通知を送付。 ・11月4日(日):第2回成人式運営委員会を開催 ・1月11日(金):成人式会場準備 ・1月12日(土):成人式リハーサル ・1月13日(日):各中学校において成人式開催					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	4,619,953	5,369,109	0	0	0
	事業費	1,946,969	1,685,748	0	0	0
	人件費	2,672,984	3,683,361	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	60	70	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	4,619,953	5,369,109	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	市内の新成人者を対象に、成人としての新たな門出を祝福するための事業という本旨に変わりはない。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	市内各中学校を単位として、新成人の企画・運営による成人式典を開催することにより、市内の小・中学校を卒業した新成人の交流の機会に貢献。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☒ 見直しが必要	現行の6会場開催を実施するにあたって人件費や暖房器具のリース費用等でコストをかけている。式典参加対象者数を鑑みるに、市文化会館大ホールを会場とした1か所開催も検討し得る。		
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☒ 改善 ☐ 廃止	事業の必要性・有効性は十分であると考えられる。効率性の観点から、実施形態について現行の6中学校を会場とする形態を維持するか、1か所の会場で開催とするかを検討する。また、2022年4月から成人年齢を18歳とする法改正が行われることを見据え、本市としてどのように対応していくか早期に検討していく必要がある。			

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」					
	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり					
	1	生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進					
	人材バンクの充実						
担当課	文化・生涯学習課						
事業の概要・目的	市民が講師として登録する人材バンクの周知及び各種講座や体験教室を実施します。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-2-1						
活動実績及び成果	(1) 人材バンク制度の周知と講師の紹介 昨年度末に登録講師全員に現況確認を行い、その結果を講師情報に反映して最新情報を市HPで公開した。 また、新たに講師2名に取材を行い、リゅうほー2月後半号及び市HPで、人材バンク制度の紹介とともに紹介記事を掲載した。 今年度の新規登録者は5名 (2) 人材バンクに登録している講師を活用して下記講座を開催 ①ラッププレスレット教室 7月4日(水) 中央図書館鑑賞室 (7名参加) ②親子で楽しむ染色教室 8月11日(土) 歴史民俗資料館体験学習室 (14名参加) ③シニア向けスマートフォン講座 11月6日(火) 市役所附風楼 (延べ28名参加) ※テーマを分けて2回実施 ④ハーバリウム教室 2月14日(木) 中央図書館鑑賞室 (10名参加)						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		650,968	413,683	0	0	0
	事業費		40,000	30,000	0	0	0
	人件費		610,968	383,683	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)		77,078	8	5	0	0
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		650,968	413,683	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等			
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☒ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	市民を対象とした生涯学習講座は、複数の課がそれぞれの業務の視点で開催しており、人材バンク登録講師なども活用している。			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	自分の知識や技術を活用してもらいたい人と講師等を探している人とを繋ぐシステムとして有効である。			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☒ 見直しが必要	講師情報の提供後は、講師と利用者間で直接交渉を行うことになっているが、特に個人からの問い合わせなど、講師・利用者が直接交渉を不安に感じる場合、双方の連絡を仲介することもあり、必ずしも効率的とは言えない。			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☒ 改善 ☐ 廃止 人材バンク登録講師を活用した講座は、人材バンク制度及び講師の紹介にも繋がることから、今後も継続的に実施していきます。また、講師と利用者が、お互いに不安を感じることなく、効率的に連絡をとる手段を考えて行く必要があります。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」					
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり					
施 策	1	生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進					
事業名	市民大学講座等の充実【再掲】						
担当課	企画課／文化・生涯学習課						
事業の概要・目的	大学等との連携により、市民ニーズに応える専門性の高い講座を実施します。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.B-4-3 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-2-2、3-2-3						
活動実績及び成果	(1)私立大学生涯学習プログラムによる講演会の開催 ①東洋大学生涯学習プログラムによる講演会の開催(37名参加) ・講座テーマ:江戸幕府の成立と徳川三代 ・講師:東洋大学 大野瑞男名誉教授 ・開催日:9月27日(木)・会場:中央図書館 鑑賞室 ②古民家再生についての講座開催(20名参加) ・講座テーマ:古民家再生から見てくこと ・講師:一級建築士 吉田良一(吉田建築計画事務所) ・開催日:10月14日(土) ・会場:中央図書館 鑑賞室 (2)中級者のための英会話講座「トラベル英会話」(6月～7月 全5回 21名参加) 講師:元 社会学部教授 岡野ジェンキンスロビン氏 (3)中級者のための英会話講座「英語で学ぶ国際マナー」(11月～12月 全5回 15名参加) 講師:元 社会学部教授 岡野ジェンキンスロビン氏 (4)大学文化祭(10月27日・28日)と連動した秋の特別講座「安心・安全なまちの魅力あるまち展」 ①「防災・減災日本」を目指す取組として、本市とスポーツ健康科学部の龍崎教授ゼミが連携し、防災に関する展示会及び講演会を開催。(30名参加) ・パネル展示:当市で発生した災害や他自治体への災害支援等の写真パネル展示及び当市優先供給協定連携の「段ボールベッド」展示。 ・講演:当市危機管理監による「龍ヶ崎市の自然災害への備え～取組の現状、課題及び今後の展望～」(10月28日)						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		534,597	867,555	0	0	0
	事業費		0	23,451	0	0	0
	人件費		534,597	844,104	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	7	11	0	0	0
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		534,597	867,555	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない		高度な内容の学習機会を市民に提供するため、大学教授等専門性の高い講師による講座の提供が必要である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない		大学と連携した魅力ある講座を毎年開催しており、有効な事業である。更に多くの市民の方に参加いただけるよう魅力あるテーマや参加しやすい開催日時について、大学と協議しながら、引き続き検討していく。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要		参加費について、テキスト代等が発生する場合には、実費相当分を徴収している。講座の開催にあたっては、大学との調整等効率的に事務を行っている。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 東洋大学の講座については、来年度の応募資格がないため、講師の確保等、継続的な講座の実施に向けて準備を進める。 市民ニーズを把握するために実施した市WEBモニターを活用したアンケート調査結果を参考とし、既存講座の見直しや魅力ある新規講座の開講について、今後も継続して検討していく。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
施 策	1	生涯学習環境の充実と人材教育・啓発の推進				
事業名	中央図書館の利便性向上					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	図書館サービスの更なる向上を図るため、指定管理者による管理運営により、民間事業者等が有する専門的知識や経営能力を活用します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-1-1					
活動実績及び成果	(1) 指定管理を通じた継続事業、新規事業の展開 ・新規 ①シニア向けイベントの実施 「家庭菜園野菜作りのコツと裏ワザ」 6月3日 (23名参加) / 「生活習慣病予防講座」 9月8日 (11名参加) / 大人のためのおはなし会 7月3日・8月5日・10月13日 (延べ87名参加) ②秋の読書週間イベントの実施(10/27～11/11) みんなで読書の本をつくろう / 家読キャンペーン / 中国語でくおはなし会 / 毛糸でポンポンストラップをつくろう ③赤ちゃんタイム導入1周年記念イベント「親子でベビーヨガ」 7月10日 (51名参加) / 「離乳食講座」 11月13日 (10組参加) ・継続 市読書会連合会と連携した講演会の開催 2月16日龍ヶ崎市文化会館小ホール 講師：茂木健一郎氏 (415名参加※ロビーでのパブリックヒアリングを含む) (2) 図書の実施 ・新規 ① DVDの整理基準を整備してDVD19点を購入し、8月に館内視聴を開始 ② 全集(児童図書)の見直しと買い替え 文学全集69冊を購入し差し替え ・継続 雑誌スポンサー制度を継続実施し、1件の申込がありました。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	8,426,325	98,241,798	0	0	0
	事業費	7,586,244	97,627,904	0	0	0
	人件費	840,081	613,894	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	109	1,275	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	8,426,325	98,241,798	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	利用の多いシニア層や利用を呼びかけたい子育て世代向けの講座やイベントを開催するなど、利用状況に応じた事業を行うとともに利用推進を行っており、幅広い市民のニーズに対応している。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	図書館の基本業務である資料管理など継続事業を地道に実施するとともに、新規事業を複数実施するなど、成果目標に向けて順調に推移している。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	指定管理者のグループ会社から栄養士を招いて「離乳食講座」を開催するなど、民間ならではの手法を用いており、効率的な運営が図られている。		
今後の方向性	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 2019年度に次期指定管理者(指定期間2020年度～2024年度)の公募を行い、引き続き指定管理者による質の高い図書館運営を行っていきます。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
施 策	1	生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進				
事業名	中央図書館改修工事					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	中央図書館の施設・設備を改修・更新し、館内における読書環境や学習環境の充実を図ります。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-1-2					
活動実績及び成果	(1) 防犯カメラの設置 8月に実施設計が完了し、11月に工事が完了した。 1階閲覧室に7台、2階ギャラリー・鑑賞室に各1台の防犯カメラを設置し、複数の職員が目にしやすい2階事務スペースに配置したモニターで常時、広範囲で館内の状況を監視することが可能となった。また、録画機能を有しており、不審者などを適時的に確認する手段としても有効となっている。 (2) 1階和室の改修(実施設計) 8月に1階和室スペースの段差をなくしてフロア化する実施設計が完了した。改修後は、学習環境の充実を図るため、学習机を配置する予定。 (3) 1階空調の部品交換 12月～3月 1階空調の劣化部品を交換し、設備のメンテナンスを行った。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	51,986,836	7,816,070	0	0	0
	事業費	51,986,836	7,432,387	0	0	0
	人件費	0	383,683	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	671	101	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	51,986,836	7,816,070	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	築30年以上が経過する施設だが、改修やメンテナンスを行うことで、安全で利用しやすい環境を市民に提供している。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	空調修繕や防犯カメラの設置など、施設に手が加えられることにより、安全で快適な館内環境が整い、学習環境が向上している。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	施設や設備の改修に要する30万円未満の工事は指定管理者が行うことになっているが、今年度の修繕はそれを上回るもので教育委員会が実施するのは妥当である。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				
		1階和室をフロア化する改修工事を行い、創出されるスペースに机や椅子を配置するなどして、学習コーナーを充実させることで利用者の利便性向上を図ります。				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
施 策	1	生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進				
事業名	人権啓発活動の充実					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	人権尊重について、身近で大切なものと感じ、理解を深めることのできる啓発を行います。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-3-1					
活動実績及び成果	(1)人権啓発に係るパネル展の開催 人権週間(12月4日～10日)に合わせて、人権啓発パネルを展示 - 日時:12月1日(土)～9日(日) - 会場:中央図書館2階展示ギャラリー - 展示:公益財団法人人権教育啓発推進センターよりストーリー形式のパネル(やなせたかし氏作 人権マンガパネル—ぐらぐらもりのおばけ 全16枚)を借用し、主に児童等の低年齢層を対象とした啓発を行った。 - 広報:りゅうほー11月後半号に掲載、ポスター・チラシを作成し11月にコミュニティセンター等に掲示依頼、小学校を通して市内小学校児童全員に配布					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	235,309	157,393	0	0	0
	事業費	6,196	3,920	0	0	0
	人件費	229,113	153,473	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	3	2	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	235,309	157,393	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	人権週間における人権尊重思想の普及・高揚のための啓発活動は、全国的に展開されるもので、市としても普及活動を実施する必要がある。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	人権の啓発は、事業を継続して実施することで効果があると思われるが、パネル展示だけで入場者を見込むのは難しいため、他の手法を検討する必要がある。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	必要最小限のコストで実施している事業であり、効率性は高い。		
今後の方向性	☐ 継続 ☐ 拡充 ☒ 改善 ☐ 廃止					
	パネル展示の場所や展示方法の変更、展示を基にした事業の展開などを含め、実施方法を再検討する必要がある。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」																																																																		
目標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり																																																																		
施策	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実																																																																		
事業名	文化財の指定及び保護																																																																			
担当課	文化・生涯学習課																																																																			
事業の概要・目的	龍ヶ崎市の有形・無形、民俗、名所旧跡等の文化的所産で、歴史的又は芸術的に価値の高いものについて、保存及び活用を図ります。																																																																			
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-2-1																																																																			
活動実績及び成果	(1) 国選択文化財の「撞舞」について、国指定重要文化財指定に向けて必要な事務等の調査を行う。 【ブレイクダウン】 ①6月26日 千葉県旭市、28日野田市を訪問し、国指定についての考えなどを調査 ②8月20日 平成29年に国選択だった御船祭りが国指定となった北茨城市を訪問し、国指定までの過程、経費、調査期間などを調査 ③県文化課を訪問し、①・②の結果を集約した報告書を参考資料として提出し、国指定についての可能性等について話を聞く。文化庁訪問の調整を依頼。 ④文化庁訪問 芸術部門文化財調査官及び文化科学技官に国指定の可能性について助言・指導を受け、報告書を作成した。 (2) 新たな市指定文化財候補の発掘に努め、順次調査・研究を進め文化財保護審議会への諮問につなげる。 本年度は、新規市指定文化財の候補として適当な物件が見当たらなかったため、文化財保護審議会への諮問には至らなかった。																																																																			
コスト情報	<table border="1"> <thead> <tr> <th>費目/年度</th> <th>平成29年</th> <th>平成30年</th> <th>令和元年</th> <th>令和2年</th> <th>令和3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総額(円)</td> <td>1,557,690</td> <td>921,144</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>1,023,093</td> <td>77,040</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>534,597</td> <td>844,104</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078</td> <td>20</td> <td>12</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="6">財源内訳(円)</td> </tr> <tr> <td>国支出金</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>県支出金</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>起債</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他(受益者負担など)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>1,557,690</td> <td>921,144</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	総額(円)	1,557,690	921,144	0	0	0	事業費	1,023,093	77,040	0	0	0	人件費	534,597	844,104	0	0	0	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078	20	12	0	0	0	財源内訳(円)						国支出金	0	0	0	0	0	県支出金	0	0	0	0	0	起債	0	0	0	0	0	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	一般財源	1,557,690	921,144	0	0	0
費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年																																																															
総額(円)	1,557,690	921,144	0	0	0																																																															
事業費	1,023,093	77,040	0	0	0																																																															
人件費	534,597	844,104	0	0	0																																																															
市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078	20	12	0	0	0																																																															
財源内訳(円)																																																																				
国支出金	0	0	0	0	0																																																															
県支出金	0	0	0	0	0																																																															
起債	0	0	0	0	0																																																															
その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0																																																															
一般財源	1,557,690	921,144	0	0	0																																																															
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等																																																																
必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	市内の文化的・歴史的財産を文化財として指定・保護し、後世へ伝えていくことは自治体の重要な役割である。																																																																	
有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	30年度は新規市指定文化財の指定は無かったが、指定の過程で行う調査研究により、貴重な文化財の経歴等を記録として残すことが可能である。 また、文化財を広く周知することで、市民の郷土に対する愛着の醸成も期待できる。																																																																	
効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	文化財保護は、国と自治体とが一体となって行うもので、民間導入はそぐわない。																																																																	
今後の方向性	■継続 □拡充 □改善 □廃止 引き続き文化的・歴史的価値が高いと思われる有形・無形の遺産の掘り起こしや調査を行い、指定文化財への指定や保護を行うとともに、今後はまちづくりの視点を加えて当市の魅力として広く周知・活用を図っていく。																																																																			

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」																																																																		
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり																																																																		
施 策	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実																																																																		
事業名	市民遺産の認定																																																																			
担当課	文化・生涯学習課																																																																			
事業の概要・目的	指定文化財以外で、市民に親しまれている身近な自然や歴史的、文化的な遺産を、「龍ヶ崎市民遺産」として認定し、市民の地域に対する誇りや愛着の醸成を図ります。																																																																			
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-2-2																																																																			
活動実績及び成果	(1)市民遺産候補物件の公募 「りゅうほー」5月前半号および市公式ホームページで周知し、認定候補物件を募集した。 (2)候補物件の決定および調査研究 本年度は、平成30年6月21日付けで推薦を受けた「文化神社 親子狐の石像」を市民遺産認定候補とし、同候補に関する資料の収集や現地調査などを実施した。 (3)文化財保護審議会への諮問・答申 上記候補を市民遺産に認定することについての意見を求めるため、平成31年2月7日付けで文化財保護審議会に対し諮問を行った。これを受け、2月28日に審議会を開催。審議会からは、3月8日付けで「市民遺産としての認定が適当である」旨の答申を受けた。 その後、教育委員会定例会(3月20日開催)への議案提出・議決を経て、正式に市民遺産として認定された。これにより、市民遺産の延べ認定件数は12件となり、平成33年度までの達成目標値を3年間前倒しでクリアすることになるため、順調な成果を挙げていると考える。																																																																			
コスト情報	<table border="1"> <thead> <tr> <th>費目/年度</th> <th>平成29年</th> <th>平成30年</th> <th>令和元年</th> <th>令和2年</th> <th>令和3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総額(円)</td> <td>3,528,651</td> <td>2,612,927</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>1,084,780</td> <td>924,720</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>2,443,871</td> <td>1,688,207</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)</td> <td>77,078</td> <td>46</td> <td>34</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="6">財源内訳(円)</td> </tr> <tr> <td>国 支出金</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>県 支出金</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>起 債</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他(受益者負担など)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>3,528,651</td> <td>2,612,927</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	総額(円)	3,528,651	2,612,927	0	0	0	事業費	1,084,780	924,720	0	0	0	人件費	2,443,871	1,688,207	0	0	0	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	46	34	0	0	財源内訳(円)						国 支出金	0	0	0	0	0	県 支出金	0	0	0	0	0	起 債	0	0	0	0	0	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	一般財源	3,528,651	2,612,927	0	0	0
費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年																																																															
総額(円)	3,528,651	2,612,927	0	0	0																																																															
事業費	1,084,780	924,720	0	0	0																																																															
人件費	2,443,871	1,688,207	0	0	0																																																															
市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	46	34	0	0																																																															
財源内訳(円)																																																																				
国 支出金	0	0	0	0	0																																																															
県 支出金	0	0	0	0	0																																																															
起 債	0	0	0	0	0																																																															
その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0																																																															
一般財源	3,528,651	2,612,927	0	0	0																																																															
事業評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>評価基準</th> <th>チェック ※当てはまる事項に</th> <th>判断理由等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>必要性</td> <td>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)</td> <td> ☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない </td> <td>いわゆる指定文化財以外で後世に残していきたい当市の宝を「市民遺産」として認定する制度であり、それらの保存・継承や、市民の郷土への誇り・愛着の醸成のためにも重要な事業であると考えます。</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか</td> <td> ☒ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない </td> <td>本年度の市民遺産候補が認定となれば、目標の12件を達成する。近隣の自治体にはない制度であり、制度自体も少しずつではあるが着実に定着しつつあると思われる。</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか</td> <td> ☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要 </td> <td>行政が主体となって実施すべき事業であり、民間への業務委託にはそぐわない。また、受益者負担が発生する事業ではない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	いわゆる指定文化財以外で後世に残していきたい当市の宝を「市民遺産」として認定する制度であり、それらの保存・継承や、市民の郷土への誇り・愛着の醸成のためにも重要な事業であると考えます。	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☒ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない	本年度の市民遺産候補が認定となれば、目標の12件を達成する。近隣の自治体にはない制度であり、制度自体も少しずつではあるが着実に定着しつつあると思われる。	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	行政が主体となって実施すべき事業であり、民間への業務委託にはそぐわない。また、受益者負担が発生する事業ではない。	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止																																																		
評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等																																																																	
必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	いわゆる指定文化財以外で後世に残していきたい当市の宝を「市民遺産」として認定する制度であり、それらの保存・継承や、市民の郷土への誇り・愛着の醸成のためにも重要な事業であると考えます。																																																																	
有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☒ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない	本年度の市民遺産候補が認定となれば、目標の12件を達成する。近隣の自治体にはない制度であり、制度自体も少しずつではあるが着実に定着しつつあると思われる。																																																																	
効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	行政が主体となって実施すべき事業であり、民間への業務委託にはそぐわない。また、受益者負担が発生する事業ではない。																																																																	
今後の方向性	今後も制度を継続し、さらに認定件数が増えることにより、今まで関心の低かった方など、より多くの市民に制度が浸透し、地元の魅力の再発見や愛着の高まりに繋がっていくことが期待される。さらに、少子高齢化により存続が危ぶまれている地域の伝統行事などが脚光を浴びることで、継承者の確保や育成にも貢献できるものとする。																																																																			

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」					
	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり					
	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実					
事業名	歴史的資源などの活用						
担当課	文化・生涯学習課						
事業の概要・目的	指定文化財や市民遺産などの資源を活用し、その他の地域資源と組み合わせた散策・観光コースを提案するなど、魅力的な環境づくりを推進します。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-2-3						
活動実績及び成果	(1) 「旧竹内農場調査報告会」の開催 【会 場】 市役所附属棟1階会議室【開催日】 平成30年4月21日(土)【参加者】 55名 【内 容】 市若菜町に所在する旧竹内農場赤レンガ西洋館の建物およびその歴史的背景について、調査研究した成果を市民に報告。赤レンガの製造元や西洋館が出来た背景など、新発見の興味深い事実に参加者からは高い関心が寄せられた。 (2) 「国指定重要文化財『絹本着色十六羅漢像(複製)』公開展」の開催 【会 場】 歴史民俗資料館【期 間】 平成30年5月12日(土)～5月27日(日)【来場者】 1,538名 【内 容】 平成29年度に作成した、「絹本着色十六羅漢像」掛軸のレプリカ(第1尊者～第4尊者の4幅)の完成を記念し、歴史民俗資料館(企画展示室)にて公開展示を開催。期間中の5月20日(日)には県立歴史館・田中伸吾学芸員による講演会も開催し、40名の受講者に解説を行うなど、市内外から多くの方々に来場いただき、本市が誇る文化財を広く周知することができた。 (3) 国指定重要文化財「絹本着色十六羅漢像」掛軸の複製 【業務委託先】 (株)日展 東京支店【契約期間】 平成30年5月28日(月)～平成31年2月28日(木) 【委託料】 5,108,400円 【内 容】 平成29年度に引き続き、「第5尊者」～「第8尊者」の4幅のレプリカを作製。文化財専用の非接触式高性能スキャナーの使用や熟練職人の手作業により、非常に精巧な出来栄となった。 (4) 「旧竹内農場赤レンガ西洋館関連企画展」の開催 【会 場】 歴史民俗資料館【期 間】 平成30年8月1日(水)～9月2日(日)【来場者】 4,343名 【内 容】 上記(1)に関連し、竹内農場や赤レンガ西洋館の関係資料の展示を行った。夏休み期間中の開催で、「れきみん祭り」他のイベント開催とも重なった影響か、非常に多くの来場者があった。						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		305,484	6,549,055	0	0	0
	事業費		0	5,321,268	0	0	0
	人件費		305,484	1,227,787	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	4	85	0	0	0
	財源内訳(円)						
	国支出金		0	0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		305,484	6,549,055	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等			
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	指定文化財をはじめとする市内の歴史的資源を活用し、魅力あるまちづくりに資する事業は、市が主体となって実施すべきものであり、今後も積極的に行っていく必要がある。			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	指定文化財や市民遺産の件数はここ数年間で着実に増加してきている。素晴らしい歴史や伝統文化を有する本市の魅力的な環境をアピールすることに有効な事業である。			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	単なる指定・認定にとどまらず、それらを本市の魅力としてまちの活性化等に活かすための様々な手法を検討し、実施している。市が直接的に行うことで政策間連携等が可能となる。			
今後の方向性		■継続 □拡充 □改善 □廃止 平成31年4月1日より歴史民俗資料館を直営化することから、市内にある文化財や市民遺産等の歴史的資源の活用について、文化・生涯学習課を中心に市として一体的に取り組むこととし、「歴史と文化のまち・龍ヶ崎」としてのシビックプライドの醸成やにぎわいの創出を図っていく。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」																																																																		
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり																																																																		
施 策	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実																																																																		
事業名	地域文化活動の育成及び支援																																																																			
担当課	文化・生涯学習課																																																																			
事業の概要・目的	文化協会等の団体支援や文化芸術フェスティバル等の開催支援などにより、市民の文化芸術活動を促進します。																																																																			
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-1-1																																																																			
活動実績及び成果	(1) 龍ヶ崎市文化協会加盟団体への活動支援(申請事業に対して交付金を交付) 10団体から交付申請があり、事業が完了した6団体に交付した。(2月末現在) 交付先団体名: 舞踊部、竜ヶ崎子どもミュージカル、アートサークル馴染、龍ヶ崎写真クラブ、全日本写真連盟ひたち野支部、龍ヶ崎盆栽会 (2) 文化の祭典/文化芸術フェスティバルなどの催しや文化協会の活動等を紹介する冊子の作成・班回覧による周知 9月30日付けで4,500部発行して、班回覧や市内コミュニティセンター等への設置依頼を行ったほか、近隣市町村文化協会等の組織へ送付を行い、事業の広報活動を行った。次号は3月31日に発行し、翌4月に配布予定。																																																																			
コスト情報	<table border="1"> <thead> <tr> <th>費目/年度</th> <th>平成29年</th> <th>平成30年</th> <th>令和元年</th> <th>令和2年</th> <th>令和3年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総額(円)</td> <td>392,742</td> <td>837,157</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事業費</td> <td>240,000</td> <td>300,000</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>152,742</td> <td>537,157</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)</td> <td>77,078</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="6">財源内訳(円)</td> </tr> <tr> <td>国 支出金</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>県 支出金</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>起 債</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他(受益者負担など)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>392,742</td> <td>837,157</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	総額(円)	392,742	837,157	0	0	0	事業費	240,000	300,000	0	0	0	人件費	152,742	537,157	0	0	0	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	5	11	0	0	財源内訳(円)						国 支出金	0	0	0	0	0	県 支出金	0	0	0	0	0	起 債	0	0	0	0	0	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	一般財源	392,742	837,157	0	0	0
費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年																																																															
総額(円)	392,742	837,157	0	0	0																																																															
事業費	240,000	300,000	0	0	0																																																															
人件費	152,742	537,157	0	0	0																																																															
市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	5	11	0	0																																																															
財源内訳(円)																																																																				
国 支出金	0	0	0	0	0																																																															
県 支出金	0	0	0	0	0																																																															
起 債	0	0	0	0	0																																																															
その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0																																																															
一般財源	392,742	837,157	0	0	0																																																															
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等																																																																
事業評価	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	活動の成果を発表する場所や機会を提供することで、文化の活性化に繋がっている。																																																																
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☒ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない	交付金を交付することにより、文化協会所属団体が文化活動の発表の場である会場等の利用がしやすくなった。また、文化協会の会報を配布・回覧して広く紹介することで、会員の創作活動を活性化させ、文化芸術活動を活性化させる一助となっている。																																																																
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	交付金による団体支援は昨年度開始したもので、ある程度継続して成果を見極める必要がある。																																																																
今後の方向性	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 交付金と会報発行による団体支援を継続して実施します。また、文化協会等の会議や研修などを事務的に支援し、会の運営を活性化して行きます。																																																																			

平成30年度重点施策・重点事業等に係るブレークダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	地域の歴史や魅力の再発見1	【文化・生涯学習課】	平成30年度
------------	---------------	------------	--------

1 主要事業の概要

目的	歴史的建造物(旧竹内農場赤レンガ西洋館)の保存活用
内容	歴史的建造物(旧竹内農場赤レンガ西洋館)に関する全体的な活用計画を策定する。

2 平成30年度の活動実績及び成果

活動実績 及び成果	(1)庁内連携組織の立ち上げ 「旧竹内農場赤レンガ西洋館の保全及び活用等に係る連絡調整会議規程」を設け、会議を設置した。 【座長】文化・生涯学習課長 【副座長】企画課長 【委員】秘書課、都市計画課、道路整備課、都市施設課の各課長(及び課長補佐) 【事務局】文化・生涯学習課 文化学習推進グループ (2)短期的、中・長期的な活用計画の策定 上記メンバーによる連絡調整会議を計4回(5/21、7/2、8/7、10/23)開催。当面の活用と中・長期的な活用について協議し、「旧竹内農場赤レンガ西洋館の利活用に係る基本的な考え方」として提言を取りまとめた。提言については、平成30年12月6日(木)開催の臨時庁議において報告を行い、了承を得た。
--------------	--

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	767,367	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	767,367	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078	0	10	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	767,367	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び 事業推進上の課題	活用計画のうち、赤レンガ西洋館の敷地内整備に関する部分(=説明板やフェンスの設置等)については早期の実施が可能と判断し、平成31年度中の実施に向けて当初予算に必要経費を計上したところである。 一方、蛇沼周辺を含む面的な活用も考えられるが西洋館へのアクセス道路や近隣住民の方への影響などの課題がある。このため、長期的視点に立った検討が必要となる。
--------------------	--

平成30年度重点施策・重点事業等に係るブレークダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	地域の歴史や魅力の再発見2	【文化・生涯学習課】	平成30年度
------------	---------------	------------	--------

1 主要事業の概要

目 的	歴史的建造物(旧竹内農場赤レンガ西洋館)の保存活用
内 容	旧竹内農場赤レンガ西洋館の説明・案内板及び安全柵等を設置する。

2 平成30年度の活動実績及び成果

活動実績 及び成果	「旧竹内農場赤レンガ西洋館の保全及び活用等に係る連絡調整会議」(→別紙「地域の歴史や魅力の再発見1」の進行管理シート参照)において赤レンガ西洋館の保存・活用計画を検討し、当面の措置として下記の事業を実施するため、参考見積を徴収のうえ平成31年度当初予算に費用を計上した。 (1)説明板の設置 見学者への案内方法のひとつとして、赤レンガ西洋館および竹内農場に関する説明板を現地に設置する。 なお、デザインは赤レンガ西洋館の雰囲気に沿うものとし、掲載すべき情報量が多いことから、通常の指定文化財の説明板よりも大きいサイズのものとする。 (2)フェンスの設置 見学者の安全面を考慮し、建物部分を取り囲むようにフェンスを設置する。なお、デザインは赤レンガ西洋館の雰囲気に沿うものとし、フェンスの外側からでも見学がしやすいよう、見通しの良さなども考慮する。 (3)樹木の伐採・撤去 樹木が成長したり強風で倒れたりすることによる赤レンガ西洋館の倒壊を未然に防ぐため、建物の外壁に隣接して生えている樹木の幹や枝を伐採・撤去する。 (4)駐車スペースの整備 見学者の車両や、敷地内の除草等の管理作業を行う市の車両が駐車する場所がないことから、碎石敷きの簡易的な駐車スペースを敷地内に確保する。
--------------	---

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		0	306,947	0	0	0
	事業費		0	0	0	0	0
	人件費		0	306,947	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	0	4	0	0	0
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
	一般財源		0	306,947	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び 事業推進上の課題	上記事業の実施により、当面の見学受け入れ態勢は整うものとする。一方、赤レンガ西洋館を今後も長く現状の姿のまま留めておくためには、建物自体に何らかの補強を施すことへの検討も必要と考えるが、当面の整備計画を実施した後は、これらの市民への周知に努め、市民や市民団体の動向等を注視していくものとする。
--------------------	---

平成30年度重点施策・重点事業等に係るブレークダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	地域の歴史や魅力の効率的な発信	【文化・生涯学習課】	平成30年度
------------	-----------------	------------	--------

1 主要事業の概要

目的	歴史的建造物(旧竹内農場赤レンガ西洋館)の保存活用
内容	ICTを活用した旧竹内農場赤レンガ西洋館の案内方法を決定する

2 平成30年度の活動実績及び成果

活動実績 及び成果	(1)ICTを活用した案内方法の調査・研究 VRやAR、QRコードを用いた案内方法について、先進事例や専門業者からの提案などを基に調査研究を行い、それぞれの特徴や実施する場合に想定される課題、経費などから現実的に実施できる可能性が高い手法を検討し、「ICTを活用した旧竹内農場赤レンガ西洋館のPR方法について」と題した提案書を取りまとめた。 (2)庁内での検討 (1)の提案については、庁内の連絡調整会議に諮った後、「旧竹内農場赤レンガ西洋館の利活用に係る基本的な考え方」(→別紙「地域の歴史や魅力の再発見1」の進行管理シート参照)の別添資料として平成30年12月6日(木)開催の臨時庁議において報告を行い、了承を得た。
--------------	--

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	537,157	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	537,157	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078	0	7	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	537,157	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び 事業推進上の課題	赤レンガ西洋館の案内方法に関し、別シート「地域の歴史や魅力の再発見2」に記載の説明板・フェンス設置については平成31年度に実施予定であるが、ICTを活用した案内についてはシステム開発や維持管理に高額な経費が必要となるため、実施には更なる検討を要すると判断した。今後、説明板設置後の市民ニーズの高まりや、周辺環境の整備状況などを踏まえ、長期的視点で検討を続けていきたい。なお、市全域でICTによる観光スポット案内を行うことがあれば、赤レンガ西洋館をその一箇所として取り入れるなどして、コストの低減化を図ることも有効であると考えている。
--------------------	--

(2) スポーツ都市推進課

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	1	若い世代の希望の実現「若者・子育て世代の定住環境の創出」				
	2	住んでみたいと感じるまちづくり				
	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進				
	総合型地域スポーツクラブの支援					
担当課	スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	クラブの活動や実施事業を広報紙やホームページに掲載し、活動状況の周知を図ります。また、活動場所・練習施設等の支援を行います。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-3-2					
活動実績及び成果	(1) 総合型地域スポーツクラブの活動内容の市民への周知 「クラブ・ドラゴンズ」の活動内容をホームページに掲載し、市民に広く周知した。また、たつのこアリーナにも「クラブ・ドラゴンズ」のコーナーを設置し、アリーナ利用者にも活動内容を周知した。 (2) 総合型地域スポーツクラブの活動場所の連携協力 活動場所・練習場所について連携協力し、市民のスポーツ機会の充実に図った。 (3) 総合型地域スポーツクラブ「クラブ・ドラゴンズ」の交付金事業 ・ランニングクリニック 開催日 平成30年11月3日 参加者数106名 谷川真理氏を講師として迎え、子どもから大人まで楽しくレベルアップできる内容で実施。 ランニング時のストレッチ方法の講習及び一緒に走りながらレクチャー・アドバイスをを行った。 ・フィットネスウォーキング 通年開催 月8回程度 通算75回実施 延べ参加者数600名 ポールスティックを使い効率のよいウォーキングの指導及び簡単なストレッチ体操を行った。 毎回異なるコースを歩き龍ヶ崎市内を回った。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	381,855	1,875,894	0	0	0
	事業費	0	1,262,000	0	0	0
	人件費	381,855	613,894	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078	5	24	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	381,855	1,875,894	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☒ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	NPO法人「クラブ・ドラゴンズ」は市内唯一の総合型スポーツクラブであり子どもから高齢者まで、それぞれのレベルに合わせて参加できるスポーツクラブのため、スポーツ活動を推進するなかで今後も市として協力・連携していくことが必要。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☒ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない	「クラブ・ドラゴンズ」の認知度は上昇傾向にあるものの、より地域に根ざしたクラブとなるようりゅうほーや市のホームページに掲載し、併せて活動場所についても協力していく。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	NPO(特定非営利活動)法人としてのクラブであり、不特定多数のものの利益に寄与することを目的としたものため、民間委託はそぐわない。		
今後の方向性	☐ 継続 ☒ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					
	第2次スポーツ推進計画において、総合型地域スポーツクラブの運営・活動への支援事業を拡充し取り組む事項と定めており、総合型地域スポーツクラブ「NPO法人クラブ・ドラゴンズ」とのさらなる連携強化を図るとともに、運営支援としての交付金事業の委託や活動拠点の確保などにより、自主的運営と質的充実に図っていく。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	1	若い世代の希望の実現「若者・子育て世代の定住環境の創出」				
目 標	2	住んでみたいと感じるまちづくり				
施 策	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進				
事業名	トップアスリートの育成					
担当課	スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	トップアスリートを育成するための環境整備を行います。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.B-4-2 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-1-2、5-4-2					
活動実績及び成果	(1) スポーツ指導者養成講習会 ・日時:平成31年3月16日(土) 会場:流通経済大学 ・講師:流通経済大学スポーツ健康科学部助教 大平正軌氏 ・対象:ジュニアサッカーの指導者 参加者数:12名 内容:実技(実践練習法)と講義(コーチング法) (2) 技術講習会 ・流通経済大学硬式野球部野球教室 日時:11月25日(日) 会場:たつのこスタジアム 対象:小中学生 参加者数:120名 ・バドミントン技術講習会 日時:3月17日(日) 会場:たつのこアリーナ 対象:小中学生 参加者数:59名 (3) 全国大会等出場者への激励金の交付及び表彰 ・激励金交付件数:42件 ・表彰(龍ヶ崎市体育協会):表彰式 2月16日(土) 表彰対象者(全国規模以上の大会に出場、中学生のみ関東規模の大会以上) 団体:7団体、個人:51人 功労者表彰(指導者):4人 (4) トップアスリートへの活動支援(施設提供) トップアスリートの活動支援のため、スポーツクライミング・野口啓代選手に対し、たつのこアリーナ・メインアリーナにスピード壁設置場所を無償提供するとともに、トレーニング室等のアリーナ施設の無償貸出を行った(平成31年1月～8月予定)。 また、市内在住のパラセーリング競技・パラリンピック出場候補選手に対し、ボート競技専用トレーニングマシン設置場所を無償提供を行った(平成31年1月～8月予定)。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	2,464,164	2,570,936	0	0	0
	事業費	1,242,228	1,036,202	0	0	0
	人件費	1,221,936	1,534,734	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	32	33	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	2,464,164	2,570,936	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	民間等と競合する事業ではない。企業スポーツや運動部活動の変化により、地域社会において競技力の向上を担う役割が求められている。全国大会等出場者への支援事業については、第二次スポーツ推進計画において拡充。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	講習会については、トップアスリートや流経大スポーツ健康科学部の知見を活用した指導内容に対し参加者が満足している。また、激励金についても選手の活動支援として活用されている。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	講習会・表彰については、市体育協会及び流経大と連携して行うことで、効果的に市内スポーツ関係団体の活性化が図られるため、民間委託等の導入は適さない。		
今後の方向性		☐ 継続 ☒ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 優れた素質を有するまたはトップレベルを目指している競技者に対し、高度な指導ができるようスポーツ指導者養成講習会等を定期的に開催するとともに、ジュニア期からトップアスリートを育成していくため、市内スポーツ団体と連携した養成講座等の実施を検討していく。				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	4	龍の子の生きる力を育むまちづくり				
施 策	1	知・徳・体のバランスのとれた教育の推進				
事業名	部活動の活性化					
担当課	教育総務課／スポーツ都市推進課／指導課					
事業の概要・目的	部員の技術向上及び部活動の活性化を図るため、外部指導員の配置を行います。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.1-1-3-2					
活動実績及び成果	【スポーツ指導者派遣事業】 6中学校、8競技、13名 愛宕中学校：サッカー、バスケットボール 城西中学校：卓球、バスケットボール 城南中学校：剣道、ソフトテニス 中根合中学校：陸上、柔道、ソフトテニス 長山中学校：卓球 城ノ内中学校：弓道、ソフトテニス、卓球 【運動部活動の在り方に関するガイドライン作成】 「龍ヶ崎市運動部活動の在り方に関する活動指針」を7月に作成し、これを基に各中学校で「運動部活動に係る活動方針」を作成し、10月より運用している。 また、各学校においてHPIに運動部活動に係る活動方針と各部活動の活動予定を掲載している。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	1,009,583	1,336,160	0	0	0
	事業費	398,615	492,056	0	0	0
	人件費	610,968	844,104	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	13	17	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	1,009,583	1,336,160	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☒ 概ね妥当である ☐ 妥当でない	顧問教諭が未経験の部活動を指導しているケースも見受けられるなか、専門的な知識と技術を持つ外部指導員を活用することは、安全に部活動を運営する上で不可欠である。また、顧問教諭の部活動指導に従事する時間が短縮されることで、時間外勤務の縮減が期待されている。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☒ 概ね有効である ☐ 有効でない	外部指導員を活用することにより、きめ細やかな指導を受けることが可能となり、部員の技術向上が図られている。これまで外部指導員を活用していなかった部活動への派遣も増え、学校からのニーズも増している。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☒ 現行どおり ☐ 見直しが必要	部活動の活動指針を作成したことにより、長期的な見通しが立てやすく、計画的かつ効率的な部活動運営がなされている。外部指導員の派遣については、当面は派遣事業を拡充させていくことが望ましい。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止	「スポーツ指導者派遣事業」については、スポーツ指導者バンク制度の充実に努めながら、体育協会との連携により、運動部活動における外部指導者の活用を促進していく。 また、「龍ヶ崎市運動部活動の在り方に関する活動指針」及び「運動部活動に係る活動方針」については、適正に運用されているか、定期的に調査を行っていく。			

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
施 策	3	スポーツ環境の充実				
事業名	スポーツ施設の充実					
担当課	スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	必要な設備等の更新を行うなど、スポーツ施設整備の充実した環境を整えます。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-2-1					
活動実績及び成果	(1)総合運動公園誘導サイン改修工事 東京オリンピック等ナショナルチームの事前キャンプに向けて総合運動公園(アリーナ・フィールド・スタジアム)の案内サインを更新し環境整備をした。(英語標記+ピクトグラム) 契約額:13,586,400円 (2)たつのこアリーナ たつのこアリーナLED化工事 契約額:55,944,000円 (H29 19,200,000円 H30 36,744,000円) 風除室改修工事 契約額:4,579,200円 コインロッカー更新100台 契約額:16,000,200円 プールフロア更新48台 契約額:6,577,200円 プール更衣室水着用脱水機 契約額:1,015,200円 たつのこアリーナ券売機システムリース(H30.10.1~H35.9.30) 契約額:4,743,360円(年額) 有酸素系トレーニングマシンのリース継続(H27.8~H32.7) 契約額:5,080,320円(年額) (3)たつのこフィールド ハードル85台 ハードル運搬車10台 契約額:6,642,000円 サッカーゴール(埋込式)1対 契約額:3,834,000円 (4)高砂体育館 高砂体育館照明LED化工事 契約額:3,618,000円					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	25,666,197	101,045,777	0	0	0
	事業費	25,131,600	100,048,200	0	0	0
	人件費	534,597	997,577	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	331	1,311	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	25,000,000	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	25,666,197	76,045,777	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	アリーナ・フィールドに於いて大会が数多く開催されており、施設の備品を利用するニーズは高い。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	高水準の機能・設備を備えた市民のスポーツの拠点施設として、計画的に備品の更新を行うことで、施設の利用促進につながっている。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	スポーツ施設の備品等の整備については、民間の助成金制度を活用し、財源の確保に努めている。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 総合運動公園をはじめとする市のスポーツ施設について、民間の活力も考慮しながら、高水準の機能・設備を備えた施設として充実を図るとともに、計画的な改修、修繕及び備品の更新に努める。				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	2	教育環境の向上「まちづくりを担う人づくり」				
	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
	3	スポーツ環境の充実				
事業名	流通経済大学運動部との連携					
担当課	企画課／スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	流通経済大学運動部応援ツアーの開催や総合運動公園における公式戦開催への協力、運動部活動の情報発信等を行うとともに、大学運動部と各種団体が連携したイベント開催等を推進し、市民がスポーツに親しむ機会を提供します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-1-1					
活動実績及び成果	(1)各運動部の公式試合日程等の情報提供 ・総合運動公園イベントスケジュールへの掲載や試合会場等にポスターを掲示するとともに、市広報紙・市公式HP・SNSの活用や佐貫駅デジタルサイネージなどを活用し、継続した試合情報の提供のほか、サッカー公式戦集中応援日等のイベントについても積極的な告知を行い来場者の増加を図った。 (2)市の運動施設の優先貸出 ・総合運動公園における流通経済大学運動部の公式戦等は、次のとおり開催された。 サッカー 関東大学サッカーリーグ戦・・・6試合 日本フットボールリーグ(JFL)・・・15試合 ラグビー 関東大学ラグビー春季大会・・・1試合 関東大学リーグ戦・・・1試合 硬式野球 東京新大学野球連盟春季リーグ戦・・・3試合 東京新大学野球連盟秋季リーグ戦・・・2試合 陸上競技 流通経済大学陸上競技会・・・10大会(13日間) (3)応援バスツアーの開催 ①関東大学ラグビーリーグ1部優勝争いに絡む活躍を見せるラグビー部の応援バスツアーの開催。 同リーグ最終戦(対法政大学戦・11月25日・秩父宮ラグビー場・参加者31名) ②関東大学サッカーリーグのジョイフル本田つくばFC主催試合「VS流通経済大学FC戦」について龍ヶ崎市民が無料観戦できるようになり、小学生を対象とした応援バスツアーを開催(7月8日・参加者43名)					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	1,003,951	1,011,653	0	0	0
	事業費	11,128	14,076	0	0	0
	人件費	992,823	997,577	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	13	13	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	15,500	0	0	0
一般財源	1,003,951	996,153	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	関東1部リーグに所属するサッカー部、ラグビー部及び硬式野球部の活躍は、テレビ、新聞及びネットでも取り上げられ、市民の注目度も年々高まっていることから継続した取り組みが必要である。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	年1回の「ラグビー応援ツアー」も定着しつつあり、また、総合運動公園で開催する野球部及びサッカー部の各試合も一定の集客があり、市民がスポーツに親しむ機会になっている。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	応援バスツアー参加者から負担金を徴収し、市バス使用料程度の歳入を確保している。		
今後の方向性	☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					
	市内小中学生のいる家庭に対して「市内で全国トップレベルの大学生の試合が見れること」を改めて周知し、観戦に訪れる新たな市民を増やすとともに、とりわけ、JFL(日本フットボールリーグ)の試合は、全国からサポーターが訪れることから、市外からの交流人口の取り込みも踏まえて、流通経済大学運動部と更なる連携強化を進めていく。					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	4	地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」				
目 標	12	スポーツ健幸日本ー【重点目標】				
施 策	1	スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進				
事業名	スポーツ教室・イベントの充実(1)					
担当課	スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	スポーツ教室やイベントの開催など、市民が健康づくりに取り組む環境を整備します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-3-1					
活動実績及び成果	各種スポーツ大会・イベントを開催し、誰もが気軽に参加できるスポーツの場を提供し、スポーツ人口の拡大に努めた。 (1)市民ウォークラリー大会：297人 82チーム (5月6日) (2)市民スポーツフェスティバル：市内の各スポーツ団体主催による大会の開催16競技 3,245人(9月～12月) (3)市民スポーツ・レクリエーションまつり：約2,500人(10月7日) (4)ニュースポーツ体験教室：57人(10月27日) (5)第12回中学校駅伝競走大会：210人(12月15日) (6)スポーツ少年団本部交流大会：300人(3月3日) (7)県民駅伝競走大会：13人(12月8日) (8)少年少女陸上教室：41人(7月21日 22日 27日 28日 29日) (9)スポーツ技術講習会：179人(野球 11月25日 バドミントン 3月17日) (10)スポーツ指導者養成講座：12人(サッカー 3月16日) (11)レクリエーション協会バウンドテニス大会他4事業：725人(7月～2月) (12)市民ユニカール大会：58人(2月23日) (13)フィットネスウォーキング講座【再掲】(総合型地域スポーツクラブの交付金事業) 通年開催/月8回程度 通算75回実施 延べ参加者数600人 (14)ランニングクリニック【再掲】(総合型地域スポーツクラブの交付金事業)：106人(11月3日)					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	1,840,081	5,118,166	0	0	0
	事業費	1,000,000	3,506,696	0	0	0
	人件費	840,081	1,611,470	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	24	66	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	1,840,081	5,118,166	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	市民の多様なスポーツ活動を推進していくためには、体育協会をはじめとする市のスポーツ団体や総合型地域スポーツクラブと連携を図りながら進めていくことが必要。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	今までの各スポーツイベントのほか、今年度新しく総合型地域スポーツクラブの交付金事業を行った。今後もそれぞれのニーズにあった事業を展開していく。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	多くのスポーツイベントは子どもから高齢者まで参加できるスポーツイベントが多く、スポーツへのきっかけづくりとして定着している。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 本市のスポーツ推進の中心的役割を担う体育協会をはじめとするスポーツ団体の組織体制の強化及び活動の活性化を図り、今後も連携してスポーツ教室やイベントの開催を進める。				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略	4	地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」				
目 標	12	スポーツ健康日本一【重点目標】				
施 策	1	スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進				
事業名	スポーツ教室・イベントの充実(2)					
担当課	スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	総合体育館外13施設において、指定管理者による効率的な施設運営を図ります。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-3-1					
活動実績及び成果	指定管理者が有するノウハウを生かし子どもから高齢者まで幅広い年代のニーズに応じたスポーツ教室等を展開し市民の体力づくり健康づくりを支援した。 コース型教室や1回単位で参加できる都度教室、また最新のレスミルズを導入し、様々な年代に対応した教室を展開した。 (1)コース型教室:ヨガ・エアロビクス・ピラティス・キックボクシングエクササイズ・クロールマスター教室等 子ども向け教室:水泳教室・体操教室・ダンス教室・Jrバスケット教室・幼児対象の親子教室 参加者数: 27,878名 (2)1回単位都度教室:レスミルズ・ラディカルプログラム教室(グループフィットネスプログラム) 参加者数: 9,869名 (3)高齢者向け健康教室:体力アップ教室・体幹トレーニング・バランスボール・初心者水泳教室 参加者数: 7,336名 (4)卓球タイム・テニスタイム 参加者数: 2,490名					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	0	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	0	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	民間活力の活用として、平成26年度より龍ヶ崎市総合体育館外13施設のスポーツ施設に指定管理者制度を導入している。		
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	指定管理者制度の導入により、子どもから高齢者まで様々な年代のスポーツ教室が開催され、市民の多様なスポーツニーズに対応している。		
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	指定管理者制度の導入により、サービスの質的向上と行政コストの削減が図られ、民間業者のノウハウを生かした自主事業が実施されている。		
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 指定管理者との連携を図りながら、利用者の視点に立った利用しやすい施設運営とサービスの充実に努めていく。アリーナについては施設運営・サービスともに充実してきているが、今後はフィールド・スタジアム他屋外施設についても充実した活用を図っていきたい。				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	4	地域力の向上「安全・安心で住みよい環境づくり」						
	12	スポーツ健康日本一【重点目標】						
	1	スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進						
	ニュースポーツの推進							
担当課	スポーツ都市推進課							
事業の概要・目的	年齢や性別を問わずに楽しめるニュースポーツを推進し、市民の健康増進を図ります。							
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-3-3							
活動実績及び成果	(1)ニュースポーツの研究 スポーツ推進委員協議会内に、龍ヶ崎市内で新たに普及するニュースポーツの種目を検討するワーキンググループを設置し、各コミュニティセンター単位で実施可能な種目を研究した。 (2)ニュースポーツ体験教室の実施 日時:10月27日(土) 会場:たつのこアリーナ 参加者数:57人 主管:スポーツ推進委員協議会 種目:スポーツ吹矢・ユニカール・ヘルシーボール・ボルダリング (3)ユニカール大会、ウォークラリー及び各種ニュースポーツ大会の開催 ・ウォークラリー大会 日時:5月6日(日) 会場:市役所(米町～下町のコース) 参加者数:297人 主管:龍ヶ崎市ウォークラリー大会実行委員会 ・ユニカール大会 日時:2月23日(土) 会場:たつのこアリーナ 参加者数:58人 主管:レクリエーション協会 ・龍ヶ崎市レクリエーション協会加盟団体のニュースポーツ大会開催に対し、活動助成金の補助を行った。 助成団体数:5団体(ソフトバレーボール・インディアカ等) 参加者数:725人 (4)その他、市民スポーツフェスティバル・市民スポーツレクリエーションまつりにおいてもイベントの一部でニュースポーツを実施した。 ・市民スポーツフェスティバル 参加者数:3,245人(9月～12月) インディアカ バウンドテニス等 ・市民スポーツ・レクリエーションまつり 参加者数2,500人(10月7日) ユニカール スポーツ吹矢等							
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
	総額(円)		2,859,664	2,971,429	0	0	0	
	事業費		186,680	439,118	0	0	0	
	人件費		2,672,984	2,532,311	0	0	0	
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)		77,078	37	39	0	0	0
	財源内訳(円)							
	国 支出金		0	0	0	0	0	
	県 支出金		0	0	0	0	0	
	起 債		0	0	0	0	0	
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0	
一般財源		2,859,664	2,971,429	0	0	0		
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■		判断理由等			
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない		茨城国体、東京オリンピック・パラリンピック開催を好機とし、年齢・体力・性別を問わず、誰もが楽しめるニュースポーツの推進は、運動習慣の動機付けとして有効である。			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない		龍ヶ崎市スポーツ推進委員及び龍ヶ崎市レクリエーション協会加盟のニュースポーツ団体と連携し、競技の普及に取り組むことで、各団体の活性化につながっている。			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要		市内スポーツ団体と連携して行っているため、民間委託等の導入は適さない。			
今後の方向性		☒ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 第2次スポーツ推進計画策定時に実施した市民意識調査(H28年度実施)において、「年齢にあったスポーツの開発・普及を進める」方の割合が38.8%と高く、今後も継続して市民の誰もが楽しめるニュースポーツへの体験教室や大会を開催し機会の充実を図る。						

平成30年度重点施策・重点事業等に係るブレークダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	市民マラソン大会開催の推進	【スポーツ都市推進課】	平成30年度
------------	---------------	-------------	--------

1 主要事業の概要

目 的	茨城国体、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、市内外から多くの人参加できる市民マラソン大会を開催することで、市民のスポーツ参加への意識の醸成、交流人口の増加を図る。
内 容	東京オリンピックによるレガシーを活用し、平成32年度に市民マラソン大会を開催する。

2 平成30年度の活動実績及び成果

活動実績 及び成果	(1) マラソン大会コース設定調査業務委託の経費を9月補正予算で要求し、12月に調査業務委託を締結。 (2) 龍ヶ崎市体育協会及び流通経済大学陸上競技部等の有識者から構成する(仮称)龍ヶ崎マラソン大会コース選定検討委員会を設置し、コース調査業務委託業者の助言を受けながらコース案の検討を行った。 第1回委員会 平成31年1月10日 第2回委員会 平成31年2月13日 (3) マラソン大会開催に向け、竜ヶ崎警察署と協議を行いマラソン大会コース作成に関する助言を受けた。
--------------	---

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	1,417,640	0	0	0
	事業費	0	496,800	0	0	0
	人件費	0	920,840	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078	0	18	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 文 出 金	0	0	0	0	0
	県 支 出 金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	1,417,640	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び 事業推進上の課題	今年度は、警察署、専門業者(コンサルタント)の助言及びコース検討委員会の意見を聴取し、マラソン大会コース案を検討した。今後は、マラソン大会コースに対する警察署の内諾及び専門業者(コンサルタント)を活用し運営実施計画(警備計画含む)を検討する。合わせて、マラソン大会実行委員会を設立し、市内関連団体へ協力体制を構築する。
--------------------	---

平成30年度重点施策・重点事業等に係るブレークダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	総合運動公園の整備計画等に基づくスポーツ環境の整備 【スポーツ都市推進課】	平成30年度
------------	---------------------------------------	--------

1 主要事業の概要

目的	スポーツ環境の充実
内容	総合運動公園の整備計画に基づくスポーツ環境の整備及び新たなスポーツ施設の誘致についての検討

2 平成30年度の活動実績及び成果

活動実績及び成果	(1) 総合運動公園整備計画に基づく新たなスポーツ施設の整備 ・テニスコートの照明設置に向けて、茨城県竜ヶ崎工事事務所河川課へ河川占用申請を提出した。 ・平成31年度に照明設置工事を行うに伴い、ハードコートの改修を行うとともに、人工芝へ張替を進める。 ・また、人工芝へと張替を行うにあたりテニスコート2面分をフットサルコートとして整備する。 ・平成12年8月龍ヶ崎市総合運動公園基本計画、平成20年3月都市計画事業変更認可における弓道場整備計画(配置・施設規模・概算事業費)について確認。牛久市、土浦市、かすみがうら市、石岡市の弓道場を視察し、各市町村の施設の現状を把握した。
----------	--

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	383,683	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	383,683	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078	0	5	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	383,683	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び事業推進上の課題	テニスコートの人工芝化工事については今後設計を行う。人工芝及び照明設備設置工事については、9月から12月の4カ月間で行う。
----------------	---

(3) 国体推進課

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

平成30年度

戦 略 目 標 施 策 事業名 担当課	1	若い世代の希望の実現「若者・子育て世代の定住環境の創出」						
	2	住んでみたいと感じるまちづくり						
	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進						
	スポーツによる交流人口の増加							
事業の概要・目的		国民体育大会の開催(本市は柔道競技)に向けて開催準備を進めていくとともに、国体のリハーサル大会として国体関東ブロック大会を開催するなど、国民体育大会を契機として交流人口の増加を図ります。						
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.B-4-4 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-4-4						
活動実績及び成果		(1)リハーサル大会の実施 - 会場設営は、国体龍ヶ崎市実行委員会の一般競争入札により業者を選定した。(3者の応札) - 実施本部(市職員)は、関係各課からの応援により市職員60名で構成した。 - 弁当は、国体を想定し、保冷車での運搬とした。なお、市のPRを兼ねた懸け紙での包装とした。 - 識別用品は、IDカード(関係者全員)、ポロシャツ(市職員)、Tシャツ(補助員)、帽子(屋外従事者)とした。 (2)リハーサル大会を踏まえた本大会実施に向けた調整 - 観覧者や視察員、競技会役員用の座席数や必要備品などについて、競技団体との調整を進めた。 - 競技役員の編成が終わり、競技団体の要望に基づき、補助員の調整を進めた。 - 駐車場計画や計画バス運行に必要なバス車両数など、輸送交通についての調整を進めている。 【調整結果概要】H31.2末現在 会場設計：一般観覧者席1,012席、競技役員席162席、視察員席184席 宿泊調整：選手監督(600人)→成田市、競技会役員(150人)→つくば市、競技役員(84人)→龍ヶ崎市内 役員等編成：競技役員(109人)、競技会係員(97人)、補助員(137人)、ボランティア登録(46人) (3)策定した要項等 総務企画専門委員会、輸送交通専門委員会、弁当調製施設選考委員会、常任委員会を開催し、大会報告書編成方針、案内所設置運営要項、休憩所設置運営要項、ふるまい実施計画、売店設置要項、輸送交通実施要項、警備・消防防災業務実施計画を策定するとともに、弁当調製施設を指定した。						
コスト情報		費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
		総額(円)		20,860,030	46,085,903	0	0	0
		事業費		4,363,900	15,544,700	0	0	0
		人件費		16,496,130	30,541,203	0	0	0
		市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)		77,078	269	598	0	0
		財源内訳(円)						
		国支出金		0	0	0	0	0
		県支出金		0	1,436,000	0	0	0
		起債		0	0	0	0	0
		その他(受益者負担など)		0	5,000,000	0	0	0
一般財源		20,860,030	39,649,903	0	0	0		
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等				
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	■ 妥当である □ 概ね妥当である □ 妥当でない	国民体育大会開催基準要項において、各競技会の主催者に会場地市町村が加わるとともに、競技会場市町村は実行委員会を設置し、大会を運営することとなっている。				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	■ 有効である □ 概ね有効である □ 有効でない	本大会実施に向けた各種要項の整備やリハーサル大会従事者との意見交換を実施するなど、開催準備が順調に進んでいる。				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	■ 現行どおり □ 見直しが必要	前年までの担当2名のグループ体制から臨時職員を含め7名体制の課となり、多様な業務に対し担当者を定め国体開催に向けた準備を進められるようになった。				
今後の方向性		☐ 継続 ☒ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止 いきいき茨城ゆめ国体柔道競技の開催に向けて、会場設営やバス借り上げ料など予算規模の充実が必要である。						

平成30年度重点施策・重点事業等に係るブレークダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	生涯スポーツの促進と交流人口の増加	【国体推進課】	平成30年度
------------	-------------------	---------	--------

1 主要事業の概要

目 的	本市における国体開催の市民認知度の向上
内 容	国体開催のPR活動及び市民参加の促進を図る。

2 平成30年度の活動実績及び成果

活動実績 及び成果	まちづくり市民アンケート調査における国体の認知度は、茨城国体開催に関しては64.4%、たつのこアリーナで柔道競技を開催することは48.8%であった。 なお、今年度における国体PR活動の概要は次のとおりである。 (1) 大規模なイベント等を活用した国体の周知活動の実施 佐貫駅及びたつのこアリーナへの国体PRの横断幕の設置 八坂祭礼やにぎわい広場など様々なイベントで周知活動 まいりゅう柔道着バージョンの活用(活動イベント数:6月～2月末現在32回) (2) 国体準備における市民参加の促進による国体認知度の向上 各コミュニティセンターや小中学校において、国体開催時期(10月)を見据えてサルビアの生育に取り組み、たつのこアリーナや市役所に配置した。 (3) スポーツ都市推進課と連携した生涯スポーツ(する・みる・ささえる、スポーツ健幸日本一)の重要性の啓発 市民ウォークラリーやスポーツレクリエーションまつり、ランニングクリニックなど、スポーツ都市推進課と連携して国体のPRや生涯スポーツの推進の重要性の啓発を進めている。
--------------	--

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	4,067,045	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	4,067,045	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口)	77,078	0	53	0	0
コスト情報	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	4,067,045	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び 事業推進上の課題	たつのこアリーナで柔道競技を開催する認知度は、平成29年度調査の12%から大きく伸びている。今後も様々な機会を活かしながら、国体開催の機運醸成を図っていきたい。
--------------------	--

平成30年度重点施策・重点事業等に係るブレークダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	茨城国体のレガシー醸成	【国体推進課】	平成30年度
------------	-------------	---------	--------

1 主要事業の概要

目 的	茨城国体を本市におけるスポーツボランティアの契機とする
内 容	国体におけるボランティア等による活動の促進を図る。

2 平成30年度の活動実績及び成果

活動実績 及び成果	(1)リハーサル大会における補助員・ボランティアの参加 リハーサル大会は、ボランティア9名、補助員101名の協力があった。 補助員内訳：流経大柔道部：46、竜ヶ崎一高22、竜ヶ崎二高19、市内中学校柔道部員12、県南柔道連盟2 (2)補助員・ボランティアの研修 リハーサル大会前に、ボランティア従事者に対する研修会を実施した。 (3)国体に向けた補助員・ボランティアの募集 3/1現在のボランティア登録者数は46名 (4)国体に向けた補助員の調整 本大会時の補助員は、137名（流経大柔道部46名、竜ヶ崎一高29名、竜ヶ崎二高24名、中学生38名）を予定しており、各学校等と概ね調整できている。
--------------	---

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	4,067,045	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	4,067,045	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H30.10/1常住人口) 77,078	0	53	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	4,067,045	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び 事業推進上の課題	ボランティアや補助員について、十分な数を確保できた。やりがいを持つことや、楽しく活動できるようにサポートしていきたい。
--------------------	---

2 龍ヶ崎市教育委員会の事務に 関する点検評価報告書

(1) 文化・生涯学習課

施策名	1 義務教育の充実		
施策の内容	(1) 知・徳・体のバランスのとれた教育の推進		
事業No	12	事業名	郷土学習の推進
担当課	指導課／文化・生涯学習課		

実施状況	撞舞に代表されるような、これまでに伝統的に受け継がれてきた様々な歴史や文化に触れる体験的な学習の機会の創出に努めています。 (1) 小学校1, 2年生 生活科 小学校1, 2年生では、生活科「わたしの町はっけん」という単元において地域について校外学習を行い、学区内における史跡や名所、公共施設等の見学に取り組んでいます。地域の自然や文化に触れる機会を通して、地域のよさに気づき、愛着をもつことができるよう指導にあたっています。 (2) 小学校3, 4年生 社会科 小学校3年生から社会科副読本「わたしたちの龍ヶ崎」を活用しながら龍ヶ崎の土地の特徴や、産業、情勢、特色等を学ぶ地域学習を実施しています。龍ヶ崎の歴史や文化についても年間指導計画に位置付けて学習を進めています。地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会に対する誇りと愛情を育てられるように指導にあたっています。 また、市歴史民俗資料館などの見学を通して、歴史や生活に関する展示物に触れることで、学習効果を高めています。 (3) 市新採教員研修 平成30年8月16日(木)に「市内施設や歴史的な場所の巡回」を実施し、市内の公共施設や産業施設、文化財等を見学しました。見学場所についての事前レポートや事後報告書の作成など、地域教材作成に向けた研修となりました。 (4) 文化財を活用した郷土学習の推進 龍ヶ崎市学校運営研究協議会との連携による「龍ヶ崎発見(フォトラリー)活動」を実施しました。ポイントとなる17の神社や寺院を設定し、夏季休業日を利用して見学し、龍ヶ崎市のよさを再発見する活動に取り組みました。 対象：市内の小学校3年生と保護者 実施期間：7/21から1/31まで 内容：活動に参加しての感想をマイライブラリーにまとめ、市役所1階フロアで展示 (5) 第5回いばらきっ子郷土検定への参加 市内予選：市内6中学校2年生対象 11月中に各学校において実施 地元になんだ問題25問、全県的な問題25問 県大会：各市町村代表45中学校の参加 2月2日(土)県民文化センターにて実施 市内代表中学校準優勝
成果・課題等	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「今住んでいる地域の行事に参加している」と答えた児童生徒の割合が小学校57.6%、中学校37.2%で昨年度より3～7%の向上が見られました。 龍ヶ崎の歴史や文化に関しては、児童生徒および教職員に対して地域学習に関わる学習の一層の推進に向けて引き続き指導助言にあたります。

施策名	1 義務教育の充実		
施策の内容	(1) 知・徳・体のバランスのとれた教育の推進		
事業No	15	事業名	部活動の活性化
担当課	教育総務課／指導課／スポーツ都市推進課		

実施状況	運動部の顧問教員の知識及び技術の向上を目的とした外部指導者の積極的な活用を行っています。 (1) スポーツ指導者派遣事業 市体育協会の自主事業として実施し、毎年各中学校にアンケートを行い、要望があった学校へ部活動担当教員の指導補助として、指導者を派遣しました。 6校へ13名の指導者を派遣しています。 愛宕中学校 : サッカー・バスケットボール 城南中学校 : 剣道・ソフトテニス 城西中学校 : 卓球・男子バスケット 長山中学校 : 卓球 中根台中学校 : 陸上・柔道・ソフトテニス 城ノ内中学校 : 弓道・卓球・ソフトテニス (2) 運動部活動の在り方に関するガイドラインの作成 「龍ヶ崎市運動部活動の在り方に関する活動指針」を7月に作成し、これを基に各中学校で「運動部活動に係る活動方針」を作成し、10月より運用を開始しました。 (3) その他、部活動の活性化施策 運動部活動の県南・県大会等の出場にかかる経費（バス借り上げ、高速道路料金等）や、中体連等公的機関が主催する大会に国・県代表として出場する場合の経費補助など、支援体制の充実を図りました。
成果・課題等	スポーツ指導者バンク制度の充実に努めながら、流通経済大学や体育協会との連携により、運動部活動における外部指導者の活用を促進していきます。 また、「龍ヶ崎市運動部活動の在り方に関する活動指針」及び「運動部活動に係る活動方針」については、適正運用について定期的な調査を行っていく必要があります。

施策名	1 義務教育の充実		
施策の内容	(3) 地域の特性を活かした魅力ある学校づくりの推進		
事業No	24	事業名	教育の日推進事業の充実
担当課	文化・生涯学習課／教育総務課／指導課		

実施状況	実行委員会を開催し、平成30年度教育の日推進事業の事業内容などについて協議を行い、以下の事業を実施しました。 ①作品募集 ・「家族へのメッセージ」 応募件数：3,718点 ・みんなのアイデアが給食になる！「親子でつくる給食献立」 応募件数：933件 (小学校263件、中学校670件) ・「家族へのメッセージ」の優秀作品や「親子でつくる給食献立」の入賞作品を市役所や図書館にて展示し紹介しました。 ②地域・学校等の連携を深めることを目的に、市内小中学校、幼稚園、保育園（所）、認定こども園、高等学校、大学の自由参観の実施 ③子どもが主役！魅力ある学校づくり推進事業「たつのこプロジェクト」の参観 平成30～32年度の市内中学校の共通テーマを、「つながろう つたえよう みんなの心 ～10年後の龍ヶ崎の未来を見通した地域貢献活動～」とし、3年計画（企画・試行→実践→提言）の1年目（企画・試行）を、各中学校の生徒会が中心となって様々な企画を立案し、多様な活動を行いました。 ④PR活動の充実 広報紙及び市公式ホームページへの掲載、ポスターの掲示及びチラシの配布、横断幕及びのぼりの設置、デジタルサイネージへの掲載を行いました。 ⑤「教育講演会」の開催 11月24日（土）文化会館にて、流通経済大学スポーツ健康科学部教授でありジャーナリストとしても活躍している龍崎 孝氏による教育講演会を開催しました。駒馬台小学校金管バンドの演奏や城南中学校生徒による声楽発表も行いました。 ・テーマ『子どもたちが「夢」を持ち、「生きる力」をはぐくんでいくために』 ～私たち大人ができること、伝えたいこと～ ・参加人数：約455人
成果・課題等	学校・家庭・地域の三者の連携のもと「龍ヶ崎教育月間」及び「龍ヶ崎教育の日」を中心に教育の日推進事業を展開し、教育環境の向上に努めました。 主催事業として「教育講演会」を開催しました。講師による講演会の他に、小中学生の日々の活動の成果を披露する取組として、金管バンドの演奏や声楽発表を実施し、参観した方々からの好意的な反響が得られました。



▲ デジタルサイネージ

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(1) 家庭の教育力の向上		
事業No	41	事業名	各種セミナーの開催
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	子育てふれあいセミナーを通じ、同じ年頃の子を持つ親の立場として、お互いの交流を深めつつ情報の提供及び交換を行うとともに、親や家庭のあり方、子どものしつけ、食育などについて学習する機会を提供しました。 子育てふれあいセミナーの実施 保護者が、子育てや教育に関する悩みなどを話し合える機会や、家庭教育に関する学習環境を整える目的で、小学校低学年を持つ保護者を対象に、市内小学校全11校で実施しました。家庭教育に関するプログラムは、セミナー生が自ら作成し、年間8回程度のセミナーを行いました。 また、そのほか年間4回の全体研修会開催しました。 ① 開講式：平成30年5月15日：市役所附属棟第1会議室 「リビングでできる“生きる力”育て」 ～子どもからのサインをキャッチ～ 富澤 優江 氏 ② 全体研修会：平成30年7月11日：市役所附属棟第1会議室 「見えますか子どもの心 聴こえますか声なき声笑顔で子育て」 ～五徳の美人に学ぶ親子のかかわり～ 大森 猛 氏 ③ 移動交流学习：平成30年10月19日：茨城県庁 外 セミナー生同士の交流を深めるため、市バスを利用した移動交流学习を行いました。 ④ 閉講式：平成31年2月21日：龍ヶ崎コミュニティセンター 多目的室 子どもの「人ちから」をつける ～転んでもいい！立ち上がる力をつけよう～ 柳田 尚久 氏 【平成30年度実績】子育てふれあいセミナー生：697人 実施回数8回 ◆開校式・全体研修会  ◆小学校での給食試食 
成果・課題等	○子育てふれあいセミナー延べ参加者数 730人 (H29: 658人) 子育てふれあいセミナーでは、子育てに関する不安や悩み、同じ年頃の子をもつ保護者同士が、セミナー等に参加することで、情報交換や相談の場となり、心の安定や家族とのコミュニケーションがスムーズになった等の意見を多くいただくことができました。 参加人数については前年度より72人増加しました。 相談業務については、子育てに悩む保護者が気軽に相談できるよう周知を図ります。

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(1) 家庭の教育力の向上		
事業No	42	事業名	相談体制の充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	多様化する子育てや青少年に関わる家庭教育の悩みなどの解消を図りました。 家庭教育相談の実施 多様化する子育てや青少年に関わる家庭教育の悩みなどの解決を図るため、家庭教育指導員が家庭教育相談を行いました。特に難しい思春期の子どもと母親・父親との関係についての相談が多く、親子関係で悩む相談に対して解決策を提案できるよう、身近な相談機関としての位置を保ちながら相談業務を実施しました。 また、青少年の生活や行動に疑問や不安を持っている保護者からの相談にも応じるため、市青少年センターの青少年相談員に代わって相談に応じるなど体制の充実と周知に努めました。
	○家庭教育指導員による相談件数 電話相談件数：6件 面談件数：11件 相談者の相談内容（子育てに関する悩み、学校生活における心配ごと）に応じて、適切なアドバイスをし、心配ごとの解消に向けた対応がなされました。 相談活動の成果として、定期的・継続的な相談活動を通して、相談者とのつながりをもつことができました。また、関係機関についての情報を相談者に提供することで、より専門的な支援をすることができました。学校や地域、教育委員会などの行政機関や福祉関係機関と連携しながら、子育てや家庭教育のサポートをすることができました。

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(1) 家庭の教育力の向上		
事業 No	43	事業名	基本的な生活習慣の定着
担当課	文化・生涯学習課／指導課		

実施状況	親や家庭のあり方、子どものしつけなどについて学習する機会を提供しました。 就学時健康診断時の家庭教育講話の実施 ・市内全小学校（11校）の就学時健康診断時に社会教育主事と家庭教育指導員が各学校へ出向き、新入学児童保護者を対象として、家庭教育ブックを用いながら、子育てや家庭教育に対するアドバイス、規則正しい生活習慣や自己肯定感の重要性などを説明しました。 - また、携帯電話やスマートフォンなどのメディアとの接し方についても説明を行った。（10月～11月 翌年度市内の小学校に入学予定の児童の保護者対象） 啓発用パンフレットの配布 ・年度初めの4月に新入学児童向け「早寝・早起き・朝ごはん」のパンフレットを配布し、規則正しい生活習慣の啓発を行いました。
	就学時健康診断時に家庭教育指導員が小学校入学予定の児童の保護者を対象として行う子育てや家庭教育に係る説明は、入学を6か月後に控えた児童とその保護者に準備を促すものとなっています。 また、「早寝・早起き・朝ごはん」パンフレットは、小学校に入学したばかりの児童587人の保護者宛に各小学校を通して配付し、就学にあたって家庭内での規則正しい生活習慣が大切であることを周知しました。 小学校入学6か月前と入学直後の2回、説明やパンフレット配付を行うことで、家庭内で基本的な生活習慣を身に付けることがいかに重要かを、保護者に意識していただくことができました。

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(1) 家庭の教育力の向上		
事業No	44	事業名	教育の日推進事業の充実【再掲】
担当課	文化・生涯学習課／教育総務課／指導課		

実施状況	実行委員会を開催し、平成30年度教育の日推進事業の事業内容などについて協議を行い、以下の事業を実施しました。 ①作品募集 ・「家族へのメッセージ」 応募件数：3,718点 ・みんなのアイデアが給食になる！「親子でつくる給食献立」 応募件数：933件 (小学校263件、中学校670件) ・「家族へのメッセージ」の優秀作品や「親子でつくる給食献立」の入賞作品を市役所や図書館にて展示し紹介しました。 ②地域・学校等の連携を深めることを目的に、市内小中学校、幼稚園、保育園（所）、認定こども園、高等学校、大学の自由参観の実施 ③子どもが主役！魅力ある学校づくり推進事業「たつのこプロジェクト」の参観 平成30～32年度の市内中学校の共通テーマを、「つながろう つたえよう みんなの心 ～10年後の龍ヶ崎の未来を見通した地域貢献活動～」とし、3年計画（企画・試行→実践→提言）の1年目（企画・試行）を、各中学校の生徒会が中心となって様々な企画を立案し、多様な活動を行いました。 ④PR活動の充実 広報紙及び市公式ホームページへの掲載、ポスターの掲示及びチラシの配布、横断幕及びのぼりの設置、デジタルサイネージへの掲載を行いました。 ⑤「教育講演会」の開催 11月24日（土）文化会館にて、流通経済大学スポーツ健康科学部教授でありジャーナリストとしても活躍している龍崎 孝氏による教育講演会を開催しました。駒馬台小学校金管バンドの演奏や城南中学校生徒による声楽発表も行いました。 ・テーマ『子どもたちが「夢」を持ち、「生きる力」をはぐくんでいくために』 ～私たち大人ができること、伝えたいこと～ ・参加人数：約455人
成果・課題等	学校・家庭・地域の三者の連携のもと「龍ヶ崎教育月間」及び「龍ヶ崎教育の日」を中心に教育の日推進事業を展開し、教育環境の向上に努めました。 主催事業として「教育講演会」を開催しました。講師による講演会の他に、小中学生の日々の活動の成果を披露する取組みとして、金管バンドの演奏や声楽発表を実施し、参観した方々からの好意的な反響が得られました。



▲ デジタルサイネージ

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(3) 子どもが健全に育つ環境の整備		
事業No	49	事業名	学童保育ルームの充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	市内の全小学校の教室や専用施設において、放課後児童健全育成事業（学童保育）を実施し、すべての小学校で全学年を対象とした学童保育ルームの運営を目指すとともに、施設の維持管理につとめました。 (1) 支援員及び備品の整備 加配対応児童の増加に伴う支援員の配置確保、及び利用児童の増加に伴う備品等の整備を行いました。 (2) 学童保育ルーム 夏季休業期間において、児童数の増加等に対応するため、児童の学習室・支援員の休憩室を学校より借用し夏季の保育ルームの環境整備を行いました。																																																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th><th>平成30年度入所児童数（人）</th><th colspan="2">各月1日時点の登録児童数（人）</th></tr> <tr> <th>4/1</th><th>9/1</th><th>3/1</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>龍ヶ崎小学校</td><td>80</td><td>60</td><td>59</td></tr> <tr><td>大宮小学校</td><td>42</td><td>34</td><td>32</td></tr> <tr><td>八原小学校</td><td>218</td><td>192</td><td>179</td></tr> <tr><td>馴柴小学校</td><td>125</td><td>106</td><td>190</td></tr> <tr><td>馴馬台小学校</td><td>70</td><td>59</td><td>59</td></tr> <tr><td>川原代小学校</td><td>14</td><td>14</td><td>13</td></tr> <tr><td>龍ヶ崎西小学校</td><td>74</td><td>71</td><td>71</td></tr> <tr><td>松葉小学校</td><td>71</td><td>60</td><td>57</td></tr> <tr><td>長山小学校</td><td>77</td><td>63</td><td>62</td></tr> <tr><td>久保台小学校</td><td>93</td><td>82</td><td>74</td></tr> <tr><td>城ノ内小学校</td><td>165</td><td>151</td><td>133</td></tr> <tr><td>合計</td><td>1029</td><td>892</td><td>812</td></tr> </tbody> </table>				平成30年度入所児童数（人）	各月1日時点の登録児童数（人）		4/1	9/1	3/1	龍ヶ崎小学校	80	60	59	大宮小学校	42	34	32	八原小学校	218	192	179	馴柴小学校	125	106	190	馴馬台小学校	70	59	59	川原代小学校	14	14	13	龍ヶ崎西小学校	74	71	71	松葉小学校	71	60	57	長山小学校	77	63	62	久保台小学校	93	82	74	城ノ内小学校	165	151	133	合計	1029	892
	平成30年度入所児童数（人）	各月1日時点の登録児童数（人）																																																							
	4/1	9/1	3/1																																																						
龍ヶ崎小学校	80	60	59																																																						
大宮小学校	42	34	32																																																						
八原小学校	218	192	179																																																						
馴柴小学校	125	106	190																																																						
馴馬台小学校	70	59	59																																																						
川原代小学校	14	14	13																																																						
龍ヶ崎西小学校	74	71	71																																																						
松葉小学校	71	60	57																																																						
長山小学校	77	63	62																																																						
久保台小学校	93	82	74																																																						
城ノ内小学校	165	151	133																																																						
合計	1029	892	812																																																						
成果・課題等	○学童保育ルームの利用者数：912人(5/1時点)、利用率24%（全児童からの割合） ○学童保育ルームの待機児童数：0人 入所児童数の増加に対応するため、夏季休業期間において余裕教室を借用し、保育ルームの環境整備を行いました。今後も利用増加が見込まれる保育ルームについては、増設も含めた対応を検討し、保護者の就労等を支援していきます。 一方で、支援員の募集に対する応募は、近年の人手不足の状況を反映したせいか、集まりにくくなっており、特に夏休み中の利用児童増加に対応した人材確保に苦慮した。 子育てと仕事の両立を支援する重要な事業であることから、今後も安定的な事業運営を行っていくためには、業務の執行方法を見直していく必要があります。																																																								

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(3) 子どもが健全に育つ環境の整備		
事業No	50	事業名	アフタースクール・サタデースクールの充実
担当課	文化・生涯学習課／指導課		

実施状況	対象学年を第3学年から第6学年に絞り、民間事業者のノウハウを活用し、児童の自主性・社会性を育み、充実したスクール運営を行いました。 ○実施内容 ・アフタースクール：自主学習／宿題やプリント学習 ：理科実験／おもしろ理科実験…ファラディモーター作り ・サタデースクール：自主学習 ：体験活動 移動プラネタリウム／オリジナルメダルづくり／サッカー教室／キックボクササイズ／ライム作り／縄跳び／ストロー作り／ビーズ教室／スライム作り／パネルシアター／七夕工作／ハロウィン工作 ◆アフタースクール  ◆サタデースクール 
成果・課題等	○アフタースクールまたはサタデースクールを実施した小学校及び延べ参加者数 ・サタデースクール：八原，馴柴，城ノ内小学校…17～19回 2,078人 ・アフタースクール：龍ヶ崎，大宮，川原代，龍ヶ崎西，松葉，長山，馴馬台，久保台小学校…15～17回 参加した児童や保護者へのアンケートの結果，7割以上が満足していると回答している。またサタデースクールの体験活動は，普段経験したことのないような活動ができ，9割以上が楽しいと回答している。課題としては参加した児童の中には特別な支援を要する児童がいて，学校や学童保育ルームと連携して対応していく必要がある。

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(3) 子どもが健全に育つ環境の整備		
事業 No	51	事業名	青少年センターの充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	青少年関連団体による市内巡回指導、街頭あいさつ・声掛け運動など積極的に地域に出て青少年の健全育成を推進し、同時に青少年の非行防止と、犯罪に巻き込まれないための指導に努めました。 (1) 定期的な巡回及び設置業者への指導 茨城県青少年の健全育成等に関する条例に基づき、青少年に有害な図書等の一掃を図るため、定期的な巡回を行いました。 (2) 違法屋外広告物の巡視 青少年のための健全な環境づくりを目指し、青少年相談員による市内全域を対象とした違法屋外広告物（貼りビラ・捨て看板）の巡視を実施しました。 【平成30年度実績】 回数：3回／撤去：0件 (3) 青少年の健全育成に協力する店との連携 市内の『青少年の健全育成に協力する店』に現在登録されている67店舗を訪問し、「青少年にふさわしくない行動を発見した場合は、ただちに注意するほか、青少年センター（文化・生涯学習課）または警察に連絡するなどして、青少年の健全育成に協力する。」ことを協力依頼し、啓発チラシ等を配布しました。 (4) あいさつ・声かけ運動 市青少年センター及び青少年育成龍ヶ崎市民会議、保護司会などの関係機関・団体と連携して、7月及び11月に「あいさつ・声かけ運動」キャンペーンを市内3ショッピングセンター及び市内小学校11校で実施し、青少年の健全育成及び問題行動抑制に努めました。 【平成30年度実績】 <table><tr><td>7月</td><td>小学校11校立哨</td><td>97人</td><td>ショッピングセンター</td><td>97人</td></tr><tr><td>11月</td><td>小学校11校立哨</td><td>86人</td><td>ショッピングセンター</td><td>86人</td></tr></table> ▲ あいさつ声かけ運動の様子 	7月	小学校11校立哨	97人	ショッピングセンター	97人	11月	小学校11校立哨	86人	ショッピングセンター	86人
	7月	小学校11校立哨	97人	ショッピングセンター	97人						
11月	小学校11校立哨	86人	ショッピングセンター	86人							
成果・課題等	(5) 市内巡回及び街頭指導 青少年相談員37人（うち教員籍21人） 毎月2回（2班編成、A班15:00～17:00・B班17:00～19:00）、学校周辺・大型店舗・ゲームセンター・レンタルビデオ店・カラオケ店・駅・公園などを巡回し、青少年に声かけを行う等、街頭指導を実施しました。 【平成30年度実績】 回数：46回／延べ人数：162人 ○青少年関連団体による市内巡回パトロール回数及び延べ参加者数：48回 144人 ○青少年の健全育成に協力する店の登録率：100% あいさつ・声かけ運動では、3カ所のショッピングセンター（LIXIL ビバ竜ヶ崎店、ランドローム龍ヶ岡店、ヤオコー竜ヶ崎店等）で計約1,500人に啓発用品を配布し、あいさつ・声かけの励行を呼びかけました。 市内巡回及び街頭指導では、防犯パトロールカーを用いて、不審者情報が寄せられた場所を重点的に巡回し、犯罪の抑止に努めました。										

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(4) 子ども達の交流の促進		
事業No	52	事業名	子どもの交流・活動拠点の充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	たつのこやま周辺などを子ども達の「遊びの拠点」と位置付け、心身の発育発達や自主性・創造性などを身につけてもらう場を創出しました。 また、子ども達が安全に、かつ、既製の遊具や遊びのプランの選択肢にとらわれることなく、自分たちのアイディアとスタイルで楽しみ、発見や創造する喜びを味わえる場を創造しました。 (1) 遊びの拠点事業の実施 龍ヶ岡公園たつのこステージにおいて「たつのこプレーパーク」遊んじゃ王を開催しました。 【第1回】7月7日(土) 台風接近に伴う荒天のため中止 【第2回】11月10日(土) (参加者) 子ども 67人, 保護者 32人, 学生ボランティア, 事務局 【第3回】3月23日(土) (参加者) 子ども 3人, 保護者 3人, 学生ボランティア, 事務局 (各回の内容) ・ダンボール等の廃材を利用した自由遊びの提供 (ダンボールでロボット・家づくり, お絵かき) ・シャボン玉あそび ・台車に乗って電車ごっこ ◆第2回プレーパークの様子
	○たつのこやま管理棟(子どもの居場所)の延べ利用者数: 20,166人 子どもたちがダンボール等の廃材を利用して、自由な発想力で遊べる場の提供を行いました。今後も、子どもたちが安全に楽しく遊べる場を創出するとともに、興味や関心を引き出す存在のプレーリーダー(学生ボランティア等)の発掘に努めます。 プレーパークのイベント実施について、冬季や雨天時の開催方法を検討する必要があると感じられます。

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(4) 子ども達の交流の促進		
事業No	53	事業名	子ども会活動の活性化
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	子ども会活動を通じて、子ども達の社会性や自主性を育み、未来を担う心豊かでたくましい子ども達を育成するために以下の事業を実施しました。 ・ 6月9日(土)：安全教育研修会 場所：龍ヶ崎消防署 内容：龍ヶ崎消防署による『救命入門コース』の受講 AED(自動体外式除細動器)の使用手法、胸骨圧迫法など 参加者：大人10名 小学生4名 合計14名 ・ 6月23日(土)・24(日)：チャレンジキャンプ開催 場 所：龍ヶ崎市森林公園 内 容：グループによる野外活動、KYT(キケン・ヨチ・トレーニング)、飯ごう炊飯、キャンプファイヤー等 参加者：84名 ・ 8月25日(土)：研修視察 場所：小美玉市(タカノフーズ・茨城空港の見学) ・ 8月26日(日)：市子連球技大会(少年野球の部)開催 場 所：たつのこスタジアム 参加者：龍の子少年野球倶楽部他1チームによる交流試合 ・ 9月17日(月・祝)：館林市・龍ヶ崎市子ども会親善野球大会 場 所：館林市城沼野球場・城沼公民館 参加者：90名 ・ 10月27日(土)：ニュースポーツ体験教室への参加 場所：たつのこアリーナ(サブアリーナ) 内容：ヘルシーボール、ユニカール、吹矢、輪投などのニュースポーツの体験教室 ・ 12月1日(日)：市子連球技大会(ミニバスケットの部)開催 場所：たつのこアリーナ(メインアリーナ) 参加者：龍ヶ崎小ミニバス・大宮小ミニバス(市内外の8チームによるトーナメント)・作文集の作成 広報誌の刊行		
	◆館林市との親善野球大会  ◆研修視察(タカノフーズ見学) 		
成果・課題等	○市子ども会育成連合会の児童の加入率 31% チャレンジキャンプは雨の中での開催となったが、態度決定に混乱が生じてしまい参加者からの問い合わせが殺到してしまった。また、限られた場所での活動となり本来の目的である体験活動が出来なかった。実施するかどうかの態度決定は慎重に判断することが必要と考えられる。		

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(4) 子ども達の交流の促進		
事業 No	54	事業名	子どもの地域活動への参加促進
担当課	文化・生涯学習課／指導課／コミュニティ推進課		

実施状況	子どもの地域活動（市内一斉清掃等）参加を通じ、社会の一員としての自覚や社会性を養い、青少年の健全育成を図りました。 特に中学生については部活動単位での参加が見られ、参加することへの意欲が感じられた。 ・青少年育成龍ヶ崎市民会議から小中学校を通じ、「まちづくりポイント制度」の周知を行い、児童・生徒の市内一斉清掃（6月・11月・3月）への参加の呼びかけを行いました。 ・市内各小学校において児童の登校時にのぼり旗を掲げ、青少年育成龍ヶ崎市民会議、青少年相談員等とともに「あいさつ・声かけ運動」を実施し、子どもたちに「あいさつ運動」の啓発活動を実施しました。 7月17日(火) 市内小学校 : 午前7時40分～ 市内ショッピングセンター 3箇所 : 午後5時～ 11月19日(月) 市内小学校 : 午前7時40分～ 市内ショッピングセンター 3箇所 : 午後4時30分～ ・参加した児童には学校を通じてまちづくりポイントシールを配布しました。
成果・課題等	○児童生徒の市内一斉清掃活動への参加率：29% 青少年の非行防止、健全育成を目的に、地域、家庭、近所、友達とコミュニケーションが図れる運動として、引き続き啓発を推進していきます。

施策名	2 子どもの健全育成		
施策の内容	(4) 子ども達の交流の促進		
事業 No	55	事業名	新成人の交流促進
担当課	文化・生涯学習課		

成人者にとって思い出に残るような式典とするため、市内の中学校6校ごとに新成人の代表による「成人式運営委員会」を組織して、成人式の企画・運営を行い、成人式を実施しました。

(1) 成人式典の開催

本市の成人式典の特徴は「新成人による企画運営」、「中学校区別での分散型」です。

市内中学校6校からそれぞれ推薦された男女各9人から12人が「成人式運営委員」となり、計2回の会議を行い、式典当日の担当、アトラクション内容等の打ち合わせを行いました。

式典は2部構成で開催され、第1部は来賓祝辞や成人者代表による抱負発表といったトラディショナルな形式に則った式典であり、厳かにかつ肅々と進められました。

第2部はアトラクションとしてビンゴゲームなどが行われ、伸びやかで華やいだ雰囲気となり、若者らしさにあふれ朗らかな光景となりました。

中学校を会場としているため、顔見知りが多く、各会場とも和やかな成人式典でした。

成人者の参加率は、76.8%と平成29年度より1.6ポイント上昇しました。

実施状況

平成30年度 成人者及び成人式典出席者数

(平成31年1月15日集計)

学 校 名	成人者数 (人)			式典出席者数 (人)			出席率 (%)
	男	女	計	男	女	計	
愛宕中学校	38	44	82	31	37	68	82.9
城南中学校	108	57	165	40	38	78	47.3
長山中学校	48	37	85	45	37	82	96.5
城西中学校	72	74	146	51	61	112	76.7
中根台中学校	80	62	142	80	55	135	95.1
城ノ内中学校	131	119	250	103	90	193	77.2
合 計	477	393	870	350	318	668	76.8

成人式への出席率は前年度より1.6ポイント上昇の76.8%と比較的高く推移しています。運営委員へのアンケートでは、現行の内容でよいという回答が82.4%を占め、一定の満足度が得られているものと思われます。

現在は中学校区ごとの開催方式としていますが、2022年の成人年齢の改正を念頭に、式典の対象者、会場等について、関係者の意見などを踏まえつつ早めに決定し、周知を行う必要があります。

成果・課題等

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(1) 学びを深める環境の充実		
事業No	56	事業名	中央図書館の利便性の向上
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	(1) 図書館資料の充実 ・新規に視聴覚資料としてDVD19点を購入し、新たに設けた基準により整備を行って館内視聴を開始しました。 ・児童の文学全集を見直し、69冊の買い替えを行いました。 (2) 指定管理を通じた継続事業、新規事業の展開 ① 新規に7事業を実施しました。 (主な新規事業) ・学童保育ルーム、小学校への出前講座の実施 夏休み期間に7ルームへ、小学校1校(2回)へ読み聞かせや素話、ブックトーク等の出前講座を実施しました。 ・来館が多いシニア層に向けたイベントを開催 家庭菜園野菜作りのコツと裏ワザ(参加者 23名)、生活習慣病予防講座(参加者 11名)／大人のためのおはなし会(3回開催 参加者 延べ87名) ・秋の読書週間イベントの実施 みんなで読書の木をつくろう／家読キャンペーン／中国語できくおはなし会／毛糸でポンポンストラップをつくろう ・赤ちゃんタイム1周年記念イベント 親子でベビーヨガ(参加者 51名)／離乳食講座(参加者 10組) ② 毎年度継続して実施する事業の充実を図りました。 (主な事業) ・文化講演会 市読書会連合会と連携し、平成31年2月16日(土)に龍ヶ崎市文化会館小ホールを会場として、脳科学者・茂木健一郎さんの講演会を開催しました。(参加者 415名) ・ボランティア研修の充実 福音館書店、農文協書店、東京子ども図書館から外部講師を積極的に招いて、ボランティアに役立つ研修会や講演会を開催しました。(11回 参加者 延べ159名)
成果・課題等	○中央図書館の延べ入館者数 181,022人 ○中央図書館の利用者満足度 84.9%(アンケート7項目の平均) ○電子図書館の延べ貸出件数 2,003点 赤ちゃんからシニアまで幅広い年代層を対象に、また、図書館内に限らず学校等外部に出向いて図書館利用促進・読書活動推進を行い、全体的に貸出冊数が増加しています。貸出利用人数については2年連続で増加しており、利用促進事業を展開した成果であると言えます。

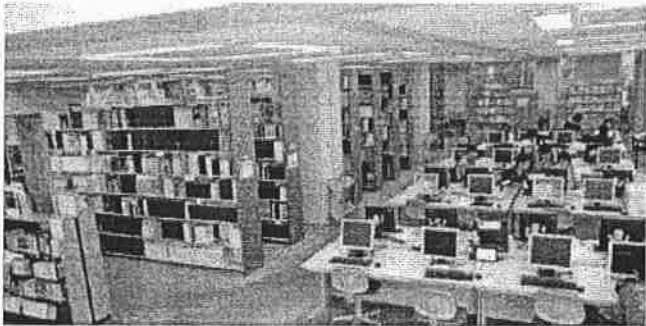
施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(1) 学びを深める環境の充実		
事業No	57	事業名	読書・学習環境の充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	1 施設の整備・充実 (1) 防犯カメラの設置 ・工事期間 H30年9月26日～H30年11月24日 ・工事内容 1階閲覧室に7台、2階ギャラリー・鑑賞室に各1台の防犯カメラを設置し、事務スペースで常時館内の様子を確認することができるようになりました。 (2) 空調機修繕 ・工事期間 H30年12月28日～H30年3月15日 ・工事内容 1階空調機の劣化部品を交換し、設備のメンテナンスを行いました。 (3) 1階和室改修の実施設計 1階和室をフロア化し、充実した学習スペースを創出するための実施設計を行いました。 2 図書の充実（指定管理者による） (1) 図書館資料の購入 ・図書館資料購入・受入 図書 8,426冊、雑誌 123誌、新聞 16紙、電子資料 1,051点、ほか ・書架の増設 まいん閉館に伴い、譲り受けた書架を活用して、書架に利用しやすいゆとりを生み出すことができました。 3 職員研修（指定管理者による） 他自治体の図書館への視察、茨城県立図書館が主催する研修会、自社研修などへ22回延べ53名のスタッフが参加し、図書館員としての技能・知識の向上を図りました。
	譲り受けた書架が活用された閲覧コーナー 
成果・課題等	防犯カメラを増設して、1階閲覧室の書架の間や2階のギャラリー・鑑賞室など、カウンターや事務室から死角となっていたスペースの確認が可能となりました。また、録画機能により、館内での不審な行動等に対して迅速に対応することが可能になりました。 児童コーナーと成人コーナーでは、寄贈された書架に手を加えて限られたスペースに有効に配置し、利用しやすい棚づくりを進めました。

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(1) 学びを深める環境の充実		
事業No	58	事業名	子どもの読書活動の推進
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	(1) 子ども読書活動推進計画（第三次）の進行管理 平成30年3月に策定した第三次計画について、各担当課において施策の実施を進めました。また、計画の進捗管理を行うために、7月と2月に龍ヶ崎市子ども読書活動推進委員会の会議を開催しました。 (2) 中央図書館における計画の実施 ① おはなし会の継続実施 ・おはなし会 22回/年、延べ363人参加 ・こぐまちゃんのおはなし会 12回/年、延べ277人参加 ・たつの子お話タイム 8回/年、延べ31人参加 ・おはなし会ボランティア研修の実施 3回/年、51人参加 ② ブックスタート事業の実施 ・絵本2冊とエコバック配布 24回/年、457人参加 ・新規でブックスタートボランティアを公募して、初心者研修を実施するとともに、継続ボランティアのスキルアップ研修を実施 3回/年、19人参加 ③ 【新規】おはなし講習会 5回/年、延べ87人参加 おはなしボランティアの育成を目的とした講習会5回を開催しました。東京子ども図書館から講師を招いた講演会、図書館のおはなし会で活躍しているボランティアが講師を務める研修会や受講生による発表会等を開催しました。 ④ 【新規】赤ちゃんタイム実施1周年記念イベント 2回/年、延べ116人参加 昨年度開始した赤ちゃんタイムが1周年を迎えたことを記念し、赤ちゃんタイムに参加しているお母さんたちの声を反映した、赤ちゃんと保護者を対象としたイベントを開催しました。 ⑤ 【新規】学童保育ルームへの出前講座 夏休み期間に、出前の希望があった7ルームで、読み聞かせや素話、ブックトークなどを実施 ⑥ 【新規】学校への出前講座 県の学校図書館支援事業の一環として、城内小学校で出前講座を行い、1年生に対しては、国語の教科書に出てくる本をテーマにしたブックトークを、5年生に対しては郷土の昔話をテーマに読み聞かせや語り、本の紹介などを行いました。 ⑦ 【新規】秋の読書週間イベントの開催	 おはなし講習会の様子
	○幼児（0～5歳）一人当たりの絵本・紙芝居貸出冊数 20.1冊 ○図書館の子ども向けイベント講座・イベントの延べ参加者数 2,271人 市子ども読書活動推進計画（第三次）は、計画期間を平成29年度から平成32年度までとして、第二次推進計画の内容を修正した16施策、第二次推進計画を引き継ぐ14施策、新規に5施策を加え、合わせて35施策を進行中です。 また、指定管理者による事業が3年目となった中央図書館では、新規に講座を開催したり、他施設との連携により事業の幅を広げています。 今後も第三次推進計画の施策を実施し、更に事業が展開されることが期待されます。	

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(1) 学びを深める環境の充実		
事業No	59	事業名	流通経済大学の図書館との連携強化
担当課	企画課／文化・生涯学習課		

実施状況	平成18年度より、流通経済大学の図書館は、20歳以上の市民（市在勤者を含む）も利用可能となり、専門的な資料の収集や知識の習得に利用されています。 平成30年度は、同大学の知識の宝庫である図書館について、さらなる利用促進のため、市公式ホームページやSNS（ツイッター・フェイスブック）により周知を図りました。 流通経済大学龍ヶ崎図書館 
	20歳以上の市民（在勤者を含む）であれば、流通経済大学龍ヶ崎図書館が利用可能であることについて、あまり知られていないため、利用対象者の拡充に向けて、今後も引き続き、大学との連携を強化し、市公式ホームページやSNS（ツイッター、フェイスブック）による周知を強化する等、認知度向上を図るとともに大学が持つ専門的な資料の有効活用を促進します。 平成30年度流通経済大学図書館市民利用者数21人（対前年度比 △4人）

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(2) 多様な学習機会の充実		
事業 No	60	事業名	人材バンクの充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	(1) 人材バンク登録講師一覧の広報紙掲載 新たな登録者を加えた人材バンク登録講師一覧を、平成31年2月後半号の市広報紙で紹介しました。また、一覧表に加えて、新たに登録された講師の指導内容を写真付きで2件紹介しました。 (2) 新規登録者（5名）の指導内容 1 クラリネット指導・2 税務全般・3 日本画・4 手作りせっけん・5 作曲 (3) 所管課による人材バンクを活用した教室の開催 所管課として、人材バンクを活用して3件の教室を開催。個人に加え親子での参加など幅広い年齢層の市民が参加できる教室として開催することができました。		
	教室名	開催日・場所	参加者数
	人材バンク活用教室（親子で楽しむ染色教室）	8/1（水）歴史民俗資料館 体験学習室	7組14名
	人材バンク活用教室（ラップブレスレット教室）	7/4（水）図書館鑑賞室	7名
	人材バンク活用教室（ハーバリウム教室）	2/14（木）図書館鑑賞室	10名
成果・課題等	※人材バンクを活用した生涯学習講座・教室開催数→3講座・教室 各回実施したアンケートでは、開催時期、時間設定など概ね好評であった。 2月に実施した教室では、受付枠が早期に埋まってしまい、参加できなかった市民から2度目の実施を要望する声が多く寄せられるほどでしたが、講師が市の人材バンクの登録者であることを知らない参加者がほとんどでした。 今後も、講座開催をとおして、人材バンク講師及び人材バンクそのものの紹介を行って行く必要があります。		

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(2) 多様な学習機会の充実		
事業No	62	事業名	生涯学習講座等の充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	コミュニティセンターや図書館、歴史民俗資料館などで行われている生涯学習事業のメニューを市民に紹介し、市民の教室・講座等への参加機会の拡大に努めるとともに、文化・生涯学習課では主催や招請による各種講座・教室を実施しました。 1 生涯学習プログラムの情報提供 生涯学習関連の教室・講座などの情報を生涯学習推進プログラム（106項目）としてとりまとめ、広報紙及び市HPへ掲載し、様々な学習機会を提供しました。 2 生涯学習講座・教室の開催 (1) 私立大学生涯学習支援プログラムによる講演会の開催 講座名：東洋大学講師派遣【生涯学習支援プログラム】 「江戸幕府の成立と徳川三代」 講師：東洋大学名誉教授 大野瑞男氏 日時：9/27（木）14:00～15:30 場所：中央図書館 2階 鑑賞室 聴講者数：37名 (2) 生涯学習講座 講座名：「古民家再生から見えてくること」 講師：吉田建築計画事務所所長 吉田良一氏 日時：10/20（土）13:30～15:00 場所：中央図書館 2階 鑑賞室 聴講者数：20名 (3) 龍ヶ崎市人材バンクを活用した講座 ・親子で楽しむ染色教室 日時：8/11（土）10:00～12:00 場所：歴史民俗資料館 2階 体験学習室 参加者：7組14名 ・ラップブレスレット教室 日時：7/4（水）10:00～12:00 場所：中央図書館 2階 鑑賞室 参加者：7名 ・ハーバリウム教室 日時：2/14（木）10:00～12:00 場所：中央図書館 2階 鑑賞室 参加者：10名 (4) シニア向けスマートフォン・タブレット講座 日時：11/6（火）10:00～12:00, 14:00～16:00 市役所附属棟 参加者：28名
	○市が主催する市民大学講座（生涯学習講座）の開催数 6回 生涯学習推進プログラムにより、市が実施する講座情報を一括して情報提供し、市民が講座を選択する際の利便性の向上を図りました。 人材バンクの登録講師を活用した講座では、親子参加型の講座をはじめ、人気の高いハンドメイドをテーマに、材料準備などを講師が行うことで、気軽に参加可能な講座を開催し、学習の切っ掛け作りになりました。 前年度に引き続き、4回目の招請となった東洋大学が提供するプログラムを活用した講座、今年度新規に開催した1級建築士を招いて開催した講座は、大学教授、専門家ならではの専門性の高い講座内容で市民の知識欲を満たすものとなりました。

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(2) 多様な学習機会の充実		
事業No	64	事業名	出前講座の充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況

【出前講座の実施状況】

利用（開催）実績は77件で、昨年度から22%減でした。
(H26年度：58件、H27年度65件、H28年度93件、H29年度99件)

【開催数上位の課等の表彰】

前年度実績で開催数上位のメニューを所管している課等を市長表彰しており、平成30年度は下記の3講座を表彰しました。

順位	講座名	担当課名	開催数
1	2-8 介護予防について	健幸長寿課	15
2	2-12 認知症サポーター養成講座	健幸長寿課	14
3	8-1 防災対策について	危機管理課	13



平成30年度表彰式



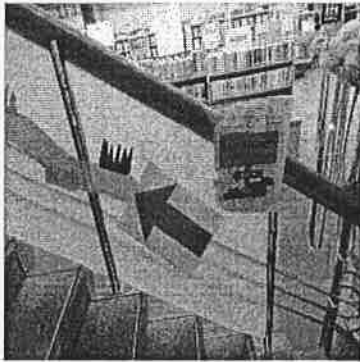
第1位の表彰

成果・課題等

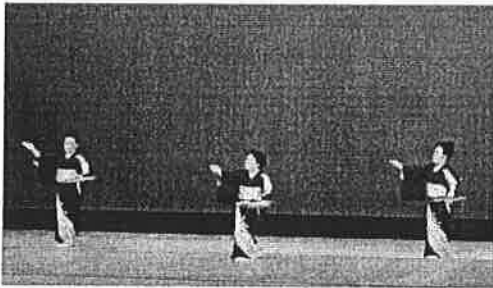
※出前講座の利用件数→77件

出前講座の利用件数は2年ぶりに90件を下回りました。申込件数が多いものは、継続して介護関係及び防災関係の講座であり、市民の関心が高いテーマであることが分かります。

施策名	3 生涯学習の推進		
施策の内容	(3) 人権教育・啓発の推進		
事業No	65	事業名	人権啓発活動の充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	人権週間に合わせて、人権意識の高揚を図るために、生活の身近な場所である中央図書館を会場として、人権啓発ポスターのパネル展を開催しました。 今年度は、絵本作家でもある、やなせたかしさんが作成した紙芝居形式のパネル16点を展示し、主に児童等の低年齢層とその保護者等を対象とした啓発を行いました。 ○期間：人権週間12月4日（火）～10日（月） ○場所：中央図書館2階 ギャラリー ○展示：公益財団法人 人権教育啓発推進センターから借用した人権啓発ポスター「ぐらぐらもりのおばけ」16点を展示 ○広報：市広報紙に掲載したほか、ポスター・チラシを作成してコミュニティセンター等に掲示依頼し、合わせて小学校を通じて市内小学校児童全員に配布しました。
	  展示会場の様子
成果・課題等	○人権週間に合わせた啓発活動数 1回 中央図書館で2階ギャラリーで行ったパネル展については、受付を配置していないことから展示期間の来場者数の把握が出来ませんでした。同じフロアで開催した図書館のイベント参加者や、自動販売機や休憩スペースを利用する親子連れなどが目にする事にもなり、効果があったと思われます。

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(1) 文化芸術に親しむ機会の充実		
事業No	68	事業名	地域文化活動の育成及び支援
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	1 市民団体との共催事業 ①第13回龍ヶ崎市文化の祭典【5/15～5/27, 5,213人】 ②合唱講習会【8～11月(全8回), 22人】 ③伝統芸能講習会(盆踊り講習会)【8/11, 45人】 ④バンドやろうよ講習会【8/4, 8/5, 8/11, 8/12, 8/20, 4人】 ⑤龍ぽん祭2018【8/19, 3,200人】 ⑥癒し&くつろぎ&ミニコンサート【9/23, 210人 2/11, 160人】 ⑦体験学習教室(はじめての盆栽と山野草)【9/24, 25人】※新規事業 ⑧お茶会&お琴演奏会【10/7, 100人】 ⑨ふれ愛広場2018映画上映会【10/14, 300人】 ⑩第27回龍ヶ崎市民文化芸術フェスティバル【10/23～11/23, 21,993人】 ⑪第10回高齢者いきいき健康マージャン交流大会【3/9, 96人】 ⑫創造展(ちぎり絵)【3/13～3/17, 265人】
	  ▲市民文化芸術フェスティバル(左:ステージ発表/右:作品展示)
成果・課題等	2 その他地域文化活動の支援事業 ①ひとりの演奏会(スタインウェイグランドピアノ演奏)【5/2～5/4, 24人】 ②文化協会加盟団体事業支援(施設の優先貸出) ・春季盆栽展【6/1～6/3】 ・竜ヶ崎子どもミュージカル第14回公演【6/24】 ・桜井クラシックバレエ教室第16回発表会【7/15】 ③美術館見学会(水戸市 茨城県立近代美術館)【1/31, 39人】
	●平成30年度市民文化芸術フェスティバル延べ来場者数 …21,993人 (対前年度比+1,095人) 市民団体との協働により毎年秋に開催している「市民文化芸術フェスティバル」は2年連続で来場者数が対前年比で1,000人以上のプラスとなり、芸術の秋の恒例行事として賑わいを見せています。 今後も引き続き、より多くの皆様にご来場・ご参加いただける魅力あるイベントを開催し、市の文化芸術活動の更なる活性化を図っていきます。

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(1) 文化芸術に親しむ機会の充実		
事業 No	69	事業名	文化会館の利便性の向上
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	1 文化会館設備の更新等（文化・生涯学習課執行分） ①大ホール天井改修工事 … 大ホール天井（非構造部材天井）の耐震化工事 ※工期は2019年1月～9月 ②大ホール照明LED化工事 … 大ホール客席等照明のLED化工事 ※工期は2019年1月～9月 2 その他利便性の向上に関する事業 ①工事に伴う大ホール閉鎖についての周知 … 2019年1月から9月まで上記改修工事に伴い大ホールが使用できなくなること を踏まえ、広報紙・ホームページ等による全市的な周知以外に、過去2年間の ホール利用者に対して個別に事前連絡を実施。
	●平成30年度文化会館施設の延べ利用者数 …128,679人（対前年度比+8,737人） ●平成30年度文化会館大ホール稼働率 …48%（対前年度比△6.8%） ●平成30年度文化会館の利用者の満足度※ …97.7%（対前年度比+2.2%） ※来館者アンケート「文化芸術に触れ親しむ施設としての満足度」の設問で「満足」「やや満足」と回答した方の割合の合計 多人数を収容可能な施設であり、災害発生時の指定避難所にも定められていることから、今後想定される大規模震災等を見据えて大ホールの天井改修工事を実施しています。 今後も、策定予定である施設の長寿命化計画をもとに改修等を行い、来館者が安心・安全に利用できる施設の維持管理に努めるとともに、更なる満足度向上を目指した施策を検討・実施していきます。

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(1) 文化芸術に親しむ機会の充実		
事業No	70	事業名	鑑賞・招聘型文化活動の充実
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	1 鑑賞・招聘型事業 ①演歌新時代 山内恵介熱唱ライブ春【4/8, 884人】 ②名作映画会 Part1「鎌倉ものがたり」【4/15, 273人】 ③工藤静香アコースティックライブツアー2018【7/16, 917人】 ④夏休み映画会「ドラえもん のび太の宝島」【8/12, 1,840人】 ⑤神野美伽コンサート「さあ歌いましょう」【9/9, 1,163人】 ⑥ピアノ de リレーコンサート【12/1, 159人】 ⑦ぬいぐるみミュージカル【12/2, 880人】 ⑧名作映画会 Part2「未来のミライ」【12/16, 154人】 ⑨文化会館フレンド会特別事業「龍ヶ崎寄席2019」【2/10, 461人】
	幅広い層の方々に文化芸術に触れていただく機会を提供するため、映画・コンサート・寄席など様々なジャンルの事業を企画・実施しました。 山内恵介や工藤静香ら著名な歌手を招聘したほか、話題のアニメ作品の映画上映など若年層を意識した事業を実施し、来館者の拡大を目指しました。 今後も、来館者のニーズを踏まえながら質の高い舞台作品等を積極的に招聘・提供し、市民の文化芸術に対する意識の高揚を図っていきます。

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(2) 多様な文化財の保存と活用の推進		
事業No	71	事業名	文化財の指定及び保護
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	1 「旧諸岡家住宅煉瓦門および塀」の国文化財登録原簿への登録 市民団体「赤レンガ保存実行委員会」により、平成27年に上町八坂神社脇の公園隣接地に移設された「旧諸岡家住宅赤煉瓦門および塀」が国の文化財登録原簿に登録・告示されました。 【登録年月日】平成30年5月30日（同日付で官報告示） 【登録番号】第08-0303号 【構造、形式及び大きさ】 門 … 煉瓦造 間口3.7m 左右脇柱付 塀 … 煉瓦造 総延長10m <関連事業> ①登録証授与式 … 6月18日、平塚教育長より赤レンガ保存実行委員会の久保田房子委員長へ、登録有形文化財登録証の授与が行われました。 ②登録プレート表示サインの作成・設置 … 登録証と共に国から授与された登録有形文化財のプレートを現地に掲示するため、業務委託により御影石製の台座にはめ込んで設置しました。 【契約期間】平成30年12月3日～平成31年3月31日 【総事業費】144,720円
	 ▲赤レンガ門および塀（全景）  ▲設置された登録文化財プレート
成果・課題等	●市指定文化財の指定数（平成31年3月末現在）…19件 平成30年度における新規指定文化財の指定はありませんでしたが、当市ゆかりの明治期のレンガ建造物が新たに国登録有形文化財（旧小野瀬家住宅店舗／主屋に続く3件目）の仲間入りを果たしました。 貴重な文化財を良好な状態で後世に継承していけるよう、引き続き新たな指定候補物件の掘り起こしや既存指定文化財の保存に努めていきます。

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(2) 多様な文化財の保存と活用の推進		
事業No	72	事業名	市民遺産の認定
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	1 龍ヶ崎市民遺産の新規認定 文化財保護審議会への諮問・答申を経て、平成31年3月20日開催の教育委員会定例会において、新たに1件の龍ヶ崎市民遺産が認定されました。 ①女化神社 親子狐の石像（龍ヶ崎市民遺産第12号） 【所在地】馴馬町 女化神社境内 【所有者等】女化神社   ▲親子狐の石像（向かって左） ▲（向かって右）
	2 説明板の製作・設置 【契約期間】平成30年10月15日～平成30年12月21日 【受託業者】鴻巣工芸 【委託料】766,800円 【成果品】市指定文化財／市民遺産説明板の製作・設置 ①若柴八坂神社の祇園祭（若柴町・八坂神社境内）※新規 ②板碑（貝原塚町・金剛院境内）※更新 ③山岡鐵太郎筆「龍崎学校」（根町・龍ヶ崎小学校校舎内）※新規，小型プレート
成果・課題等	●市民遺産の認定数（平成31年3月末現在）…12件 龍ヶ崎市民遺産制度も制度開始から4年が経過し、今回の新規認定分を合わせて12件となりました。 今後も市民遺産認定を通じて「歴史と文化のまち・龍ヶ崎」の魅力を伝え、シビックプライドの醸成や伝統文化の保存・継承に資するべく、制度の活性化を図っていきます。

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(2) 多様な文化財の保存と活用の推進		
事業No	73	事業名	歴史資源などの活用
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	1 国指定重要文化財「絹本著色十六羅漢像」レプリカ作製業務委託 【契約期間】平成30年5月28日～平成31年2月28日 【受託業者】(株)日展 東京支店 【委託料】5,108,400円 【成果品】絹本著色十六羅漢像掛軸(全16幅)のうち、4幅のレプリカを作製(第5尊者～第8尊者) 2 絹本著色十六羅漢像(複製)公開展の開催 【開催期間】平成30年5月12日～5月27日 【会場】歴史民俗資料館 企画展示室 【内容】平成29年度に作製したレプリカ4幅の掛軸を市民の皆様にお披露目するため、企画展示として初公開しました(入場者数:1,538人)。 また、期間中の5月20日には県立歴史館の田中伸吾学芸員を講師にお招きし、「絹本著色十六羅漢像ー作品解説とレプリカ完成までの道程ー」と題した記念講演会を開催しました(39名参加)
	3 旧竹内農場調査報告会の開催 【開催日】平成30年4月21日 【会場】市役所附属棟1階会議室 【参加者】55名 【内容】旧竹内農場赤レンガ西洋館に関し、市および委託業者が調査して判明した事項について、市民の皆様に向けた報告会を開催しました。 <第1部>「竹内家文書・竹内明太郎日記調査報告」 報告者:文化・生涯学習課 梁取課長 <第2部>「竹内農場に関する史料から読み解く赤レンガ西洋館の特徴」 報告者:(株)マヌ都市建築研究所 今井文子氏
	4 企画展「竹内農場と赤レンガ西洋館」の開催 【開催期間】平成30年8月1日～9月2日 【会場】歴史民俗資料館 企画展示室 【内容】上記報告会に関連し、竹内農場や赤レンガ西洋館にまつわる図面・写真等の展示を行いました。会場内では、ドローンで赤レンガ西洋館や蛇沼周辺の上空を撮影した映像なども上映しました(入場者数:4,343人)
	●市指定文化財または市民遺産等を活用したイベント件数(平成30年度開催)…3件 ●指定文化財及び市民遺産等の説明板設置数(平成27年度以降の延べ設置数)…15件 蛇沼周辺の開拓を行った旧竹内農場のシンボルであった赤レンガ西洋館に関して、調査結果を様々な形で市民の皆様へ周知し、高い関心をお寄せいただきました。 今後も、「絹本著色十六羅漢像」の残り8幅のレプリカ作製を推進するほか、文化財に関連した展示や講演会などを企画・実施し、多くの方々に「歴史のまち・龍ヶ崎」をアピールするとともに、地元への誇りの醸成につなげていきます。

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(3) 郷土学習の推進		
事業No	74	事業名	歴史民俗資料館の利活用の向上
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	指定管理者による管理運営 (1) 企画展・収蔵品展の開催 ①常設展示 ②ボランティア作品展「布れあい染織展」：4/20～5/6 ③企画展「絹本著色十六羅漢像（複製）」：5/12～27（市文化・生涯学習課主催） ④収蔵品展「みるもの・きくもの」：6/2～7/1 ⑤写真展「対馬丸－沖縄学童疎開中に沈められた船－」：7/7～22（市法制総務課共催） ⑥企画展「竹内農場と赤レンガ西洋館」：8/1～9/2（市文化・生涯学習課主催） ⑦企画展「時を語る記念品」：9/15～10/21 ⑧郷土作家展「高橋好文・中敬子展」：10/27～11/11（文化芸術フェスティバル） ⑨れきみんコレクション展：11/29～1/27 ⑩収蔵品展「昔のはかる道具展」：1/16～2/28 ⑪茨城県教育財団遺跡調査展「見て ふれて 楽しい考古学」：2/8～3/3（茨城県教育財団主催） ⑫神田明神祭礼絵巻展：3/1～3/31 (2) 普及事業の実施 ①歴史講座「龍ヶ崎を通った2つの水戸街道－水戸街道と布川道－」：5/19 ②歴史講座「幕末の島津家“篤姫”と“さか”－仙波市左衛門日記から－」：7/14 ③古文書講座「近世古文書を読む」：上級コース12回、初級コース9回 ④歴史散歩：3回（7/23, 29, 11/23） ⑤博物館見学会（益子参考館外）：10/5, 11/22 ⑥れきみんシアター：毎週土曜日 ⑦れきみん祭り：8/12 ⑧駄菓子屋：2回（8/12, 10/14） ⑨夏休み歴史教室：2回（8/2, 4） ⑩撞舞コスプレ体験：7/29 ⑪茨城県教育財団遺跡調査発表会：2/17 ⑫昔の8ミリ映像上映会：6回（3/9, 10, 16に各2回） (3) 体験学習教室の開催 ①わら草履作り教室：2回（8/3, 8/19） ②注連飾り作り教室：3回（12/12, 14, 16） ③春の草木染め教室：4回（5/26・27, 5/30・31, 6/20・24） ④藍の生葉染め教室：2回（8/5, 10） ⑤秋の草木染め教室：4回（9/23, 28, 10/19, 21） ⑥藍と草木染め教室：9回コース ⑦てん刻入門教室：3/13・14 ⑧江戸型彫り教室：12/1 ⑨機織り伝承教室：毎週火、木（通年） ⑩機織り教室：10回（3/19～31） ⑪簡単機織り教室：2回（8/11, 12） ⑫折り紙教室：3回（6/15, 10/12, 3/15） ⑬お手玉作り教室：2/14 ⑭竹細工教室：8/12 ⑮御殿まり教室：9/30 ⑯龍ヶ崎とんび凧作り教室：11/18 ⑰貝殻で作るお雛様教室：2/17 ⑱フラワースタンド教室：3/9 (4) 文化活動の推進及び支援 ①常陽小学生新聞『昔の道具と暮らし』に寄稿：12回 ②資料閲覧およびレファレンス：通年 ③展示及び郷土史解説：【郷土史解説】馴馬台地域ひなっこ協議会/八原小学校/印西市中央公民館/茨城県南生活者ネット【展示解説】流通経済大学/茨城県退職高等学校長会/越谷市桜井地区公民館/取手市山王公民館 ④小学校見学学習支援：市内小学校11校、阿見町5校、牛久市7校、取手市2校、河内町1校 ⑤学芸員実習生の受入：4名（筑波大、大正大、東京農業大） ⑥ボランティア活動の推進及び支援：資料館ボランティア/龍ヶ崎市古文書同好会（育成及び協働団体） ⑦職場体験の受入：6名（取手一高、城ノ内中、愛宕中） (5) 資料収集整理保存 ①資料の収集：7件174点 ②資料の整理保存：市内旧家から寄贈・寄託等を受けた資料の整理分類及び目録作成 ③祭礼・史料調査：上町八坂神社祭礼調査、石碑調査2件
成果・課題等	●歴史民俗資料館の延べ利用者数→29,764人 ●歴史民俗資料館（体験学習室）の稼働率→40% ●歴史民俗資料館の利用者（展示事業、普及事業、体験学習教室）の満足度 →展示：96.4% 普及：99.0% 体験学習：99.6% 事業に対する利用者の満足度は高い数字を示しており、延べ利用者数も前年度と比較して1,003名の増となっています。茨城県教育財団主催の埋蔵文化財巡回展示を招聘するなど、民俗だけでなく考古学の分野の展示も実施しました。 なお、今後においては、地域の伝統的な祭礼・年中行事の保存継承を図るための長期的視点での調査や、観光・健康づくり等の他事業と連携するなど、全庁的な体制のもとで当市の歴史的・文化的資源を有効活用した事業展開が求められていることから、資料館の運営体制についても転換期を迎えています。

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(3) 郷土学習の推進		
事業No	75	事業名	体験学習の充実
担当課	文化・生涯学習課／指導課		

実施状況	1 歴史民俗資料館主催の体験教室 ①わら草履作り教室：2回（8/3, 8/19）→参加者：20人 ②注連飾り作り教室：3回（12/12, 14, 16）→参加者：21人 ③春の草木染め教室：4回（5/26・27, 5/30・31, 6/20, 24）→参加者：42人 ④藍の生葉染め教室：2回（8/5, 10）→参加者：22人 ⑤秋の草木染め教室：4回（9/23, 28, 10/19, 21）→参加者：34人 ⑥藍と草木染め教室：9回コース →参加者：8人 ⑦てん刻入門教室：3/13・14 →参加者：10人 ⑧江戸型彫り教室：12/1 →参加者：15人 ⑨機織り伝承教室：毎週火、木（通年）※資料館ボランティア希望者 ⑩機織り教室：10回（3/19～31）→参加者：36人 ⑪簡単機織り教室：2回（8/11, 12）→参加者：40人 ⑫折り紙教室：3回（6/15, 10/12, 3/15）→参加者：33人 ⑬お手玉作り教室：2/14 →参加者：10人 ⑭竹細工教室：8/12 →参加者：12人 ⑮御殿まり教室：9/30 →参加者：13人 ⑯龍ヶ崎とんぴ風作り教室：11/18 →参加者：5人 ⑰貝殻で作るお雛様教室：2/17 →参加者：16人 ⑱フラワースタンド教室：3/9 →参加者：15人 2 龍ヶ崎発見フォトラリー マイライブラリー展への協力 【期間】・フォトラリー：7/21～1/31 ・マイライブラリー展：12/26～1/11 【内容】 市教育研究会が主催する、児童の郷土愛の醸成を目的とした事業です。 小学3年生が保護者と共に市内の文化財や史跡計17か所を訪れ、撮影した写真や感じたことを「マイライブラリー」にまとめ、各校の優秀な作品については市役所1階フロアで展示しました。	
	▲市役所1階ホールでの「マイライブラリー展」の様子	
成果・課題等	●体験学習教室の延べ参加者数 →352人 受講者アンケートの意見などを踏まえて教室を企画・開催しています。 人気のあるものは毎年継続的に開催しており、「貝殻で作るお雛様教室」など新規の教室も随時取り入れています。 参加した方からは、非常に高い満足度（99.6%）を得られています。	

施策名	4 文化芸術の振興		
施策の内容	(3) 郷土学習の推進		
事業 No	76	事業名	郷土史の普及促進
担当課	文化・生涯学習課		

実施状況	1 歴史民俗資料館における郷土史促進事業 ①歴史講座「龍ヶ崎を通った2つの水戸街道－水戸街道と布川道－」：5/19 →参加者：48人 ②歴史講座「幕末の島津家“篤姫”と“さか”－仙波市左衛門日記から－」：7/14 →参加者：46人 ③古文書講座「近世古文書を読む」：【上級コース】12回 【初級コース】9回 →参加者：【上級コース】延べ331人 【初級コース】延べ232人 ④歴史散歩：3回（7/23, 29, 11/23） →参加者：計41人 ⑤博物館見学会（益子参考館外）：10/5, 11/22 →参加者：計60人 ⑥れきみんシアター：毎週土曜日 →参加者：延べ177人 ⑦れきみん祭り：8/12 →参加者：1,349人 ⑧駄菓子屋：2回（8/12, 10/14）※れきみん祭り／ふれ愛広場内でそれぞれ実施 ⑨夏休み歴史教室：2回（8/2, 4） →参加者：計4人 ⑩撞舞コスプレ体験：7/29 →参加者：計8人 ⑪茨城県教育財団遺跡調査発表会：2/17 →参加者：51人 ⑫昔の8ミリ映像上映会：6回（3/9, 10, 16に各2回） →参加者：延べ40人
成果・課題等	●歴史散策会の延べ参加者数→41人 新規事業として、平成28～29年度実施の市民協働提案事業「映像アーカイブによる街づくり」で収集された昭和40～50年代の8ミリフィルムから、当市の風景・行事映像などを約30分のDVDに編集し、上映会を開催しました。 また、寄贈いただいた子どもサイズの舞男の衣装を着て撞舞展示コーナー前で記念写真を撮るイベントなど、幼少期から郷土の伝統文化に慣れ親しむための事業を実施しました。

(2) スポーツ都市推進課

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(1) 流通経済大学と連携したスポーツ施策の推進		
事業 No	77	事業名	流通経済大学運動部との連携
担当課	企画課／スポーツ都市推進課		

実施状況	(1) 各運動部の公式試合日程等の情報提供 ・総合運動公園イベントスケジュールへの掲載や試合会場等にポスターを掲示するとともに、市広報紙りゅうほー・市公式ホームページ・SNS（ツイッター・フェイスブック）の活用や佐貫駅前デジタルサイネージなどを活用し、継続した試合情報の提供のほか、サッカー公式戦集中応援日等のイベントについても、積極的な告知を行い、来場者の増加を図りました。 (2) 市の運動施設の優先貸出 ①総合運動公園における流通経済大学運動部の公式戦等の開催数 ・サッカー 関東大学サッカーリーグ戦・・・6 試合 日本フットボールリーグ（JFL）・・・15 試合 ・ラグビー 関東大学ラグビー春季大会・・・1 試合 関東大学リーグ戦・・・1 試合 ・硬式野球 東京新大学野球連盟春季リーグ戦・・・3 試合 東京新大学野球連盟秋季リーグ戦・・・2 試合 ・陸上競技 流通経済大学陸上競技会・・・10 大会（13 日間） (3) 応援バスツアーの開催 ・関東大学ラグビーリーグ1 部優勝争いに絡む活躍を見せるラグビー部の応援バスツアーを開催しました。同リーグ最終戦（対法政大学戦・11 月 25 日・参加者数 31 名） ・関東サッカーリーグのジョイフル本田つくばFC 主催試合「VS 流通経済大学FC 戦」について、龍ヶ崎市民が無料観戦できるようになり、小学生を対象とした応援バスツアーを開催しました。（7 月 8 日・参加者数 43 名）
	成果・課題等 市内小中学校に在学する児童生徒がいる家庭に対して、「全国トップレベルで活躍する大学生の試合が見れること」を周知し、観戦に訪れる新たな市民を増やすとともに、JFL（日本フットボールリーグ）の試合は、全国からサポーターが訪れることから、今後は、市外からの交流人口の取り組みも踏まえて、流通経済大学との更なる連携強化を進めていきます。

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(1) 流通経済大学と連携したスポーツ施策の推進		
事業No	78	事業名	トップアスリートの育成
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	(1) スポーツ指導者養成講習会 日時：平成31年3月16日(土) 会場：流通経済大学 講師：流通経済大学スポーツ健康科学部助教 大平正軌氏 対象：ジュニアサッカーの指導者 参加者数：12名 内容：実技(実践練習法)と講義(コーチング法) (2) 技術講習会 ・流通経済大学硬式野球部野球教室 日時：11月25日(日) 会場：たつのこスタジアム 対象：小中学生 参加者数：120名 ・バドミントン技術講習会 日時：3月17日(日) 会場：たつのこアリーナ 対象：小中学生 参加者数：59名 (3) 全国大会等出場者への激励金の交付及び表彰 ・激励金交付件数：42件 ・表彰(龍ヶ崎市体育協会)：表彰式 2月16日(土) 表彰対象者(全国規模以上の大会に出場、中学生のみ関東規模の大会以上) 団体：7団体、個人：51人 功労者表彰(指導者)：4人 (4) トップアスリートへの活動支援(施設提供) スポーツクライミング・野口啓代選手の活動支援のため、たつのこアリーナ・メインアリーナにスピード壁設置場所を無償提供するとともに、トレーニング室等のアリーナ施設の無償貸出を行った。 (平成31年1月～令和元年8月予定)
	成果・課題等 今後も流通経済大学や体育協会をはじめとするスポーツ関係団体と相互に緊密な連携を図りながら、トップアスリートと交流できる機会を設けるとともに、講習会等を開催し、選手の技術力向上に努めます。

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(1) 流通経済大学と連携したスポーツ施策の推進		
事業No	79	事業名	スポーツボランティアの充実
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	(1) 多くのボランティアの協力により、市民スポーツ・レクリエーションまつり、龍ヶ崎中学校駅伝競走大会や市民ウォークラリー大会等のスポーツイベントを開催しました。 流通経済大学学生 スポレクまつり・中学校駅伝大会等では部活動及びゼミ単位で学生の協力を得ました。 スポーツ団体 スポレクまつり、市民ウォークラリー大会等の企画・運営等で協力を得ました。 企業 スポレクまつりでは多くの企業に協賛をいただき、東京ガスは障がい者スポーツの普及を図ることを目的に、ボッチャ・めかくしランニングのブースを担当しました。
	(2) スポーツボランティアに対する研修会を開催しました。 市内スポーツ団体を対象にAED講習会を開催し、スポーツ活動中の事故等に対応できるボランティアの養成をしました。 開催日：H31.2.2 参加者：14名
成果・課題等	今まで、流通経済大学やスポーツ団体のボランティアにより市のスポーツイベントを開催してきましたが、今後は、茨城国体やマラソン大会をはじめとする大規模スポーツイベントの運営に向けてスポーツボランティアの育成や募集・派遣のための新たな仕組みを構築し、多くの市民がボランティアとして活躍できる環境を整備します。

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(2) スポーツを支える環境の整備		
事業No	81	事業名	スポーツ施設の充実
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	総合運動公園をはじめとする市のスポーツ施設について、高水準の機能・設備を備えた施設としての充実を図るとともに、改修及び備品の更新をしました。 【平成30年度実績】 ①総合運動公園誘導サイン改修工事 総合運動公園内のアリーナ・フィールド・スタジアムの案内看板の更新。 (英語表記+ピクトグラム) ②たつのこアリーナ たつのこアリーナ LED 化工事及び風除室改修工事 プールウォータースライダー修繕 バスケット電光得点板の改修 プール更衣室水着用脱水機 2 台 コインロッカー更新 100 台 プールフロア更新 48 台 券売機システムリース (H30.10～H35.9) 有酸素系トレーニングマシンのリース (H27.8～H32.7) ③たつのこフィールド サッカーゴール(埋込式) 1 対 購入 ハードル 85 台 ハードル運搬車 10 台 更新 ④高砂体育館 高砂体育館の照明 LED 化工事
	総合運動公園をはじめとする市のスポーツ施設について、指定管理者と連携を図り利用者の視点に立った利用しやすい施設整備の充実に努めます。 令和元年度は、たつのこアリーナのトイレ更新工事(トイレの洋式化)や龍ヶ岡公園テニスコートの人工芝化工事及び夜間照明設備設置工事等を行い、今後も計画的に利用者の利便性や機能の充実を図ります。

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(2) スポーツを支える環境の整備		
事業No	82	事業名	スポーツボランティアの充実【再掲】
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	(1) 多くのボランティアの協力により、市民スポーツ・レクリエーションまつり、龍ヶ崎市中学校駅伝競走大会や市民ウォークラリー大会等のスポーツイベントを開催しました。 流通経済大学学生 スポレクまつり・中学校駅伝大会等では部活動及びゼミ単位で学生の協力を得ました。 スポーツ団体 スポレクまつり、市民ウォークラリー大会等の企画・運営等で協力を得ました。 企業 スポレクまつりでは多くの企業に協賛をいただき、東京ガスは障がい者スポーツの普及を図ることを目的に、ボッチャ・めかくしランニングのブースを担当しました。
	(2) スポーツボランティアに対する研修会を開催しました。 市内スポーツ団体を対象にAED講習会を開催し、スポーツ活動中の事故等に対応できるボランティアの養成をしました。 開催日：H31.2.2 参加者：14名
成果・課題等	今まで、流通経済大学やスポーツ団体のボランティアにより市のスポーツイベントを開催してきましたが、今後は、茨城国体やマラソン大会をはじめとする大規模スポーツイベントの運営に向けてスポーツボランティアの育成や募集・派遣のための新たな仕組みを構築し、多くの市民がボランティアとして活躍できる環境を整備します。

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(2) スポーツを支える環境の整備		
事業 No	83	事業名	スポーツ情報発信の充実
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	市のスポーツ施設の利用案内とともに、スポーツ教室、スポーツイベントなどの情報を提供しました。 (1) 広報紙「りゅうほー」による情報提供 月2回発行する広報紙に施設情報やスポーツイベント・教室等を掲載し、利用者への周知を図りました。 (2) 市公式サイトによる情報提供 ホームページは広報紙に比べ情報量を多く取り扱うことができ、また随時情報を更新できるため、市の公式サイトではイベント・スポーツ教室等詳細な案内を提供することができました。 (3) 地方情報誌による情報提供 スポレクまつり等のイベントやスポーツ教室の周知に新聞折り込みを活用し、より多くの方へ情報を提供しました。 スポーツ団体に関する情報提供の推進 総合型地域スポーツクラブ「クラブ・ドラゴンズ」、体育協会、スポーツ少年団、レクリエーション協会加盟団体の団員募集や活動内容について市広報紙「りゅうほー」や市公式サイトに掲載し幅広い情報提供をしました。
	成果・課題等 施設の利用案内、スポーツイベントやスポーツ教室等を市公式サイト等へ掲載することにより市内外の方に広く周知することができました。今後は市民が求める情報をさらにかわりやすく市公式サイトへ掲載できるよう努めていくとともに、フェイスブック等のSNSや指定管理者が発行するチラシ、スポーツイベントのポスター等、あらゆる年代の方がスポーツに関する情報を入手しやすいよう配慮して情報発信をしていきます。

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(3) 身近でスポーツに親しむ機会の充実		
事業No	84	事業名	スポーツ教室・イベントの充実
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	各種大会やイベントを定期的に行い、市民のスポーツ参加機会の提供と気軽にスポーツに親しむ意識を高めるなど、スポーツ人口の拡大に努めました。 【平成30年度実績】 各種大会・イベント等事業数：13事業 参加人数：8,343名 指定管理者によるスポーツ教室参加人数：47,895名 (1) 各種大会・イベント等事業 ①市民ウォークラリー大会：297名 82チーム（5月6日） ②市民スポーツフェスティバル：3,245名（9月～12月） ③市民スポーツ・レクリエーションまつり：2,500名（10月7日） ④ニュースポーツ体験教室：57名（10月27日） ⑤第12回中学校駅伝競走大会：210名（12月15日） ⑥スポーツ少年団本部交流大会：300名（3月3日） ⑦県民駅伝競走大会：13名（12月8日） ⑧少年少女陸上教室：41名（7月21日、22日、27日、28日、29日） ⑨スポーツ技術講習会：179名（野球：11月25日、バドミントン：3月17日） ⑩スポーツ指導者養成講座：12名（サッカー：3月16日） ⑪レクリエーション協会バウンドテニス大会他4事業：725名（7月～2月） ⑫市民ユニカール大会：58名（2月23日） ⑬フィットネスウォーキング（総合型地域スポーツクラブの交付金事業）：延べ600名（通年） ⑭ランニングクリニック（総合型地域スポーツクラブの交付金事業）：106名（11月3日） (2) 指定管理者によるスポーツ教室 コース型教室や1回単位で参加できる教室、また最新のレスミルズを導入し、様々な年代に対応した教室を展開している。 ①レスミルズ・ラディカルプログラム教室（グループフィットネスプログラム） ②子ども向け教室：水泳教室 体操教室 ダンス教室 Jrバスケット教室等 ③高齢者向け健康教室：体力アップ教室 体幹トレーニング バランスボール等 ④コース型教室：キックボクシングエクササイズ エアロビクス アクアビクス ヨガ等
成果・課題等	スポーツの各種大会やイベントを定期的に行うことにより、市民のスポーツ参加への機会を提供しました。こうした大会やイベントをきっかけにさらに深くスポーツに関わっていく子どもたちもいます。今後も誰もが気軽に参加できるスポーツの場を提供し、スポーツ人口の拡大を図ります。 指定管理者によるスポーツ教室は、子どもから高齢者まで幅広い年齢層にあった教室を展開しています。今後はアリーナだけでなくフィールド等の活用も検討していきます。

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(3) 身近でスポーツに親しむ機会の充実		
事業 No	85	事業名	スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブの支援
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	【スポーツ少年団の継続的活動に向けた支援】 スポーツ少年団の団員募集や指導者の育成支援をするとともに、活動拠点の確保や大会の開催・出場を支援するなど、スポーツ少年団が継続的に活動できるよう支援しました。 (1) バスの賃借料の支援 大会に出場するスポーツ少年団を対象に、年に1回を限度として、バスの賃借料を補助しました。 12件 1,305,502円 (2) 学校体育施設夜間開放の使用料の免除 活動拠点の確保を目的に、市内小中学校体育館の夜間開放使用料を免除しました。 (3) スポーツ施設の使用料の減免 大会開催を対象に総合運動公園及びテニスコートの施設使用料を減免しました。 (4) スポーツ少年団本部交流大会開催への支援 目的：スポーツ少年団加盟団体相互の交流と親睦を深め、スポーツを通して青少年の健全育成を図りました。 期日：H31.3.3 内容：長縄跳び 綱引き 参加者数：市内各スポーツ少年団 団員 300名 【総合型地域スポーツクラブの支援】 総合型地域スポーツクラブ「クラブ・ドラゴンズ」の会員募集や認知度向上を支援するとともに、活動拠点の確保を支援しました。また、市の交付金事業として2事業を実施しました。 (1) クラブの活動内容の市民への周知 クラブの活動内容を広報紙や市の公式サイトへ掲載し、市民へ周知しました。 (2) クラブの活動場所の提供 活動場所・練習場所を提供し、市民へのスポーツ機会の充実を図りました。 (3) クラブによる交付金事業の実施 フィットネスウォーキング講座 ポールを使い良いフォームで歩くウォーキングの指導 参加者数 延べ600名（通年） ランニングクリニック 谷川真理氏を講師として子どもから大人まで楽しく走るクリニックを開催 期日 H30.11.3 参加者数 106名
	成果・課題等 少子化の進行に伴い、スポーツ少年団員の確保が難しくなり、活動を縮小する少年団も見受けられます。今後も継続して団員募集の支援や活動拠点の確保等を支援していきます。総合型地域スポーツクラブとの連携強化を図るとともに、運営支援や活動拠点の確保などにより、幅広い年齢層が活動できるよう事業の拡大と総合型地域スポーツクラブの自立的運営と質的充実を促進していきます。

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(3) 身近でスポーツに親しむ機会の充実		
事業 No	86	事業名	ニュースポーツの推進
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	(1) ニュースポーツの研究 スポーツ推進委員協議会内に、龍ヶ崎市内で新たに普及させるニュースポーツの種目を検討するワーキンググループを設置しました。 (2) ニュースポーツ各種大会・イベントの実施 各種大会・イベント等事業数 6 事業 " 参加者数 6,882 名 スポーツ推進委員やレクリエーション協会との連携を図りながら、年齢・体力・性別を問わず気軽に楽しめるニュースポーツの体験教室や大会を開催しました。 ①市民ウォークラリー大会：297 名 82 チーム (5/6) ②ニュースポーツ体験教室：57 名 (10/27) ③レクリエーション協会バウンドテニス大会他 4 事業 : 725 名 (7 月～2 月) ④市民ユニカール大会：58 名 (2/23) その他、市民スポーツフェスティバル・市民スポーツ・レクリエーションまつりにおいてもイベントの一部でニュースポーツを実施しました。 ⑤市民スポーツフェスティバル：3,245 名 (9 月～12 月) インディアカ・バウンドテニス等 ⑥市民スポーツ・レクリエーションまつり：2,500 名 (10/7) ユニカール・スポーツ吹矢等
	成果・課題等 市民意識調査において市のスポーツ振興施策に必要と思われるものとして「年齢にあったスポーツの開発・普及を進める」と回答した方の割合が 38.8% で 2 番目に多く、誰もが楽しむことができる多様なニュースポーツの研究及び普及が課題です。 スポーツ推進委員やレクリエーション協会等で様々なニュースポーツ大会及び体験教室を開催していますが、今年度よりスポーツ推進委員がニュースポーツの研究を行い、身近な施設で実施可能な新たな競技を検討しています。今後は、コミュニティセンター単位の地域ごとにニュースポーツを普及し、スポーツ未実施者の掘り起こし等を行っていきます。

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(4) 競技力の向上		
事業 No	87	事業名	スポーツ指導者の育成
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	(1) スポーツ指導者養成講習会の開催 指導者の養成と資質向上を図るため、流通経済大学の先生を講師とした講習会を開催しました。 講師：流通経済大学スポーツ健康科学部 助教 大平正軌氏 期日：H31. 3. 16 内容：実技（実践練習法）と講義（コーチング法） 参加者数：ジュニアサッカーの指導者 12 名 (2) スポーツ功労賞・優秀賞表彰式の開催 体育協会加盟団体の各スポーツ競技の普及・振興に尽力されている功労者と各種スポーツ大会で活躍した団体及び個人に対して表彰をしました。 期日：H31. 2. 16 内容：優秀賞 7 団体・個人 51 名・功労者 4 名（水泳協会・野球協会・弓道部・バドミントン部）の指導者に対して表彰しました。 (3) スポーツ少年団本部功労者表彰の開催 スポーツ少年団活動において長年指導で功績のあった個人について「スポーツ少年団本部交流大会」の中で表彰をしました。 期日：H31. 3. 4 内容：スポーツ少年団本部交流大会時に教育長賞 3 名（龍ヶ崎剣道・龍ヶ崎柔道）・特別功労賞 5 名（龍ヶ崎剣道・龍ヶ崎柔道）・功労賞 13 名（龍ヶ崎剣道・龍ヶ崎柔道・だっぺクラブ・久保台ブルズ・馴染サッカー・龍ヶ崎ペレグリンジュニア F C）の表彰を行いました。
	指導者の資質向上を図るため、流通経済大学の知見を活用した講習会を開催していますが、指導者の固定化や高齢化などもあり参加者が減少傾向にあります。今後次代を担う指導者の養成・資質の向上を計画的に進めていく必要があります。
成果・課題等	

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(4) 競技力の向上		
事業No	88	事業名	トップアスリートの育成【再掲】
担当課	スポーツ都市推進課		

実施状況	(1) スポーツ指導者養成講習会 日時：平成31年3月16日(土) 会場：流通経済大学 講師：流通経済大学スポーツ健康科学部助教 大平正軌氏 対象：ジュニアサッカーの指導者 参加者数：12名 内容：実技(実践練習法)と講義(コーチング法) (2) 技術講習会 ・流通経済大学硬式野球部野球教室 日時：11月25日(日) 会場：たつのこスタジアム 対象：小中学生 参加者数：120名 ・バドミントン技術講習会 日時：3月17日(日) 会場：たつのこアリーナ 対象：小中学生 参加者数：59名 (3) 全国大会等出場者への激励金の交付及び表彰 ・激励金交付件数：42件 ・表彰(龍ヶ崎市体育協会)：表彰式 2月16日(土) 表彰対象者(全国規模以上の大会に出場、中学生のみ関東規模の大会以上) 団体：7団体、個人：51名 功労者表彰(指導者)：4名 (4) トップアスリートへの活動支援(施設提供) スポーツライミング・野口啓代選手の活動支援のため、たつのこアリーナ・メインアリーナにスピード壁設置場所を無償提供した。 (平成31年1月～令和元年8月予定)
成果・課題等	今後も流通経済大学や体育協会をはじめとするスポーツ関係団体と相互に緊密な連携を図りながら、トップアスリートと交流できる機会を設けるとともに、講習会等を開催し、選手の技術力向上に努めます。

(3) 国体推進課

施策名	5 スポーツの推進		
施策の内容	(4) 競技力の向上		
事業 No	90	事業名	スポーツによる交流人口増加
担当課	国体推進課／秘書課		

実施状況	【いきいき茨城ゆめ国体】 「いきいき茨城ゆめ国体龍ヶ崎市実行委員会」において、総会及び常任委員会、専門委員会等の会議を開催し、各種要項を定めたほか次のとおり国民体育大会開催の準備を進めました。 ①要項等の策定 大会報告書編成方針／総合案内所設置運営要項／休憩所設置運営要項／ふるまい実施計画／売店設置要項／輸送交通業務実施要項／警備・消防防災業務実施計画 ②リハーサル大会の実施 開催日：平成30年8月19日（日） 場 所：龍ヶ崎市総合体育館たつのこアリーナ 参加者数：選手・監督96人、競技会役員等376人、視察員64人、一般観覧者1,033人 備 考：第73回国民体育大会関東ブロック予選をリハーサル大会として実施 ③主なPR用品 ポケットティッシュ(16,000)、ウェットティッシュ(8,000)、うちわ(7,000)、ホッカイロ(2,000)、PRポスター(1,400)、缶バッジ(1,400)、ピンバッジ(600)、ミニのぼり旗(200)、LEDライトキーホルダー(200)、のぼり旗(93)、缶バッジマシーン、佐貫駅横断幕 ④茨城県との調整・報告事項 競技役員等最終編成調査／大会参加章・記念章に係る必要数調査／競技会場地輸送調査（第3次）／炬火イベント実施調査（最終）文化プログラム調査／花いっぱい運動に係る花苗等の要望調査／仮宿舎計画（第3次）／競技別実施要項の策定 【スポーツツーリズム】 平成30年度はオセアニア地域柔道チームの代表候補選手6名が本市で強化合宿を実施した。合宿期間中は、選手団の受け入れ組織として平成30年9月に設立された市民団体「龍ヶ崎市スポーツ交流協会」が中心となり、流通経済大学、スポーツツーリズム担当の地域おこし協力隊と連携し、歓迎レセプションや地元柔道少年団等との交流事業などを実施し、2020年オリンピック東京大会に向けて市民の機運醸成が図れた。 また、スポーツによる地域活性化を目的に、北海道日本ハムファイターズと筑波大学、茨城県南・県西の自治体により設立された「北海道×茨城県プロジェクト」に本市も参画し、加盟団体と共に本市のスポーツ振興及び交流人口の増加に努めている。 その取り組みのひとつとして、多くの集客が望めるプロ野球イースタン・リーグ公式戦を、令和元年度たつのこスタジアムにて開催することが決定した。 【主な活動】 ●2020年オリンピック東京大会時事前キャンプ招致国との交流事業実施 ●プロ野球（BCリーグ、NPBイースタン・リーグ）公式戦の招致・開催決定 ●既存スポーツイベントへの協力	
	【いきいき茨城ゆめ国体】 本年10月に国体柔道競技が開催されます。予算の拡充や、競技団体や関係団体等との連携により、適切な柔道競技の進行と来龍者へのおもてなしの充実が望めます。 総合運動公園の延べ利用者数（利用者＋観覧者数）：374,289人 【スポーツツーリズム】 選手団とスポーツ少年団等との交流事業を通して2020年オリンピック東京大会に向けての機運醸成が図られた。引き続き、スポーツ交流協会で強化合宿等の受け入れを行いながら、関係者のみならず一般市民に対しても事業に対する更なる周知を図っていききたい。交流人口の増加を目的とした取り組みとしては、プロ野球イースタン・リーグ公式戦等の招致に成功した。各イベント等で市の魅力を発信しながら、今後もスポーツイベント等の招致活動を行い、本市の活力へと繋げていきたい。 事前キャンプの誘致チーム数：3チーム	

【令和元年度事業計画】

1 第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン (主 要 施 策)

(1) 文化・生涯学習課

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～				
	1	子育て環境日本一【重点目標】				
	1	「子どもと住みたい龍ヶ崎」の実現				
	学童保育ルームの充実					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	保育需要や保護者のニーズに対応した適正なサービス量を確保し、放課後等における学童保育の充実を図ります。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.A-1-2 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-1					
今年度の取組内容	(1) 入所児童数に応じた支援員等の配置及び備品等の整備を進める。 (2) 保育ルーム支援員等に対しスキルアップのための研修を行い、充実した保育環境の整備を進める。 (3) 保育ルームの管理運営に関し、安定した人材確保や労務管理のため、民間事業者への業務委託を行う方針のもと準備を進める。【ブレイクダウン事業】 ・庁議及び市議会説明、予算確保、プロポーザル準備(5～6月) ・プロポーザル選定委員会の設置、保護者、支援員等説明(7～8月) ・プロポーザルの実施(9月) (公表・要領配布・申請書受付・プレゼンテーション) ・選定委員会により業者決定(10月) ・契約締結(11月) ・引継ぎ・準備期間(12～3月)					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	158,509,106	0	0	0	0
	事業費	142,547,573	0	0	0	0
	人件費	15,961,533	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	2,047	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	35,498,000	0	0	0	0
	県 支出金	31,654,000	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	45,082,550	0	0	0	0
一般財源	46,274,556	0	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当ではまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性	☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦略 目標 施策 事業名	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～					
	2	住んでみたいと感じるまちづくり					
	2	特色ある教育環境の創造					
	多様な学習機会の提供						
担当課		文化・生涯学習課／指導課					
事業の概要・目的		アフタースクールやサタデースクール、サマースクールなど、多様な学習機会を提供します。					
関連計画等での位置付け		龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.B-3-2 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-3-2					
今年度の取組内容		(1) アフタースクール・サタデースクールの実施に係る基本方針に伴い、学習活動や体験活動等ができる場を提供する。スクールに通うことが楽しいと感じる子どもが増え、自主学習の定着が図られるよう、実施回数や学習プログラム、所要予算を調整し、事業の適否を検討する。対象学年：第3学年～第6学年 (2) 民間事業者のノウハウを活かし、児童の自主性・社会性を育むとともに、子どもの居場所としての機能を発揮したスクール運営を行う。 (3) アフタースクール・サタデースクールに通わせたいと感じる保護者が増え、満足度が向上することを目指す。(アンケートの実施)					
コスト情報		費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
		総額(円)	16,516,930	0	0	0	0
		事業費	10,254,510	0	0	0	0
		人件費	6,262,420	0	0	0	0
		市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	213	0	0	0
		財源内訳(円)					
		国支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	3,024,000	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
		一般財源	13,492,930	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要				
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	4	龍の子の生きる力を育むまちづくり				
施 策	3	魅力があり、信頼される学校づくりの推進				
事業名	教育の日推進事業の充実					
担当課	文化・生涯学習課／指導課					
事業の概要・目的	11月5日「龍ヶ崎教育の日」、11月の「龍ヶ崎教育月間」を中心に龍ヶ崎教育の日推進事業を展開することで、市民の教育に対する関心と理解を深めるとともに、明日の龍ヶ崎市を担う心豊かでたくましい子どもを育成します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業№.1-3-3、2-1-4					
今年度の取組内容	(1) 実行委員会の開催(5月～2月) 教育の日推進事業の事業内容及び役割分担などについて、庁内関係課の職員及び関連団体で構成される実行委員会を開催し、協議を行う。 (2) 周知活動の実施(9月～11月) 広報紙、市公式ホームページなどに教育の日推進事業について掲載する。 市内の公共施設や教育施設には、ポスター・横断幕及びのぼり旗などを設置し、教育の日推進事業の周知活動を行う。 (3) 教育の日推進事業の展開(11月) 実行委員会での協議をふまえ、教育の日推進事業を展開する。 平成31年度予定実施事業:市内小中学校等の自由参観、作品募集、たつのこプロジェクトの基本テーマに基づく、地域貢献活動など。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	4,619,227	0	0	0	0
	事業費	266,082	0	0	0	0
	人件費	4,353,145	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	60	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	4,619,227	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	1	家庭の教育力の向上				
事業名	各種セミナーの開催					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	子どもを持つ親たちの学習や交流の場の提供として、子育てふれあいセミナーを開催します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-1-1					
今年度の取組内容	子育てふれあいセミナーの開講 - 年間5回の開催・・・全体研修(講演会)、移動学習等 - 事業の周知・情報発信を行い、各学校の担当役員のみならず、多くの受講生確保に努める。 - 講演会は、受講者となる児童の保護者の子育ての悩みを解決する一助となる内容とする。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	2,552,279	0	0	0	0
	事業費	2,017,682	0	0	0	0
	人件費	534,597	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	33	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	2,552,279	0	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	1	家庭の教育力の向上				
事業名	相談体制の充実					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	家庭教育の悩みなどに対して、家庭教育指導員による家庭教育相談を実施します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-1-2					
今年度の取組内容	(1) 相談者の相談内容に応じて、適切なアドバイスを行うなどで心配ごとの解消に努める。 … 相談は平成29年度実績が延べ4件のところ、平成30年度実績は延べ27件(ケース件数としては2件)と大幅増となっている。 (2) 関係機関との連絡調整を行う。 … 龍の子支援会議による情報の共有化					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	2,323,166	0	0	0	0
	事業費	2,017,682	0	0	0	0
	人件費	305,484	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	30	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	2,323,166	0	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	2	幼児教育の充実				
事業名	子どもの読書活動の推進					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	子ども読書活動推進計画(第3次)に基づき、幼児期における読み聞かせや読書の重要性の周知を図り、子どもが自主的に読書に取り組む環境整備を進めます。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-1-3					
今年度の取組内容	(1) 中央図書館司書による小学校等への出前講座の実施 小学校や保育ルームに出前講座の実施を募り、要望に合わせて出前講座を実施する。 4月～6月 出前講座の募集 7月 日程調整 7月～3月 出前講座実施 (2) 中央図書館における子ども向けイベントの充実 定期的に行っているおはなし会等のほか、子どもを対象としたイベントを実施する。 ・子ども司書講座(2期) ・赤ちゃんタイムにおけるイベント ・プログラミング講座(新規)					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	1,870,064	0	0	0	0
	事業費	1,717,322	0	0	0	0
	人件費	152,742	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	24	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	1,870,064	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	4	子どもの交流と活動の促進				
事業名	子どもの交流・活動拠点の充実					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	たつのこやま管理棟の施設を利用して、サポーターやボランティアの見守りにより、子どもたちの自由な発想を育む空間を提供します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-1					
今年度の取組内容	(1) サポーターやボランティアの見守りのもと、たつのこやま管理棟を子どもたちが自由な発想で活動することができる場として提供する。 (2) たつのこプレーパーク「たつのこ遊んじゃ王」を開催し、子どもたちが安全に楽しく遊べる場の提供を行う。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	2,972,219	0	0	0	0
	事業費	2,284,880	0	0	0	0
	人件費	687,339	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	38	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	2,972,219	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	5	子どもの健やかな成長と自立心を育むまちづくり				
施 策	4	子どもの交流と活動の促進				
事業名	子どもの地域活動への参加促進					
担当課	文化・生涯学習課／指導課					
事業の概要・目的	子どもの地域活動への参加を促し、青少年の健全育成を図ります。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.2-4-3					
今年度の取組内容	(1) 青少年育成龍ヶ崎市民会議と連携し、学校を通じて子どもたちに市内一斉清掃への参加を呼びかけるとともに、参加者にはまちづくりポイント制度のポイントシールを配付するなどの方法により、子どもたちの地域活動等への参加を促す。 (2) 「特色ある取組」、「学力向上」、「連携」を重視した地域社会の教育力を有効活用した教育活動の展開 (3) 地域行事への積極的な参加や地域人材を活用した教育活動や体験活動を通しての地域社会の一員としての自覚や感謝、思いやりの心の育成と地域と一体となった学校づくり					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	1,132,823	0	0	0	0
	事業費	140,000	0	0	0	0
	人件費	992,823	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	15	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	1,132,823	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
施 策	1	生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進				
事業名	第九コンサート					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	市の音楽団体を中心とした実行委員会を設立し、一般市民から団員を募り、日本の代表的音楽家とともに第九コンサートを開催し、当市の音楽文化の振興を図ります。					
関連計画等での位置付け						
今年度の取組内容	(1)実行委員会の設立・開催 ・第1回実行委員会開催(H31年2月23日) ・4月から、必要に応じて招集(7回程度を予定) (2)団員の募集 ・団員募集に伴う広報活動(H31.3月～) ・市広報紙による周知、SNSによる拡散、実行委員による勧誘 ・申込受付開始(4月5日) (3)コンサート開催 ・広報活動(4月～12月 随時) ・市広報紙による周知、SNSによる拡散、各種イベント開催に合わせてチラシを配置・配布 ・結団式(5月12日)・練習開始(全22回予定) ・チケット販売(9月～) ・指揮者・オーケストラとの契約(10月) ・演奏会 12月15日(ゲネプロ 12月14日) ・解団式(1月)					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	0	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	0	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
施 策	1	生涯学習環境の充実と人権教育・啓発の推進				
事業名	人権啓発活動の充実					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	人権尊重について、身近で大切なものと感じ、理解を深めることのできる啓発を行います。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.3-3-1					
今年度の取組内容	○ 人権啓発に係るパネル展の開催 人権週間に合わせて、中央図書館2階または市庁舎1階ホールにおいて、人権啓発に関するパネル展示を行う。 (パネルは公益財団法人 人権教育啓発推進センターが所蔵するものを借用する)					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	235,309	0	0	0	0
	事業費	6,196	0	0	0	0
	人件費	229,113	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	3	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	235,309	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
施 策	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実				
事業名	市民遺産の認定					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	指定文化財以外で、市民に親しまれている身近な自然や歴史的・文化的な遺産を、「龍ヶ崎市民遺産」として認定し、市民の地域に対する誇りや愛着の醸成を図ります。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-2-2					
今年度の取組内容	1 認定候補物件の公募(5月～9月) ・市民に向け、広報紙や公式ホームページ等を通して周知する 2 候補物件についての調査(5月～10月) ・市史等の文献や関係者への聞き取りなどにより調査を行う 3 文化財保護審議会への諮問・会議の開催(11月) 4 教育委員会定例会への議案提出(12月)					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	3,528,651	0	0	0	0
	事業費	1,084,780	0	0	0	0
	人件費	2,443,871	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	46	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	3,528,651	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	□妥当である □概ね妥当である □妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	□有効である □概ね有効である □有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	□現行どおり □見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
施 策	2	文化財の保存・活用と文化芸術に親しむ機会の充実				
事業名	歴史的資源などの活用					
担当課	文化・生涯学習課					
事業の概要・目的	指定文化財や市民遺産などの資源を活用し、その他の地域資源と組み合わせた散策・観光コースを提案するなど、魅力的な環境づくりを推進します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.4-2-3					
今年度の取組内容	1 「国指定重要文化財『絹本着色十六羅漢像(複製)』公開展」の実施(開催時期:5月) ・平成29年度/30年度に作製した計8幅の掛軸を歴史民俗資料館で公開展示 2 国指定重要文化財「絹本着色十六羅漢像」の複製(4幅) ・平成29年度/30年度に引き続き、第9尊者～第12尊者の掛軸を複製する 3 旧竹内農場赤レンガ西洋館の一般公開に向けた環境整備【ブレークダウン事業】 ・竹内農場や赤レンガ西洋館の建物に関する説明板の設置 ・見学者の安全確保のためのフェンス設置 ・敷地内に砕石敷きの仮駐車スペースを整備 4 歴史的・文化的資源活用のための庁内連携組織の結成【ブレークダウン事業】 (1) 庁内連携組織の設置要領を作成する(6月) ・組織の業務内容の決定/組織を構成する課等の検討/小学校との連携方法の検討 (2) 庁内連携組織の結成(7月) ・組織を構成する課等へ委員推薦を依頼/第1回会議の開催(具体的な取組内容の検討)					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	305,484	0	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	305,484	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	4	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	305,484	0	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

ブレイクダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	祭礼等の保存継承	【文化・生涯学習課】	令和元年度
------------	----------	------------	-------

1 主要事業の概要

目 的	市内で続いている祭礼等を貴重な地域資源と捉え、これらを調査し、記録保存する
内 容	市内の祭礼等の有無を悉皆調査して全体を把握し、その後に行う内容調査の計画を策定する

2 取組内容

今年度の取組内容	1 周知(6月) ・市民に向け、広報紙等を通して祭礼等の分布調査を開始することについて周知する。 ・コミュニティセンター長会議等を通じた調査協力依頼 2 調査方法(7月～1月) ・調査区域 … 龍ヶ崎、駒柴、八原、川原代、北文間、長戸、大宮の地区別とする。 ・調査方法 … 区長・自治会長等を通して祭礼等に詳しい人物の紹介を受けて聞き取り調査を行う。 ・調査事項 … 聞き取り調査によって現在も実施されている祭礼等の分布状況を把握する。 (組織形態、開催日、祭礼の概要等) 3 分布状況調査報告書作成(2、3月) ・次年度以降の詳細調査を行う対象となる祭礼等の一覧を作成する。
----------	--

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	0	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口) 77,433	0	0	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び事業推進上の課題	
----------------	--

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略 目 標 施 策	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～					
	2	住んでみたいと感じるまちづくり					
	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進					
事業名	総合型地域スポーツクラブの支援						
担当課	スポーツ都市推進課						
事業の概要・目的	クラブの活動や実施事業を広報紙や市公式ホームページに掲載し、活動状況の周知を図るとともに、活動場所・練習施設等の支援を行います。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-3-2						
今年度の取組内容	(1) 総合型地域スポーツクラブの活動内容の市民への周知 クラブの活動を市の広報誌やホームページに掲載し、市民に広く周知する。 (2) 総合型地域スポーツクラブの活動場所の連携協力 活動場所・練習場所について連携協力し、市民へのスポーツ機会の充実に図る。 (3) 総合型地域スポーツクラブ(クラブ・ドラゴンズ)の交付金事業 ・龍ヶ崎市小学校陸上記録会直前合同練習会(小学校5年生/6年生対象) たつのこフィールドにて実施 4/22・4/26・5/8・5/10・5/13 ・中学校部活動コンディショニングレクチャー(中学校運動部活動対象) 各中学校運動部活動を拠点に実施 ・ランニングクリニック 11/2実施予定 たつのこフィールドにて、ゲストを招いてランニングフォームや身体の動かし方の指導を実施 ・ウォーキング講座(中・高齢者対象) 各コミュニティセンターを拠点にウォーキングコースをまわり、ウォーキングフォームや身体の動かし方の指導を実施						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		381,855	0	0	0	0
	事業費		0	0	0	0	0
	人件費		381,855	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口) 77,433		5	0	0	0	0
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		381,855	0	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当ではまる事項に ■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	□妥当である □概ね妥当である □妥当でない				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	□有効である □概ね有効である □有効でない				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	□現行どおり □見直しが必要				
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～					
	2	住んでみたいと感じるまちづくり					
	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進					
	事業名	トップアスリートの育成					
担当課	スポーツ都市推進課						
事業の概要・目的	トップアスリートを育成するための環境整備を行います。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.B-4-2 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-1-2、5-4-2						
今年度の取組内容	優れた資質を有する競技者やトップレベルを目指している競技者に対し、高度な指導ができるよう指導者の育成に努める。また、競技者の競技力向上を図るため技術講習会を開催するとともに、全国大会等へ出場する選手への支援・応援を行う。 (1) スポーツ指導者養成講習会の実施 (2) 技術講習会等の実施 (3) 全国大会等出場者への激励金の交付及び表彰 (4) 活動支援として市総合運動公園(たつのこアリーナ)等の施設提供						
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	
	総額(円)	2,464,164	0	0	0	0	
	事業費	1,242,228	0	0	0	0	
	人件費	1,221,936	0	0	0	0	
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	32	0	0	0	
	財源内訳(円)						
	国支出金	0	0	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	0	0	
	起 債	0	0	0	0	0	
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0	
一般財源	2,464,164	0	0	0	0		
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等			
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要				
今後の方向性	☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止						

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	4	龍の子の生きる力を育むまちづくり				
施 策	1	知・徳・体のバランスのとれた教育の推進				
事業名	部活動の活性化					
担当課	スポーツ都市推進課／教育総務課／指導課					
事業の概要・目的	部活動に所属する生徒の技術向上及び部活動の活性化を図るため、外部指導員の配置を行うとともに、教員の長時間労働の負担軽減を図ります。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.1-1-3-2					
今年度の取組内容	(1)スポーツ指導者派遣事業 龍ヶ崎市体育協会の市交付金事業として、各中学校にアンケートを実施し、要望のあった学校(部活動)に対して、競技の専門指導者を派遣する。 (2)中学校部活動コンディショニングレクチャー事業 総合型地域スポーツクラブ(NPO法人クラブ・ドラゴンズ)の市交付金事業として、競技力向上につながるコンディショニングの専門知識を有する指導者を各中学校部活動へ派遣する。 (3)運動部活動の県南・県大会等の出場に係るバスの借り上げや、公的機関等が主・共催する大会に国・県代表として出場する場合の経費補助など、支援体制の充実を図る。 (4)運動部活動の在り方に関する指導方針に則りフォローアップを進めていく。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	1,009,583	0	0	0	0
	事業費	398,615	0	0	0	0
	人件費	610,968	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	13	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	1,009,583	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当ではまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	□妥当である □概ね妥当である □妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	□有効である □概ね有効である □有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	□現行どおり □見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	2	教育環境の向上～まちづくりを担う人づくり～				
目 標	6	生涯にわたり学び、文化やスポーツに親しめるまちづくり				
施 策	3	スポーツ環境の充実				
事業名	流通経済大学運動部との連携					
担当課	企画課／スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	流通経済大学運動部応援ツアーの開催や総合運動公園における公式戦開催への協力、運動部活動の情報発信等を行うとともに、大学運動部と各種団体が連携したイベント開催等を推進し、市民がスポーツに親しむ機会を提供します。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-1-1					
今年度の取組内容	(1)各運動部の公式試合日程等の情報提供 - 総合運動公園イベントスケジュールへの掲載や試合会場等にポスターを掲示するとともに、市広報紙、市公式ホームページ・SNSや佐貫駅デジタルサイネージなどを活用した継続的な試合情報の提供を行い、身近な場所で全国レベルの大学スポーツが観戦できることを積極的に市民に周知する。 (2)市の運動施設の優先貸出 - 市内での公式試合数増加に向けて、大学運動部と調整を図り、市の運動施設の貸出を優先的にを行う。 (3)応援バスツアーの開催 - 全国大会やリーグ戦決勝戦等、市民の関心の高い試合の応援バスツアーを開催する。また、世界大会出場時など現地へ応援に行けない場合の支援として、パブリックビューイングの開催など状況に応じた支援を検討していく。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	1,003,951	0	0	0	0
	事業費	11,128	0	0	0	0
	人件費	992,823	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	13	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国 支出金	0	0	0	0	0
	県 支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	1,003,951	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦略	4	地域力の向上～安全・安心で住みよい環境づくり～				
目標	12	スポーツ健幸日本ー【重点目標】				
施策	1	スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進				
事業名	ニュースポーツの推進					
担当課	スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	年齢や性別を問わずに楽しめるニュースポーツを推進し、市民の健康増進を図ります。					
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-3-3					
今年度の取組内容	スポーツ推進委員やレクリエーション協会との連携を図りながら、ニュースポーツの研究及びニュースポーツ体験教室や大会を開催するなど、ニュースポーツの普及に努める。 (1)ニュースポーツの研究 (2)ニュースポーツ体験教室の実施 (3)ウォークラリー及び各種ニュースポーツ大会の開催					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	2,859,664	0	0	0	0
	事業費	186,680	0	0	0	0
	人件費	2,672,984	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	37	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	2,859,664	0	0	0	0
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	□妥当である □概ね妥当である □妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	□有効である □概ね有効である □有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	□現行どおり □見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

目 標	4	地域力の向上～安全・安心で住みよい環境づくり～				
	12	スポーツ健幸日本ー【重点目標】				
	1	スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進				
施 策						
事業名	マラソン大会開催の推進					
担当課	スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	オリンピックレガシーを活用し、市内外から多くの人が参加できるマラソン大会を開催します。					
関連計画等での位置付け						
今年度の取組内容	(1)マラソン大会実行委員会の設立 (2)開催日程、競技種目、コース・迂回路を専門業者(コンサルタント業者)の助言を得ながら決定し、警察との交通規制等の協議を進める。 (3)市の魅力を発信し、参加者が楽しめる大会となるため、市物産協会等との連携を図る。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	0	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	0	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に ■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性	☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略	4	地域力の向上～安全・安心で住みよい環境づくり～				
目 標	12	スポーツ健康日本一【重点目標】				
施 策	1	スポーツ・運動を通じた健康づくりの推進				
事業名	旧北文間小の跡地を活用したスポーツ拠点の整備					
担当課	財政課／スポーツ都市推進課					
事業の概要・目的	旧北文間小の跡地を活用して、様々なスポーツニーズ等に対応するため、校舎の一部を解体・改修し、スポーツ拠点として整備を行います。					
関連計画等での位置付け						
今年度の取組内容	1. 旧北文間小学校の解体・改修 解体・改修実施設計を行い、利活用に向けた工事に着手する。 2. 活用方策の検討 (1) 事業内容、管理運営方法の検討 (2) 設置管理条例制定に向けた条例案の作成 3. 地域の歴史や魅力の再発見 (1) 長興学校に関する資料の準備 ・学校創設の経緯や創設者の顕彰等に関する資料を収集、整理する。 (2) 展示資料及び展示方法の検討 ・関係各課と連携し、具体的な展示資料や展示方法(場所等)について検討する。 (3) 「長興学校創設に関する展示計画書」の策定(2月) ・上記(1)、(2)をもとに、令和2年度の施設開設に向けた展示計画書を策定する。					
コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	0	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	0	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■	判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	☐ 妥当である ☐ 概ね妥当である ☐ 妥当でない			
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	☐ 有効である ☐ 概ね有効である ☐ 有効でない			
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	☐ 現行どおり ☐ 見直しが必要			
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止				

ブレイクダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	ジュニアアスリートの育成支援	【スポーツ都市推進課】	令和元年度
------------	----------------	-------------	-------

1 主要事業の概要

目 的	ジュニアアスリートを育成するための環境整備を行います。
内 容	ジュニア世代の全体的なレベルアップとトップアスリートの育成に向けた事業を展開する。

2 取組内容

今年度の取組内容	ジュニア世代の全体的なレベルアップを図るため、競技力向上につながる正しい身体の動かし方を学ぶ機会を提供するとともに、競技の専門技術講習会を開催し、あわせて、優れた資質を有する競技者やトップレベルを目指している競技者に対し、高度な指導ができるよう指導者の育成に努める。また、全国大会等へ出場する選手への支援やスポーツ少年団等の活動支援を行う。 (1)小学生陸上記録会合同練習会【新規】 「走る・跳ぶ・投げる」の基本動作を学ぶ講習会を実施。 (2)中学生部活動コンディショニングレクチャー事業【新規】 競技力向上につながるコンディショニングの専門知識を有する指導者を各中学校部活動へ派遣する。 (3)スポーツ指導者養成講習会の実施 (4)技術講習会等の実施 (5)全国大会等出場者への激励金の交付及び表彰 (6)スポーツ少年団等の活動支援として市総合運動公園(たつのこアリーナ等)及び学校体育施設開放事業の施設使用料減免
----------	---

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)	0	0	0	0	0
	事業費	0	0	0	0	0
	人件費	0	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口) 77,433	0	0	0	0	0
	財源内訳(円)					
	国支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	起 債	0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び事業推進上の課題	
----------------	--

(3) 国体推進課

第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン 進行管理シート

令和元年度

戦 略 目 標 施 策 事業名	1	若い世代の希望の実現～若者・子育て世代の定住環境の創出～					
	2	住んでみたいと感じるまちづくり					
	3	大学等と連携した人材育成と生涯学習・生涯スポーツの推進					
	スポーツによる交流人口の増加						
担当課	国体推進課						
事業の概要・目的	国民体育大会の開催(当市は柔道競技)とともに、国民体育大会を機会として交流人口の増加を図ります。						
関連計画等での位置付け	龍ヶ崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業No.B-4-4 龍ヶ崎市教育振興基本計画 事業No.5-4-4						
今年度の取組内容	○目標：茨城国体柔道競技参加者が延べ10,000人以上となっている。 (参加者数は、国体終了後に県に報告するものであり、一般観覧者、視察員、選手・監督に加え、競技役員、係員、補助員、ボランティアなど、柔道競技会に係る全参加者数) ○取組内容 (1) 柔道競技会場で実施するイベント等の充実と周知を図る。 (2) 商工・観光団体等との連携し、地域資源の周知を図る。 (3) 柔道競技の開催日時や場所、交通アクセス等の周知を図る。						
コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		30,628,804	0	0	0	0
	事業費		8,328,481	0	0	0	0
	人件費		22,300,323	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)		77,433	396	0	0	0
	財源内訳(円)						
	国支出金		0	0	0	0	0
	県支出金		637,000	0	0	0	0
	起債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
一般財源		29,991,804	0	0	0	0	
事業評価	評価項目	評価基準	チェック ※当てはまる事項に■		判断理由等		
	必要性	・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	□妥当である □概ね妥当である □妥当でない				
	有効性	・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか ・活動内容は有効なものとなっているか	□有効である □概ね有効である □有効でない				
	効率性	・民間委託等の導入や関連する事業との統合等により、コスト削減は可能か ・人件費削減は可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担等を見直す必要があるか	□現行どおり □見直しが必要				
今後の方向性		☐ 継続 ☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 廃止					

ブレイクダウンに関する進行管理シート

主要事業名【担当課】	茨城国体等のレガシー醸成	【国体推進課】	令和元年度
------------	--------------	---------	-------

1 主要事業の概要

目 的	スポーツの支え手の充実を念頭に、スポーツボランティア活動の誘導等の促進を図る。
内 容	大規模スポーツ大会開催時の留意事項を集約する。

2 取組内容

今年度の取組内容	(1) 国体ボランティア業務における満足度の向上を図る。 (2) 大会終了後にアンケート調査を実施する。(ボランティアや国体来場者を対象に意見等も集約) (3) 競技役員等大会関係者へアンケート調査やヒアリングを実施する。 (4) 上記を踏まえ、今後の大規模スポーツ大会開催時の留意事項(特に、「おもてなし」や「スポーツボランティア活動」を報告書にまとめる。
----------	---

3 コスト情報

コスト情報	費目/年度		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
	総額(円)		0	0	0	0	0
	事業費		0	0	0	0	0
	人件費		0	0	0	0	0
	市民1人あたりの費用 (H29.10/1常住人口)	77,433	0	0	0	0	0
	財源内訳(円)						
	国 支出金		0	0	0	0	0
	県 支出金		0	0	0	0	0
	起 債		0	0	0	0	0
	その他(受益者負担など)		0	0	0	0	0
	一般財源		0	0	0	0	0

4 取組状況及び事業推進上の課題

取組状況及び事業推進上の課題	
----------------	--